

松山市埋蔵文化財調査年報 X

平成 9 年度



1998

松山市教育委員会

(財)松山市生涯学習振興財団
埋蔵文化財センター

松山市埋蔵文化財調査年報 X

平成 9 年度

1998

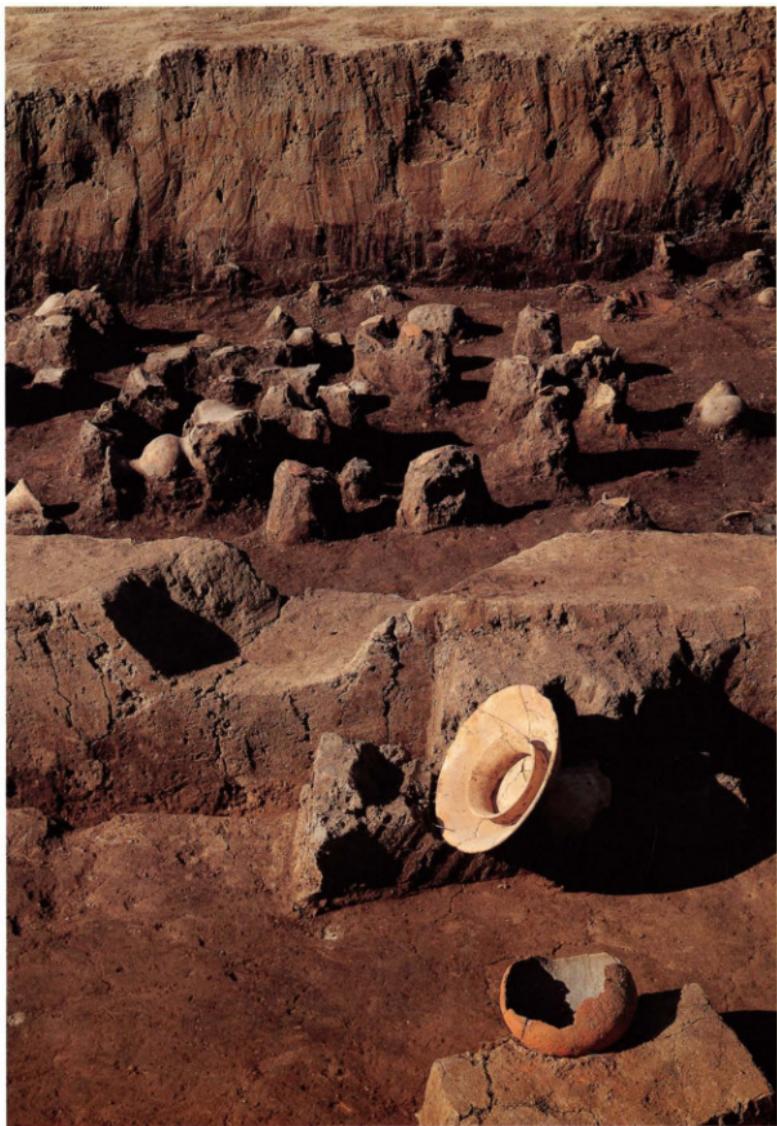
松山市教育委員会
(財)松山市生涯学習振興財団
埋蔵文化財センター



卷頭図版 1 葉在池古墳 2号石室 古墳時代後期



卷頭図版 2 潤戸風峠 1号墳 横穴式石室 古墳時代後期



卷頭圖版 3 筋達 L 遺跡 SB403 古墳時代中期



巻頭図版 4 岩崎遺跡 6区SD5 弥生時代前期末

序

松山市には、数多くの貴重な埋蔵文化財があります。財團法人 松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センターでは、年々増加する開発事業と相まって、事前の発掘調査を実施し、保存、又は記録保存に努めています。

本書は、平成9年度に埋蔵文化財センターが主体となり実施した遺跡発掘調査や松山市考古館が行った展示会・講演会などの教育普及活動の概要をまとめた年次報告書です。

本年度の調査では、古くは縄文時代晚期から新しくは近世に至る数多くの遺構や遺物を発見しています。特に、葉佐池古墳（2号石室）からは、未盗掘の横穴式石室内で散在した木片が見つかりました。こうした検出状況は、全国的にも類例がなく、古墳時代の埋葬方法の一例として注目されています。また、岩崎遺跡では、弥生時代前期の3条の大溝や200基に及ぶ上坑を検出し、道後城北地区における当時の集落の立地や構造を知る上で貴重な資料を発見しています。その他の遺跡からも各時期における社会的背景を知る上で第一級の資料を得ることが出来ました。

このような貴重な資料が得られましたのも、関係機関や地権者の方々の埋蔵文化財に対するご理解とご協力のたまものと感謝し、厚くお礼申し上げます。今後とも、なお一層のご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

本書が、松山市民をはじめ、ひとりでも多くの方々に埋蔵文化財に対する知識の向上と調査研究のための資料としてご活用いただければ幸いに存じます。

平成10年9月1日

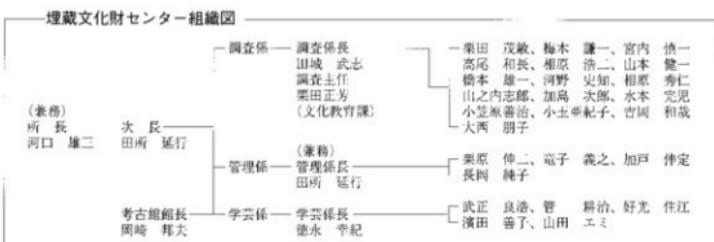
財團法人 松山市生涯学習振興財團
理事長 田 中 誠 一

例　　言

- 本書は、財團法人 松山市生涯学習振興財団 墓藏文化財センターが、平成9年4月1日から平成10年3月31日までに実施した発掘調査の概要を収録し、また松山市考古館事業を含めた啓蒙普及事業等をまとめた年次報告書である。
- 確認調査及び本格調査については、本書末尾の一覧表・付図にまとめた。
- 各調査の報告は調査担当が執筆した。なお、編集及び調整は田城武志・小玉重紀子が行った。
- 写真是、遺物写真及び一部を除く発掘調査の遺構写真を大西朋子が、その他の写真是各調査員が撮影した。
- 調査地位置図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図（三津浜・松山北部・松山南部）を使用した。
- 造構のうち表示記号で示したものは、以下のとおりである。
S A : 横列、S B : 縦穴式住居、獨立 : 掘立柱建物、S D : 溝、S K : 土坑
S E : 井戸、S R : 自然流路、S P : 柱穴、S X : その他の遺構
- 各図の方針は真北を基本とする。磁北の場合、方位の上に「磁北」を記入した。

8. 刊行主体〔平成10年9月1日現在〕

松山市教育委員会	教　育　長	池田 尚郷
事務局	局　長	大野 嘉幸
	次　長	岩本 一夫
	次　長	丹下 正勝
文化教育課	課　長	松平 泰定
(財)松山市生涯学習振興財団	理　事　長	田中 誠一
	事　務　局　長	池田 秀雄
	事務局次長	河口 雄三



9. 整理作業の協力者は、次のとおりである。

池田學・水口あをい・山下満佐子・平岡直美・大西陽子・日之西美春・西本三枝・伊藤みわこ・中平久美子・長岡千尋・山下純代・渡辺いずみ・渡辺友香・上甲ゆず・山崎萬喜子・波多野恭久・堀内哲也・大西正規・眞木潔・勝本将基・田崎真理・中村紫・宮内真弓・石丸由利子・松下郁子・福岡志保美・渡辺真琴・渡辺佐代枝・仙波ミリ子・仙波千秋・金子育代・高尾久子・宮田里美・上河淳浩・高松健太郎・二神千春・酒井直哉・閑正子・萩野ちよみ・吉井信枝・大畠誠・坪内寛美・都築宇志・藤本数夫・尾崎正・山邊進也・猪野美喜子・後藤公克・田丸竜馬・森田利恵・越智令子・永木静江・森脇信介・永木俊彦・松岡一雄・水口美津子・加鳥なおみ・丹生谷道代・矢野久子・多知川富美子・横田知子・寺尾和恵・豊田直美・玉川順子・福島利恵

10. ゴ指導・ゴ協力をいただいた先生方は、次のとおりである。(敬称略・順不同)

岸本直文(文化庁記念物課)／林部均(奈良県立橿原考古学研究所)／上原直人(京都大学大学院)／山中敏史(奈良国立文化財研究所)／松本修自(東京国立文化財研究所)／阿部義平(国立歴史民族博物館)／下條信行(愛媛大学)／松原弘宣(愛媛大学)／田崎博之(愛媛大学)／村上恭通(愛媛大学)／吉田広(愛媛大学)／平井幸弘(愛媛大学)／川岡勉(愛媛大学)／三吉秀允(愛媛大学)／景浦勉(松山市文化財専門委員)／大石慎三郎(愛媛県歴史文化博物館)／大山正風(愛媛県埋蔵文化財調査センター)／田中良之(九州大学)／金 帕賢(九州大学)／正岡謙夫(岡山県古代吉備文化財センター)／趙由典(韓国国立民俗博物館)／中野良一(愛媛県埋蔵文化財調査センター)／光谷拓実(奈良国立文化財研究所)／沢田正昭(奈良国立文化財研究所)／猪熊兼勝(奈良国立文化財研究所)／上原真人(奈良国立文化財研究所)／高妻洋成(奈良国立文化財研究所)／石野博信(徳島文理大学・二上山博物館)／内田俊秀(京都造形芸術大学)／金原正明(天理大学)／本田光子(別府大学)／前園実知雄(奈良県立橿原考古学研究所)／渡辺智恵美(元興寺文化財研究所)／菱田哲郎(京都府立大学)／森光晴(愛媛考古学協会)／長井数秋(日本考古学協会)／大澤正巳(日本考古学協会)

11. ゴ指導・ゴ協力をいただいた機関は、次のとおりである。

奈良国立文化財研究所／京都造形芸術大学文化財保存科学研究室／奈良県立橿原考古学研究所及び同附属博物館／大分県立宇佐風土記の丘資料館／(株)京都科学／(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター／(株)古環境研究所／高槻市市立埋蔵文化財センター／桜井市文化財協会／大阪府立弥生文化博物館／(財)大阪市文化財センター／大阪府教育委員会／福岡市埋蔵文化財センター／奈良県立橿原考古学研究所／愛媛大学／愛媛県歴史文化博物館ほか

本文目次

I	平成 9 年度 松山市埋蔵文化財調査概要	
	太山寺経田遺跡 5 次調査地	2
	船ヶ谷遺跡 2 次調査地	4
	御幸遺跡	8
	瀬戸風岬遺跡（B・E・F 区）	10
	道後今市遺跡 11 次調査地	14
	岩崎遺跡	18
	博味四反地遺跡 5 次調査地	24
	中村松田遺跡 2 次調査地	28
	中村松田遺跡 3 次調査地	32
	筋違 L 遺跡	36
	久米才歩行遺跡 3 次調査地	44
	久米高畑遺跡 33 次調査地	52
	久米高畑遺跡 34 次調査地	56
	久米高畑遺跡 35 次調査地	60
	久米高畑遺跡 36 次調査地	64
	久米高畑遺跡 37 次調査地	70
	久米高畑遺跡 38・39 次調査地	76
	久米高畑遺跡 40 次調査地	82
	久米崖田森元遺跡 4 次調査地	94
	鷹子町遺跡 2 次調査地	98
	葉佐池古墳 2 次調査	102
II	平成 9 年度 松山市埋蔵文化財調査関係資料	
	松山市埋蔵文化財確認調査一覧	110
	松山市埋蔵文化財本格調査一覧	120
III	平成 9 年度 保存処理	
	保存処理事業 I	126
	保存処理事業 II	128
VI	平成 9 年度 啓蒙普及事業	130
	1. 展示活動 2. 教育普及活動 3. 収集・保管活動 4. 広報・出版活動	
	5. 施設の利用 6. 職員研修・会議 7. 資料の貸出 8. 松山市文化財情報館の開館	

挿図・写真目次

巻頭図版 1 菓佐池古墳 2号石室	古墳時代後期
巻頭図版 2 濑戸風鈴 1号墳 横穴式石室	古墳時代後期
巻頭図版 3 筋違 L 遺跡 S B403	古墳時代中期
巻頭図版 4 岩崎遺跡 6区 S D 5 検出状況	弥生時代前期末
太山寺経田遺跡 5次調査地	2
図 1 調査地位置図 (縮尺 1 : 25,000)	写真 1 調査地遠景 (南西より)
	写真 2 調査風景 (南より)
船ヶ谷遺跡 2次調査地	4
図 1 調査地位置図 (縮尺 1 : 25,000)	写真 1 SK 6 遺物出土状況 (北より)
図 2 遺構配置図 (縮尺 1 : 400)	写真 2 西区完掘状況 (西より)
図 3 SK 6 出土遺物実測図 (縮尺 1 : 4)	
御幸遺跡	8
図 1 調査地位置図 (縮尺 1 : 25,000)	写真 1 A区全景 (北より)
図 2 北壁土層図 (縮尺 1 : 60)	写真 2 SE 1 完掘状況 (北より)
図 3 出土遺物実測図 (縮尺 1 : 3)	
瀬戸風鈴遺跡 (B・E・F区)	10
図 1 調査地位置図 (縮尺 1 : 25,000)	写真 1 B区 1号墳床面検出状況 (西より)
図 2 B区遺構配置図 (縮尺 1 : 250)	写真 2 B区 1号墳玄室入口右側
図 3 B区 1号墳出土須恵器実測図 (縮尺 1 : 3)	遺物出土状況 (北より)
道後今市遺跡 11次調査地	14
図 1 調査地位置図 (縮尺 1 : 25,000)	写真 1 遺構検出状況 (北より)
図 2 遺構配置図 (縮尺 1 : 80)	写真 2 石錐出土状況 (東より)
図 3 石錐測量図 (縮尺 1 : 10)	
図 4 石錐実測図 (縮尺 1 : 3)	
岩崎遺跡	18
図 1 調査地位置図 (縮尺 1 : 25,000)	写真 1 6A区 完掘状況 (北より)
図 2 調査地測量図 (縮尺 1 : 1,500)	写真 2 6A区 S D 4 (南西より)
図 3 6A区遺構配置図・西壁土層図 (縮尺 1 : 100、1 : 200)	写真 3 6A区 S D 5 (北西より) 表 1 遺構一覧表

樽味四反地遺跡 5 次調査地	24
図 1 調査位置図 (縮尺 1 : 25,000)	写真 1 S B 8 遺物出土状況 (北東より)
図 2 遺構配置図 (縮尺 1 : 200)	写真 2 完掘状況 (西より)
図 3 S B 1 測量図 (縮尺 1 : 60)	
中村松田遺跡 2 次調査地	28
図 1 調査位置図 (縮尺 1 : 25,000)	写真 1 S D 1 遺物出土状況 (北西より)
図 2 遺構配置図 (縮尺 1 : 200)	写真 2 B 区全景 (北より)
図 3 S D 1 出土遺物実測図 (縮尺 1 : 4)	
中村松田遺跡 3 次調査地	32
図 1 調査位置図 (縮尺 1 : 25,000)	写真 1 調査地遠景 (南東より)
図 2 遺構配置図 (縮尺 1 : 100)	写真 2 調査地全景 (西より)
図 3 S B 1 完掘状況 (北東より)	写真 3 S B 1 完掘状況 (北東より)
図 4 S B 1 出土遺物	写真 4 S B 1 出土遺物
筋違 L 遺跡	36
図 1 調査位置図 (縮尺 1 : 25,000)	写真 1 1 区遺構検出状況 (南西より)
図 2 筋違遺跡各調査地位置図 (縮尺 1 : 1,500)	写真 2 3 区遺構完掘状況 (東より)
図 3 遺構配置図 (縮尺 1 : 300)	写真 3 4 区遺構検出状況 (西より)
図 4 S B 403 測量図 (縮尺 1 : 60)	写真 4 4 区 S B 403 遺物出土状況 (北東より)
久米才歩行遺跡 3 次調査地	44
図 1 調査位置図 (縮尺 1 : 25,000)	写真 1 完掘状況 (南より)
図 2 調査地周辺の遺跡分布図 (縮尺 1 : 2,500)	
図 3 遺構配置図 (縮尺 1 : 100)	
図 4 西壁土層図 (縮尺 1 : 20)	
図 5 墓立 1 測量図 (縮尺 1 : 80)	
図 6 出土遺物実測図 (縮尺 1 : 3)	
久米官衛遺跡群 ~平成 9 年度調査の成果~	50
図 1 平成 9 年度調査位置図 (縮尺 1 : 1,500)	
久米高畠遺跡33次調査地	52
図 1 調査位置図 (縮尺 1 : 25,000)	写真 1 南部完掘状況 (東より)
図 2 遺構配置図 (縮尺 1 : 300)	写真 2 落し穴: S K030 完掘状況 (北北西より)
図 3 調査地周辺図 (縮尺 1 : 2,000)	

久米高畠遺跡34調査地	56
図1 調査位置図（縮尺1:25,000）	写真1 調査地全景（北より）
図2 造構配置図（縮尺1:150）	写真2 掘立001周辺完掘状況（北より）
図3 調査地周辺図（縮尺1:400）	
久米高畠遺跡35次調査地	60
図1 調査位置図（縮尺1:25,000）	写真1 遺構完掘状況（西より）
図2 造構配置図（縮尺1:120）	写真2 S D10検出状況（北より）
図3 出土遺物実測図 (縮尺1:2, 1:3, 1:4)	
久米高畠遺跡36次調査地	64
図1 調査位置図（縮尺1:25,000）	写真1 調査地西部完掘状況（東より）
図2 造構配置図（縮尺1:200）	写真2 S B004遺物出土状況（東より）
図3 S K031・S B004測量図（縮尺1:50）	
図4 掘立007測量図（縮尺1:80）	
図5 S B004出土遺物実測図（縮尺1:3）	
久米高畠遺跡37次調査地	70
図1 調査位置図（縮尺1:25,000）	写真1 東部完掘状況（西より）
図2 造構配置図（縮尺1:150）	写真2 S A001半截状況（北東より）
図3 掘立005・S P 2出土須恵器実測図 (縮尺1:3)	写真3 掘立001周辺完掘状況（西より） 写真4 掘立005周辺完掘状況（西より）
図4 30次・37次造構配置図（縮尺1:250）	
久米高畠遺跡38次・39次調査地	76
図1 調査位置図（縮尺1:25,000）	写真1 38次トレンチ全景（東より）
図2 正倉院周辺図（縮尺1:2,000）	写真2 38次濠完掘状況（東南東より）
図3 39次トレンチ平面図（縮尺1:100）	写真3 39次調査地全景（東より）
図4 38次平面図（縮尺1:100）	写真4 39次T-1濠の段差（北東より）
表 1 正倉院の濠の形状	
久米高畠遺跡40次調査地	82
図1 調査位置図（S=1:25,000）	写真1 完掘状況（南より）
図2 造構配置図（縮尺1:80）	写真2 掘立001・S P 15柱抜取跡断面
図3 出土遺物実測図（縮尺1:3）	(北西より)

久米官衙遺跡郡～今後の展望～	86
I. 官衙関連施設の出現時期について	
図1 挖立005・S P 2出土実測図（縮尺1：3）	
図2 挖立005周辺平面図（縮尺1：80）	
II. 久米官衙遺跡郡と天皇の行宮	
図1 久米官衙遺跡郡全体制図（縮尺1：2,000・100mメッシュ）	
図2 踵の空間と回廊状遺構（縮尺1：2,000）	
久米窪田森元遺跡4次調査地	94
図1 調査位置図（縮尺1：25,000）	写真1 遺構完掘状況（西より）
図2 遺構配置図（縮尺1：200）	写真2 S R 4 遺物出土状況 (北東より)
	写真3 S P 108柱材出土状況 (南より)
廣子町遺跡2次調査地	98
図1 調査位置図（縮尺1：25,000）	写真1 A区全景（西より）
図2 遺構配置図（縮尺1：150）	写真2 B区全景（北西より）
図3 S D 3出土遺物実測図（縮尺1：3）	
葉佐池古墳2次調査	102
図1 調査位置図（縮尺1：25,000）	写真1 崩落土撤去後の玄室（西より）
図2 玄室内木片検出状況（縮尺1：20）	写真2 玄門部寄りの遺物配置（東より）
保存処理事業	126
写真1 遺物の取り上げ作業 (瀬戸風崎遺跡9号石棺にて)	写真3 溝辺横田古墳出土 五鈴鏡
写真2 土層の剥ぎ取り作業 (岩崎遺跡6区S D 5にて)	写真4 古照ゴウラ遺跡5次調査地 鉄鍋 出土状況
啓蒙普及活動	130
図1 松山市文化財情報館平面図	写真1 「みんなで作った！古代ファッションショー」
	写真2 企画展記念講演会
	写真3 瀬戸風崎遺跡現地説明会
	写真4 考古学入門講座（第1回 織文時代編）
	写真5 考古館（左側）と情報館（右側）
	写真6 探りま専科「“海人”のなりたち」

I 平成9年度
松山市埋蔵文化財調査概要

タイサンジキウデン 太山寺経田遺跡 5次調査地

所在地 松山市太山寺町1981外
期間 平成9年12月15日～平成10年1月30日
面積 2,000m²
担当 栗田茂敏・加島次郎

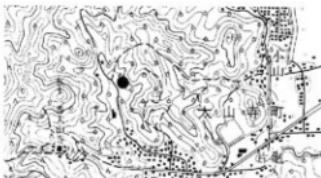


図1 調査地位置図

経過 太山寺地域は、市の北西部の太山寺丘陵に平野が接する場所に位置する。調査地は、道後平野（松山平野）の北端部の堀江湾に注ぐ久万川左岸に展開する丘陵の斜面に位置し、調査地南西部の丘陵中には四国八十八カ所靈場の五十二番札所太山寺が所在する。丘陵東には堀江地溝帯が南北に伸びており、調査地の南東1.6kmの地溝帯には、縄文晩期後半段階の大湧遺跡が位置する。調査地周辺では4次にわたる本格調査が実施され、弥生時代と古墳時代の集落関連遺構と包含層の存在が明らかにされている。丘陵の北には高月山古墳群、東には太山寺古墳群、片廻り古墳群、南には鶴が峰古墳群・北山古墳群等が展開しており、4世紀末～6世紀末頃までに数多くの古墳が築造されていたことが指摘されている。今回、松山市農林水産部農林土木課の団体営農道整備に先立って、調査を実施した。調査は、対象区の地形測量とトレーン発掘を併行しておこなった。

遺構・遺物 検出した遺構は近代の水田と近・現代の石列2基である。水田はA区北壁で検出した。壁面には4面の水田面を確認することが出来た。石列はB区とC区で確認した。B区石列は区画や土留めを意図している。石列は北西～南東に継くとみられるが、調査区の南東に設定したT5では未検出であることから、局部的に構築された石列と理解している。C区石列は二次的に造成された土層上面で検出した。石列には堀り方が伴わない。調査区が丘陵谷部の緩傾斜地点であることから、高所からの排水を目的とした暗渠と判断している。

遺物は多く出土していない。そのなかでB区で確認された包含層（第3層）は注目される。調査区東部に局部的に堆積した包含層である。遺物には亀山焼の大甕、土師器皿・壺、三足付き羽釜、鉄滓があり、12世紀後半～13世紀に比定される。この他、他の調査区からは須恵器、陶磁器、貿易陶磁器、陶器、サヌカイト製のスクレイバー、寛永通宝が出土している。

小結 本調査の成果は大きく2つある。第一はB区で包含層を検出したことである。中世の包含層を検出したことは、調査区北側の丘陵上に当該期の遺構が存在する可能性を示唆している。第二は石列の時代と性格を絞ることができたことである。これらは、調査地を含めた周辺の中世と近・現代における土地利用を直接的あるいは間接的に示すものと評価できる。今後は、本調査で得られた所見と既往の調査成果との比較をおこない、本調査の意義を検討してゆきたい。

（加島）

太山寺経田遺跡 5次調査地



写真1 調査地遠景（南西より）



写真2 調査風景（南より）

フナガタニ 船ヶ谷遺跡 2次調査地

所在地 松山市西長戸636番1号
期間 平成9年8月1日～平成10年1月30日
面積 約4,543m²
担当 高尾和長・大森一成

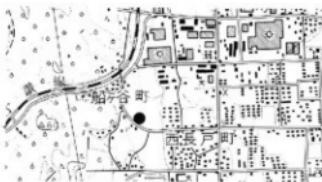


図1 調査地位置図

経過 本調査は、松山市が指定する埋蔵文化財包蔵地の「No17 東山町古墳群」内にあり、学校給食共同調理場建設に伴う事前調査である。調査地周辺には、低地に縄文時代～弥生時代の集落、丘陵上に古墳が分布している。調査地の北には船ヶ谷遺跡1次調査地と大湧遺跡があり、特に大湧遺跡は初期農耕遺跡として注目されている。弥生時代の遺跡には三光遺跡があり、弥生時代前期と後期の遺物が出土している。古墳は西の丘陵上に点在し、多数の埴輪が出土した前方後円墳の船ヶ谷向山古墳や、円墳の船ヶ谷三ツ石古墳がある。したがって、本調査では、縄文時代から古墳時代までの集落の確認を主目的とし発掘調査を実施した。

遺構・遺物 調査区は東西に分け東側より調査を開始した。遺構は土坑（SK）19基、溝（SD）12条、自然流路（SR）1条を検出し、出土した遺物は古墳時代から古代に位置づけられる。

古墳時代の遺構はSK19基、SD6条、SR1条がある。SR1は、調査区中央部に位置し全体の4分の3をしめる。規模は検出長24m、幅55m、深さ1.0mを測る。西側に段を持ち底面は凹凸がはげしい。遺物は、土師器の壺形土器、壺形土器、高杯形土器などが多数出土し完形品も多い。その他に縄文土器、弥生土器も出土した。SK7は調査区中央のF14区に位置しSR1の底で検出した。平面形態は円形で規模は径70cm、深さ45cmを測る。遺物は、土師器の高杯の坏部が上方に向けて出土した。高杯は口径30.2cmを測る大型品である。SK6は調査区北のD・E15区に位置しSR1を切り検出した。平面形態は、不整形な長方形で規模は長軸2.7m、短軸1.0m、深さ20cmを測る。遺物は土師器の壺形土器、壺形土器1点、塊形土器6点が出土した。

古代の遺構は、SD1・2・3・4・12がある。SD1とSD3は東西方向に平行に伸びる。SD2・4・12は南北方向に平行に伸び、SD1・3とはほぼ直交する。溝の断面形態はレンズ状で深さは5cmと浅い。遺物は土師器と須恵器の小片が出土した。

小結 今回の調査では、自然流路、土坑、溝などの集落に関連する遺構を検出することができた。住居址は検出されなかったことより、集落の周辺部であることが判明した。よって、居住区は調査地の西、丘陵山麓にあることが推測され、今後の発掘調査によって解明されるであろう。また、古墳時代の遺物は完形品が多く、土器研究の貴重な資料となるものである。

(高尾)

船ヶ谷遺跡2次調査地

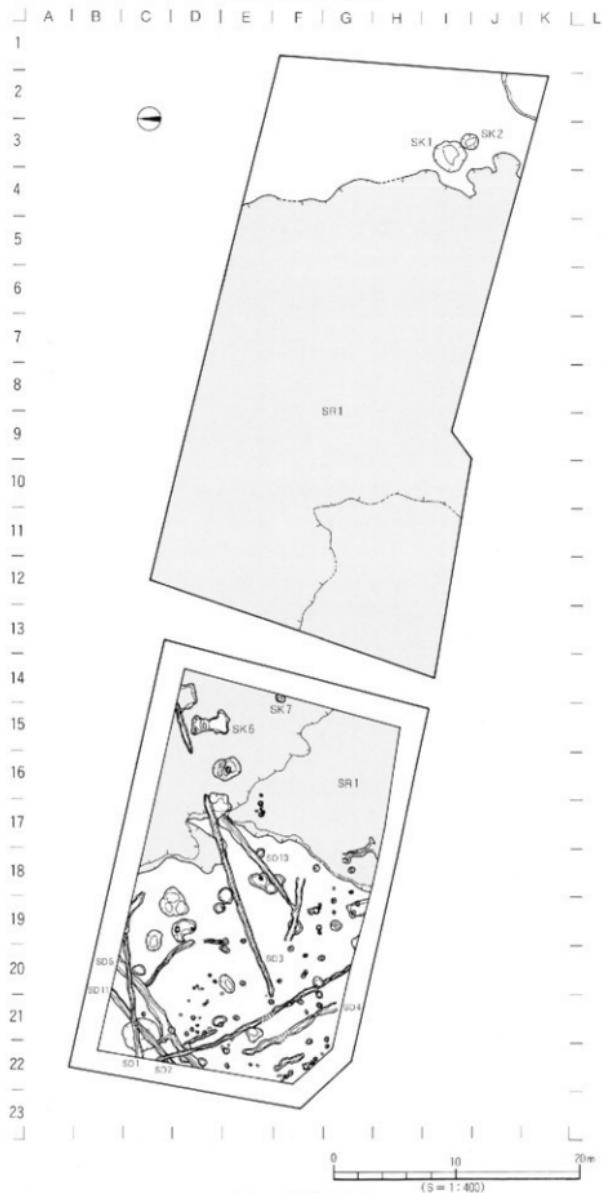
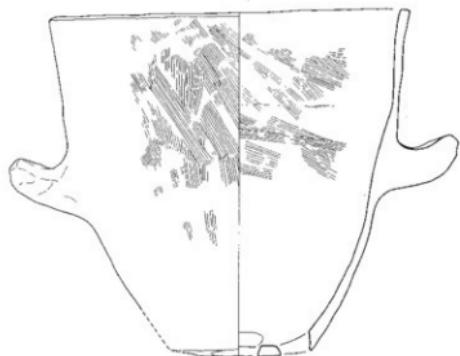
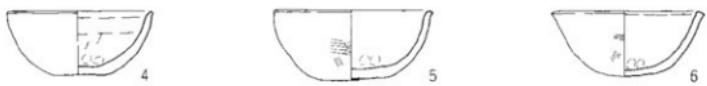
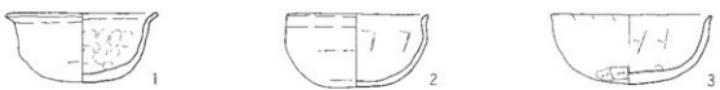


図2 遺構配置図



7

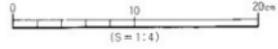


図3 SK 6 出土遺物実測図

船ヶ谷遺跡2次調査地



写真1 SK 6 遺物出土状況（北より）



写真2 西区発掘状況（西より）

御幸遺跡

所在地 松山市御幸2丁目
259番地1・4・5
期間 平成9年8月1日～同年10月14日
面積 243.20m²、243.18m²、243.20m²
担当 梅木謙一・水本完児



図1 調査地位位置図

経過 本調査は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地「NO.46 長建寺古墳」内における個人住宅建設に伴う事前調査である。調査地は、松山平野北西部、御幸寺山麓南西麓部の標高21.6～22.1mに立地する。調査地西方には3次の調査が実地された山越遺跡、北には姫原遺跡があり、調査地周辺は弥生時代から中世までの集落遺跡が展開している。

遺構・遺物 調査地の基本層位は、第Ⅰ層造成土、第Ⅱ層耕作土、第Ⅲ層床土、第Ⅳ層灰色土（中世の遺物包含層）、第Ⅴ層茶色土（古代～中世の遺物包含層）、第Ⅵ層茶色砂質土（古代～中世の遺物包含層）、第Ⅶ層灰色粘土、第Ⅷ層褐色砂質土である。

遺構は、第Ⅵ層中の調査区中央で井戸1基（SE1）を検出した。SE1の平面形態は円形を呈し、規模は東西1.1m、南北1.0m、深さ1.4mを測る。構造は素掘りで、遺物は出土しなかった。

包含層遺物には、第Ⅳ層では中世（15～16世紀）の須恵器、土師器、第V・VI層では古代～中世（10～14世紀）の須恵器、土師器が出土している。古代の遺物には須恵器の脚付鉢や提瓶、土師器の壺や椀があり、中世の遺物には須恵器壺、土師器壺、瓦器壺（和泉型）、鍋などがある。

小結 本調査では、中世の遺構を検出し、弥生時代から中世までの遺物が出土した。中世の井戸SE1からは遺物は出土していないが、埋土には中世の土塙が入り、かつ検出層位より中世前半（13～14世紀）に比定される。松山平野における中世井戸の検出例は、官前川流域の北斎院地内遺跡（1・2次）や辻町遺跡（2次）にみられるが、平野では未だ検出数は少ない。

層位では、第Ⅳ層と第Ⅴ層の間に時代差が現れており、当地一帯の雖層の一つとして注目したい。

今回の調査は、御幸町内においては初の本格調査であり、調査地一帯は中世集落が展開することが明らかになった。そして、井戸の検出は、近隣に住居の存在を示唆するものである。
(水本)

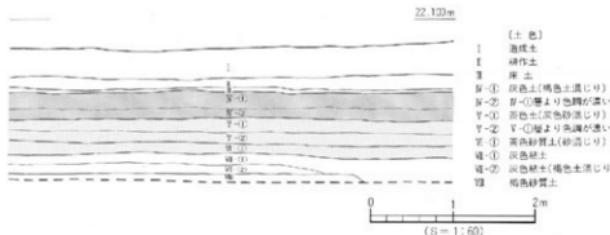


図2 北壁土層図

御幸遺跡

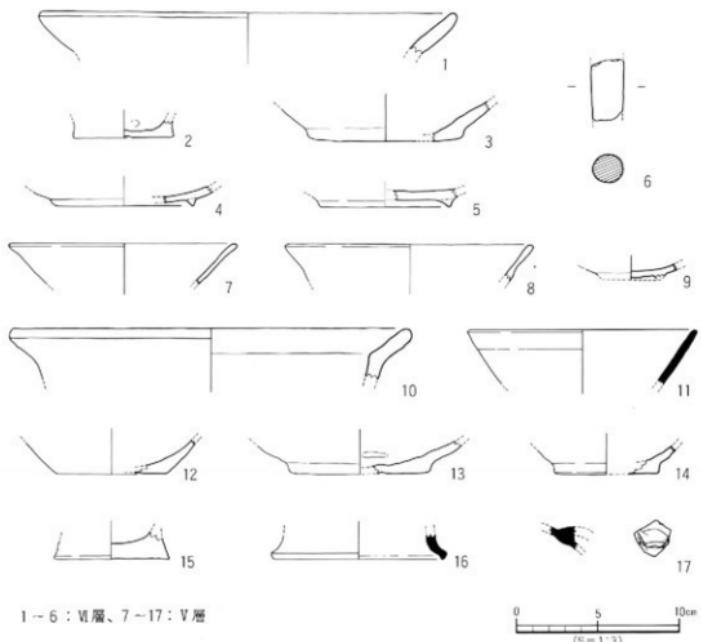


図3 出土遺物実測図



写真1 A区全景（北より）

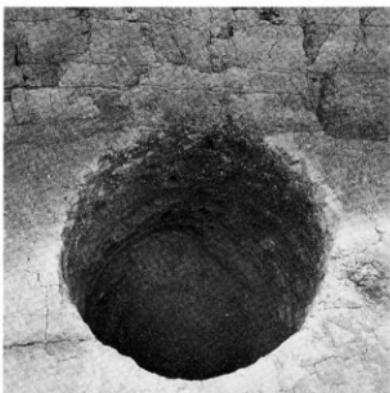


写真2 SE1 完掘状況（北より）

セトカゼトウゲ 瀬戸風峠遺跡（B・E・F区）

所在地 下伊台町乙188-1外106筆
期間 平成7年4月5日～平成9年12月25日
面積 257,349m²
担当 相原浩二・小玉亞紀子・大森一成



図1 調査地位置図

経過 本調査は松山市の指定する包蔵地の「NO.52 瀬戸風峠古墳群」における宅地開発に伴う事前の発掘調査である。平成7年4月より行ってきたこれまでの調査では、全国的に珍しい石室内に木炭床を有する瀬戸風峠4号墳や箱式石棺、土壙墓を検出している。平成9年度の調査ではB区、E区、F区の調査を実施した。

遺構・遺物 B区では6世紀後半と思われる古墳2基（瀬戸風峠1号墳、同3号墳）のほか、箱式石棺6基（5号～9号石棺）と石蓋土壙墓1基（3号石蓋土壙墓）を検出している。

瀬戸風峠1号墳の墳形は、盛土の遺存状況からやや南北に長く直径17m前後の円形になるものと思われる。主体部はN73°Eにとる両袖の横穴式石室である。石室の規模は、室長3.90m、幅1.65m～2.40m、高さ2.40mを測る。石室内より出土した遺物は、須恵器蓋杯、短頸壺、広口壺、壺、鉄製品では大刀、鉄鎌の武器、轡などの馬具のほか、鍔先、鎌、刀子、鑓などの農工具が出土している。装飾品では、耳環、ガラス小玉、切子玉、管玉が出土している。

瀬戸風峠3号墳の墳形は削平により不明である。主体部はN8°Wに主軸をとる。遺存状況は個壁、奥壁の基底部1段を残すのみで開口部の石は抜き取られている。遺物は石室内からは出土していない。

箱式石棺の時期については、時期を示す遺物の出土がなく明確な時期は不明であるが、7号石棺、8号石棺、9号石棺については1号墳との切り合い関係により、1号墳築造前の遺構であることが確認された。なお、7号石棺より朱が塗られた人頭骨が出土している。

E区では、今のところ時期不明であるが古墳1基（瀬戸風峠6号墳）を検出している。墳形については地山面まで削平され墳形は判然としない。主体部はN126°Eに主軸をとる小堅穴式石室である。石室の規模は室長1.93m、幅0.54m、現存高0.45mを測る。壁体の一部に朱が塗られている。遺物は石室内より人骨と鋳化の著しい鉄製品が出土している。土器は出土していない。

F区では7世紀後半～8世紀初め頃の古墳1基（瀬戸風峠5号墳）を検出している。墳形は6号墳と同様に削平をうけており判然としない。主体部はN3°Wに主軸をとる無袖の横穴式石室と思われる。石室の規模は室長2.30m、幅1.40m～1.55mを測る。石室内より出土した遺物は須恵器蓋杯、坏身、高壺、短頸壺、長頸壺のほか、鉄鎌、刀子、釘などの鉄製品や耳環、ガラス小玉、ガラス製勾玉などの装飾品が出土している。

小結 瀬戸風峠遺跡全体で検出した遺構は古墳5基、石蓋土壙墓1基、箱式石棺8基、土壙墓1基である。全て埋葬施設であり、集落関連の遺構は検出されなかった。このことから調査地は古墳時代後期を中心とし、その前後にかけて墓域として利用された事が明らかになったものである。（相原浩）

瀬戸風呂遺跡（B・E・F区）

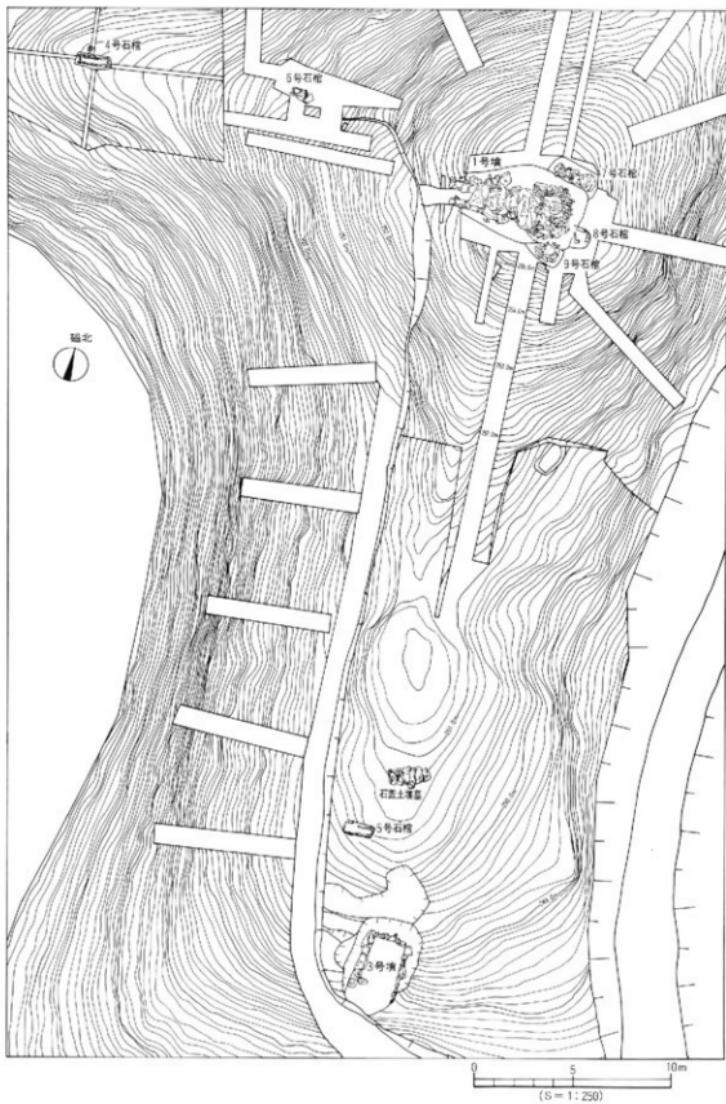


図2 B区遺構配置図

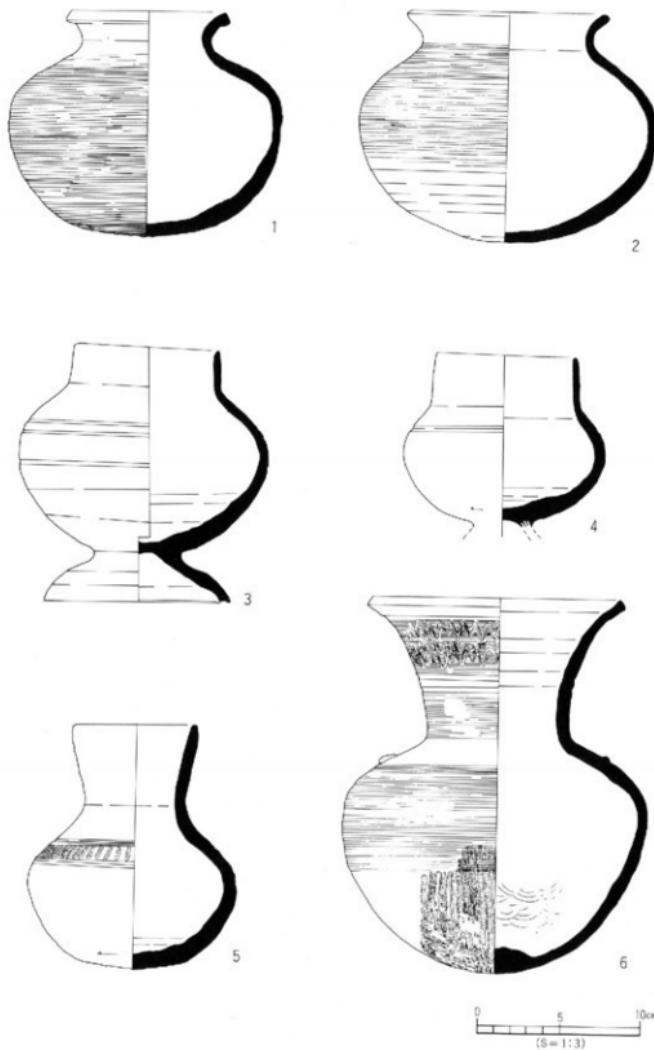


図3 B区1号墳出土須恵器実測図



写真1 B区1号墳床面検出状況（西より）



写真2 B区1号墳玄室入口右側遺物出土状況（北より）

道後今市遺跡11次調査地

所在地 松山市道後今市998番地14
期間 平成10年2月26日～同年3月31日
面積 199.38m²
担当 山之内志郎・相原浩二



図1 調査地位置図

経過 本調査は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地「NO.68 今市遺物包含地」内における宅地開発に伴う事前調査である。調査地周辺では、これまでに道後今市遺跡として10次にわたる調査が実施されており、弥生～中世の集落関連遺構を多数検出している。試掘調査の結果、溝・柱穴などの遺構と弥生土器片を確認したため、当該地区における弥生時代の集落関連遺構の広がりの確認を主目的に11次調査として本格調査を実施した。

遺構・遺物 本遺跡において主に縄文・弥生時代の遺構・遺物を確認した。遺構は、竪穴式住居址1棟、溝1条、土坑6基、柱穴22基である。遺物は、弥生土器片・石錘・石鏃ほかである。

以上のうち主な遺構・遺物について概説する。

[縄文時代] 当該期の遺物として石錘がある。石錘は、調査区北西部で第IX層の灰色を含む黄色シルトから欠損品を含め計22点出土した。形状は扁平な楕円形を呈する礫石で、完形品は全て長軸側縫を2か所敲打によって打ち欠く打欠石錘である。完形品18点の法量は、長軸5.6～9.0cm、短軸4.9～6.7cm、厚さ1.4～2.4cm、重量60.3～153.8gを測り、その平均値は長軸7.3cm、短軸5.8cm、厚さ1.8cm、重量116.6gである。

なお、共伴遺物はないため時期決定は困難であるが、周辺地域での調査例から、この第IX層を縄文時代後期に位置付けており、これらの石錘も同時期に該当するものと推定される。

[弥生時代] 当該期の遺構は、竪穴式住居址（S B 1）、溝、柱穴がある。S B 1は、調査区南東部に位置する。平面形は円形を呈し、規模は南北2.24m、東西4.12m分を検出したが、検出面積は全体の1/2以下であるため、本来の規模は不明である。検出面より壁高は22.6cmを測る。住居址埋土は黄色を含む明灰褐色シルトである。主柱穴は2本のみ確認した。なお、住居北壁近くの約70×40cmの範囲内で、サヌカイト（サヌキトイド）ほかの石錘1点とチップを多数検出した。

住居の年代は、少量の土器片と埋土などから弥生時代前期の可能性を考えている。

小結 今回の調査では、狭小な調査区であったにもかかわらず、縄文・弥生時代における多大な情報を得ることができた。

縄文時代の石錘については、明確な遺構出土ではないが一括資料として価値のあるものである。今後は、周辺地域での同時代の集落関連遺構の確認が望まれる。またS B 1では、石錘などの出土状況から、石器の製作または再加工が行われたのではないかと推定される。

このように、道後城北地域における縄文・弥生時代の集落の一端を知ることができた。今後はその構造について更に解明していく必要があろう。

(山之内)

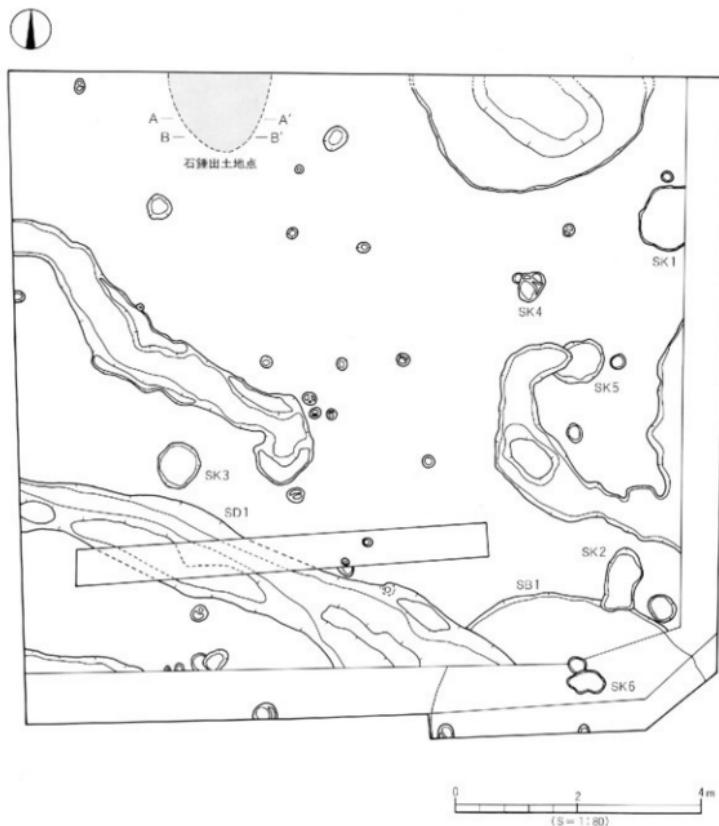


図2 遺構配置図

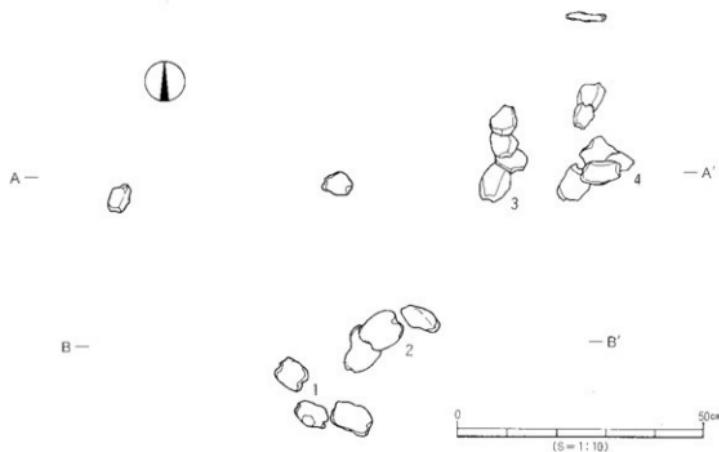


図3 石錐測量図

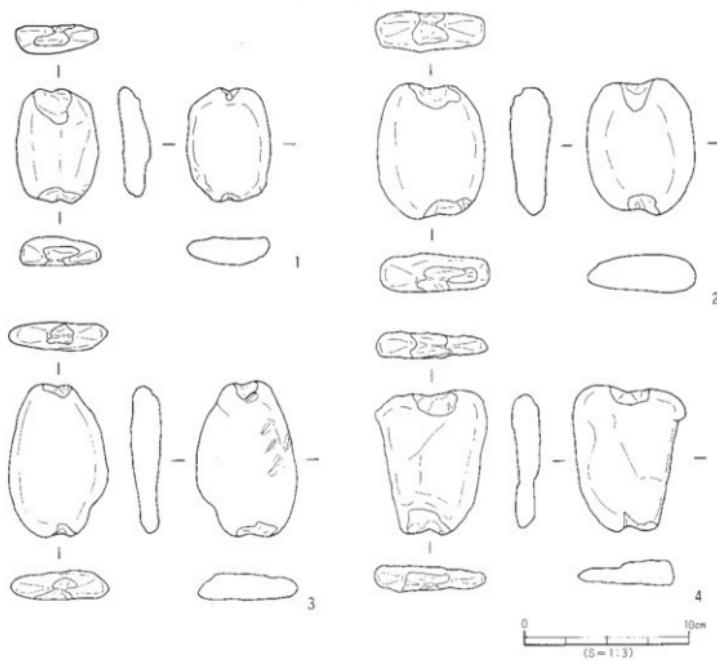


図4 石錐実測図

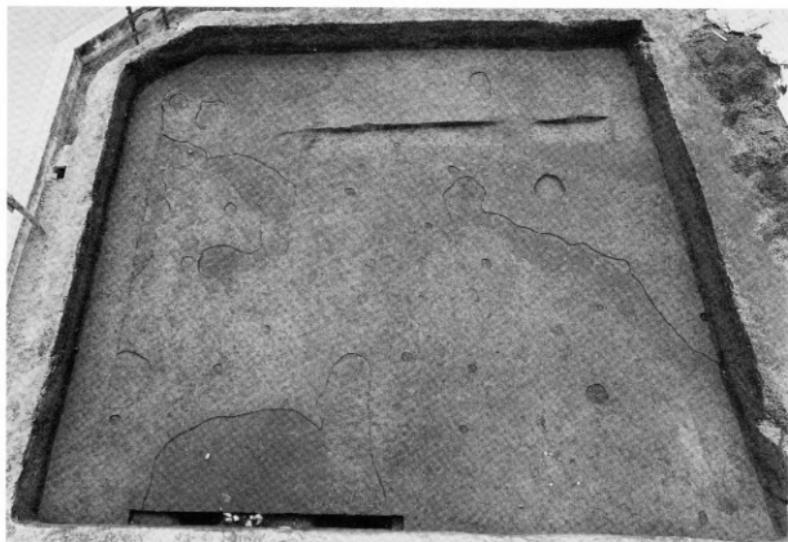


写真1 遺構検出状況（北より）

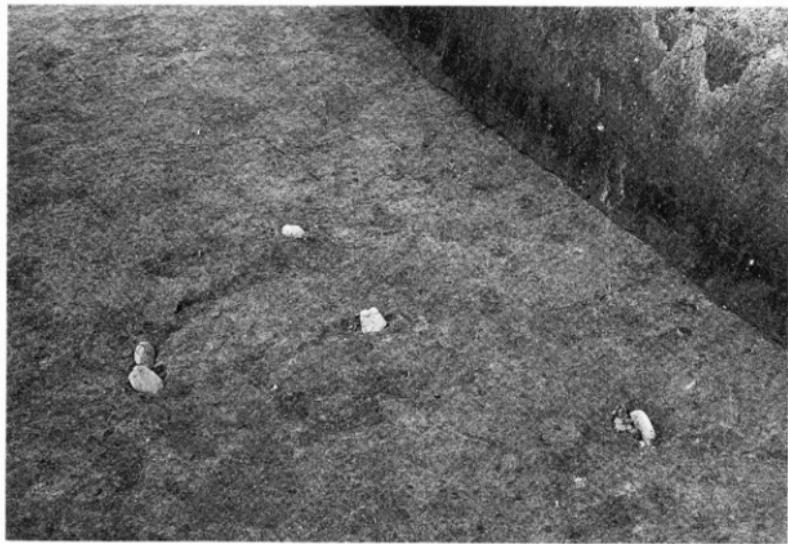


写真2 石錘出土状況（東より）

イワ サキ 岩崎遺跡

所在地 松山市持田1丁目、岩崎2丁目
期間 平成8年6月3日～10年3月31日
面積 13,000m²
担当 宮内慎一・相原秀仁



図1 調査位置図

経過 本調査は松山東部環状線道路建設工事に伴う事前発掘調査である。調査地は、湯渡町から県道188号後公園線に至る全長760m、道路幅18mのほぼ全域が調査対象地である。周辺には弥生時代前期の標式土器が出土した持田遺跡、弥生時代前期の土塙墓や竪穴式住居址が確認された持田町3丁目遺跡がある。また、調査地の北方に中世河野氏によって築城された湯染城址があり、東方には古代寺院の内代庵寺がある。西方には弥生時代を通して松山平野の拠点的集落である文京遺跡や松山大学構内遺跡、南方には弥生時代後期の竪穴式住居址に付設する「周堤帶」が確認された東本遺跡4次調査地がある。

調査は平成8年度と平成9年度の2年間にわたり実施された。調査地が南北に長い形状であるため、調査の進行上、調査地内を6区画に分けて調査を行うこととなった。平成8年度は1区～3区の調査を行った。その結果、中世の建物址や水田址のほか、古墳時代から古代の集落関連遺構や遺物を確認した。平成9年度は4区～6区の調査を実施した。各調査区はそれぞれ南から4区はA・B、5区はA・B・C・D、6区はA・Bと細区分した。

遺構・遺物 調査地は松山平野北東部、石手川の氾濫に起因する扇状地の扇央付近に位置する。調査以前は既存宅地であった。地形は北から南に向かって緩傾斜をなし、標高は36.0m～38.0mである。

基本層位は第Ⅰ層表土、第Ⅱ層灰～灰褐色土、第Ⅲ層褐～暗褐色土、第Ⅳ層黒褐色土、第Ⅴ層黄褐色土、第Ⅵ層黄色シルト系（砂粒混入）、第Ⅶ層灰色砂疊層である。第Ⅰ層は近現代の造成土及び、農耕にかかる客土である。第Ⅱ層は中世の遺物包含層や中世の遺構検出層である。第Ⅲ層は古墳時代から古代の遺物包含層である。（調査地全域に堆積する）。第Ⅳ層は弥生時代の遺物包含層である（5B区より北に堆積する）。第Ⅴ層は調査における最終遺構検出面である（5A区より北に堆積する）。第Ⅵ層は微弱な土色と砂粒の混入量の違いから3層に分層した。第Ⅵ-①層は明黄褐色土、第Ⅵ-②層は黄褐色土と灰褐色土の混合土、第Ⅵ-③層は浅黄土である。調査壁の土層観察から第Ⅴ層、第Ⅵ層堆積時に形成された流路が確認された。第Ⅶ層は旧石手川の礫（径10～30cm）で構成される。

調査の結果、弥生時代から中世の遺構と遺物を検出した。

【弥生時代】弥生時代の遺構は主に5B区より北側の地域で検出した。前期は大溝3条（6A区：SD4・5、5B区：SD2）と土坑200数基が検出された。溝は幅5.2m前後、深さは検出面下1.3m前後を測る。断面形態はSD2・4は逆台形、SD5はU字状を呈する。埋土中にて炭（炭化物）が層をなして堆積する。溝内からは多量の土製品や石器類が出土している。

土坑は平面形態で長方形と円形の2種類に分類される。樋体は垂直に立ち上がるものが多く、深さ

岩崎遺跡



図2 調査地測量図

岩崎遺跡

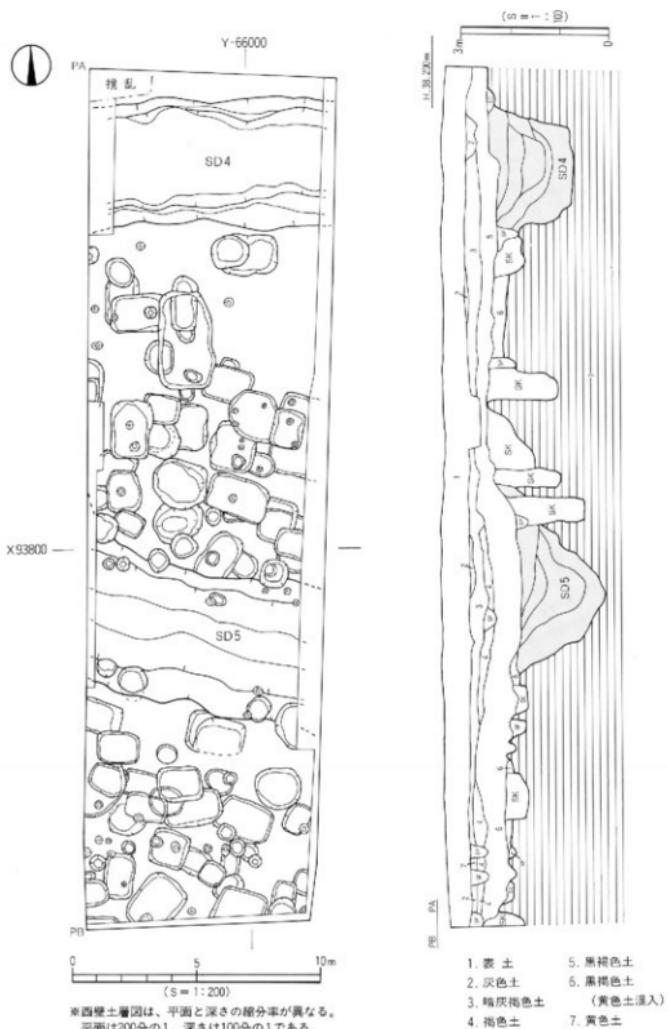


図3 6A区造構配置図・西壁土層図

は検出面下50cmを越えるものが大半をしめている。一部、断面形態が袋状になるものもある。土坑内からは土製品、石器のほか焼土、炭が検出された。これらの土坑は、貯蔵もしくはゴミ捨て用の穴として使用されたものと推測される。

中期から後期では、6 A区にて中期末から後期初頭頃の堅穴式住居址3棟と溝3条を検出した。そのほか、包含層中より多量の土製品や石器類が出土している。

【古墳時代～古代】古墳時代から古代の遺構は、調査区ほぼ全域で検出した。古墳時代は土坑や柱穴、古代では掘立柱建物址や溝、土坑を検出した。とりわけ、5 B・5 C・5 D区で検出した溝は調査区内を南北方向に継続し、5 D区にてL字形に折れ曲がる。溝内からは7・8世紀の土師器・須恵器のほか、土馬（土製品）が出土した。

【中世】中世の遺構は調査全域で検出した。6 A区では、掘立柱建物址を3棟検出した。1×2間規模の建物址で真北方向に建物方位をとる。また、5 A・5 C・6 B区から東西方向の溝をそれぞれ1条検出した。

小結 今回の調査では、昨年度の調査で未検出であった弥生時代の遺構が多数確認された。特に、弥生時代前中期から中期初頭に時期比定される3本の大溝や土坑群の検出は、道後城北地区における当時の集落の立地や構造を知るうえで貴重な資料となるものである。また、調査地全域を通して古墳時代から中世の建物址、集落関連遺構や遺物が検出された。このうち、古代の溝の検出や比較的多量の該期遺物の出土は、調査地周辺に律令期の施設や集落の存在を示唆するものである。（相原秀）

表1 遺構一覧表

地 区	区	検 出 遺 構	数	出 土 遺 物	時 期	備 考
4区	A	土坑	3基	須恵	古墳時代	
	B	掘立柱建物址	1棟	須恵	古代	2×2間
		溝	1条		中世	
5区	A	土坑	2基	土師	中世	
		溝	2条	土師・須恵	古代・中世	
	B	溝	3条	弥生・石器 土師・須恵・土馬	弥生前期・古代	
		土坑	22基	弥生	弥生前期～後期	
	C	溝	2条	土師・須恵	古代・中世	
		土坑	20基	弥生	弥生前期	
	D	溝	1条	土師・須恵	古代	「L」字状に折れ まがる。
6区		土坑	83基	弥生・石器・骨	弥生前期～古代	
	A	堅穴式住居址	3棟	弥生・石器	弥生中期後半～ 後期初頭	円形・長方形
		掘立柱建物址	3棟	土師	中世	1×2間
		溝	5条	弥生・石器・炭	弥生前期・中期後半	
		土坑	102基	弥生・石器 焼土・炭	弥生前期～中世	
	B	溝	2条	土師・須恵	中世	
		土坑	8基	弥生・炭	弥生前期・中世	

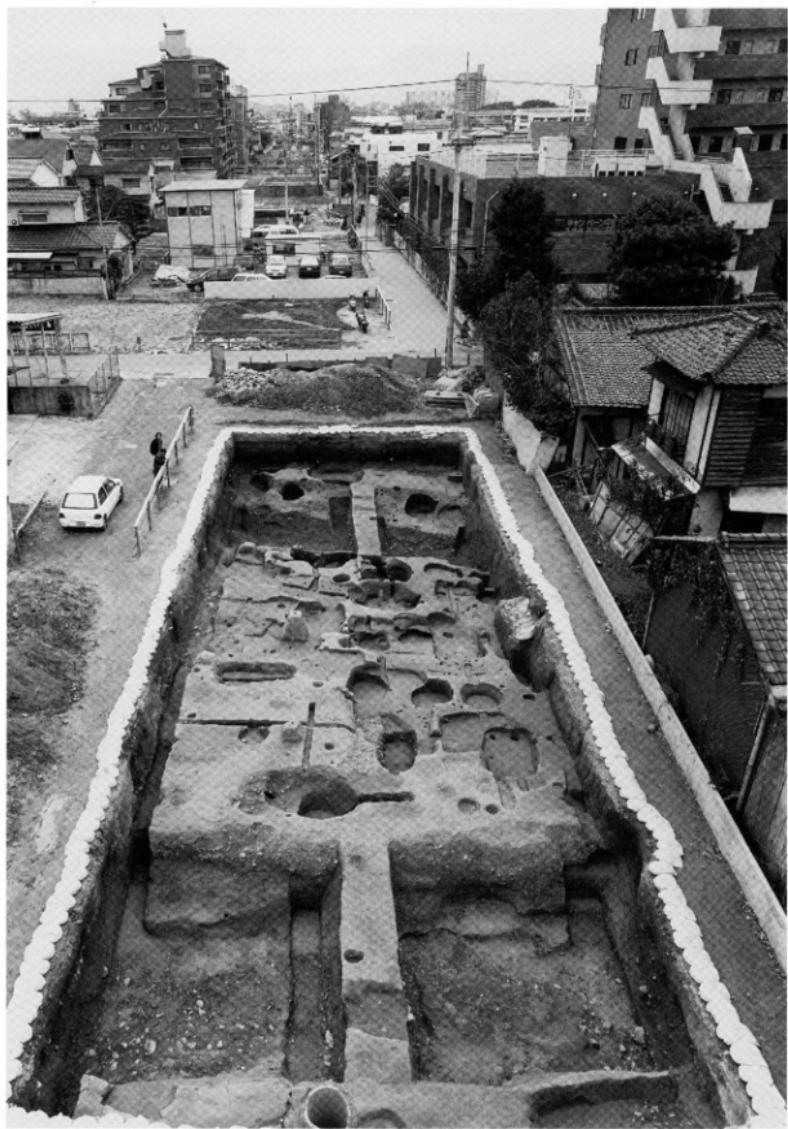


写真1 6 A区 完掘状況（北より）

岩崎遺跡



写真2 6 A区 SD 4 (南西より)



写真3 6 A区 SD 5 (北西より)

タルミシタンチ 樽味四反地遺跡 5次調査地

所在地 松山市樽味四丁目213番地外
期間 1997（平成9年）年4月1日～
同年7月31日
面積 2,146m²
担当 高尾和長・大森一成



図1 調査地位置図

経過 本調査は、松山市指定埋蔵文化財包蔵地「No.81 樽味遺物包含地」内における宅地開発事業に伴う事前調査である。調査地は石手川中流域南岸の洪積畠状地上の標高39～40mに位置する。1996（平成8年）年4月11日、株式会社松平不動産、松平定理氏より、松山市樽味4丁目213～214番地内における宅地開発にあたって、当該地の埋蔵文化財の確認願いが松山市教育委員会文化教育課に提出された。

調査地周辺は、樽味四反地遺跡1～4次調査、樽味立派遺跡、樽味高木遺跡などの調査が実施され、弥生時代～古代にかけての堅穴式住居址・土坑・溝などの集落遺構が検出され、当該地を含めた包含地内における集落の存在と規模が明確になり始めている地域である。

本調査は、当包含地内における弥生時代～古墳時代の集落の解明を主目的として、本格調査を実施した。

遺構・遺物 調査地中央部には畦が設けられ、東西に長い2面の水田である。北側と南側の水田では約20cmの段差があり、北東部から南西部にかけ、緩い斜面となっている。

基本層位は、第Ⅰ層水田耕作土、第Ⅱ層灰褐色土、第Ⅲ層黄灰褐色土、第Ⅳ層暗灰褐色土、第Ⅴ層黒褐色土、第Ⅵ層黄色土及び橙色土、第Ⅶ層明黄色土（AT火山灰）、第Ⅷ層黄橙色砂、第Ⅸ層黃橙色及び灰白色の裸、第X層灰白色砂、第XI層砂裸である。遺構は第VI層上面より、堅穴式住居址10棟、掘立柱建物址1棟、土坑28基、溝3条、自然流路1条、性格不明遺構3基、柱穴462基を検出した。遺構は出土した遺物より弥生時代中期末から中世までのものである。

弥生時代の遺構は、堅穴式住居址4棟（SB 3・7・8・9）、土坑3基（SK 15・16・28）、溝1条（SD 1）がある。SB 8は調査区東部D 3～E 6区に位置し、南半分を後世の掘削で消失している。平面形態は北半分の遺存状況から円形と考えられる。規模は東西9.2m、壁高30cmを測る。内部施設は主柱穴と貼床を検出した。遺物は弥生中期後半～後期初頭の上器と炭化材、焼土が出土した。SB 3・7・9の平面形態は方形で規模は2.5～4.7mを測る。SK 15・16からは、弥生後期末の土器が多量に出土した。

古墳時代の遺構は、堅穴式住居址6棟（SB 1・2・4・5・6・10）がある。SB 1は調査区南西部のF 11～H 12区に位置する。平面形態は方形で規模は東西5.3m、南北4.5m、壁高18cmを測る。内部施設には主柱穴、周壁溝、カマド、貼床がある。周壁溝は壁体を全周し幅23～60cm、深さ8～22cmを測る幅の広いものである。カマドは北壁のほか中央部に付設され馬蹄形を呈する。煙道部は未検出である。SB 2・4・5・6・10の平面形態は方形で規模は3.1～7.6mを測る。



図2 造構配置図

樽味四反地遺跡 5次調査地

古代の遺構は自然流路（S R 1）1条がある。S R 1は調査区南壁のF 1～G 11区に位置する。規模は検出長41.2m、幅6.7m、深さ61cmを測る。溝底は東から西に傾斜し部分的に凹む所と細かい溝がある。遺物は土師器、須恵器が多量に出土しその内には須恵器の鏡3個体がある。

中世の遺構はS K 1がある。調査区南西のH 11区に位置し平面形態は円形で規模は径80cmを測る。遺物は土師器の皿が出土した。

小 結 調査地一帯の樽味地区には、これまでに弥生時代～古墳時代の集落が確認されている。今回の調査では、堅穴式住居址や自然流路などが検出され、集落の広がりと構造の一部が明らかになった。このうち自然流路からは、樽味・桑原地区では数少ない7～8世紀の土器が多量に出土し、特に硯3個体は、松山平野でも稀少な資料であり注目される。また、西トレント北側で検出した第X層は、A T火山灰層を切って堆積しており、A T火山灰堆積後の河川の氾濫を示すものであり、今後樽味地区的調査を行う上で良好な資料と言える。
（高尾）

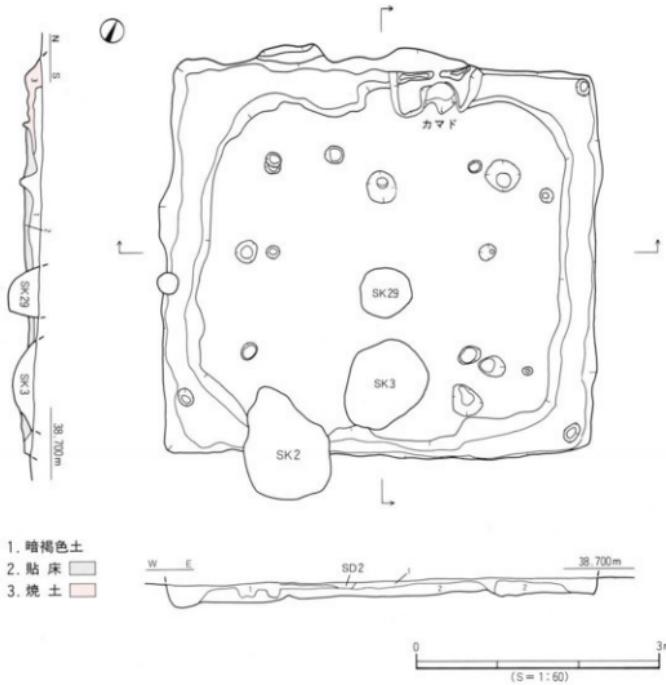


図3 SB 1測量図

梅味川反地遺跡 5次調査地



写真1 SB 8 遺物出土状況（北東より）



写真2 完掘状況（西より）

ナカムラマツダ 中村松田遺跡 2次調査地

所在地 松山市中村2丁目54番1・2・3
期間 平成9年4月1日～同年8月31日
面積 1675.03m²
担当 梅木謙一・水本完児



図1 調査地位置図

経過 本調査は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地『No.108 中村町遺跡』内における宅地開発に伴う事前調査である。調査地は、松山平野北東部、石手川扇状地の端部にあり、標高28.2～28.6mに立地する。調査地北には中村松田遺跡1次調査地、北東には森鷗小学校構内遺跡、南には現在までに8次の調査が実施された釜ノ口遺跡があり、調査地周辺は弥生時代から古墳時代までの集落遺跡が展開している。

遺構・遺物 調査地の基本層位は、第I層造成土、第II層耕作土、第III層床土、第IV層灰色砂質土(中世の遺物包含層)、第V層黒褐色土(弥生から古代までの遺物包含層)、第VI層黒色土、第VII層淡い茶色土である。

遺構は、第V層上面では中世の柱穴48基、第VII層上面では弥生時代の堅穴住居址(SB)4棟、溝(SD)7条、弥生時代～古代の柱穴58基を検出した。以下、主要なものについて記す。

第V層上面に弥生時代後期後半の堅穴住居址4棟と溝7条を検出した。

SB2・3は、調査区南東部に位置し、平面形態は円形を呈する。遺物は、少量の土器と礫が出土した。SB2は、規模が東西5.2m、南北5.6m、深さ10～25cmを測る。施設には、主柱穴・炉・壁体溝がある。主柱穴は5本柱で、平面形態には円形と椭円形がある。炉は住居の中央で検出し、平面形態は長円形である。壁体溝は住居の北西側で検出している。SB3は、規模が東西6.6m、南北6.8m、深さ2～8cmを測る。施設には、主柱穴と壁体溝がある。主柱穴は6本柱で、平面形態には円形と椭円形がある。壁体溝は住居の北側で検出した。

SD1は、調査区中央から東壁外にいたる。規模は全長11.3m、幅0.5～1.45m、深さ2～15cmを測る。断面形態は皿状を呈す。出土遺物は完形に近い大型の土器片が多く、器種には壺形土器、鉢形土器、高環形土器がある。SD2は、調査区東壁の南東部から西壁の中央部にいたる。規模は全長42.3m、幅0.5～1.6m、深さ2～15cmを測る。断面形態は皿状を呈す。出土遺物は復元完形品を含む多くの土器片があり、器種には壺形土器、鉢形土器、高環形土器がみられ、石製品には石庵丁、砥石が出土している。

小結 本調査では弥生時代から古代、さらには中世の遺構を検出した。弥生時代では、中村松田遺跡における弥生時代後期集落の構造や堅穴住居の形態、土器廃棄の様子が一部明らかになった。今後は、調査地の南に展開する小坂釜ノ口遺跡との関係を求める、弥生時代集落の詳細を究明しなければならない。

(水本)

中村松田遺跡 2次調査地



図2 遺構配置図

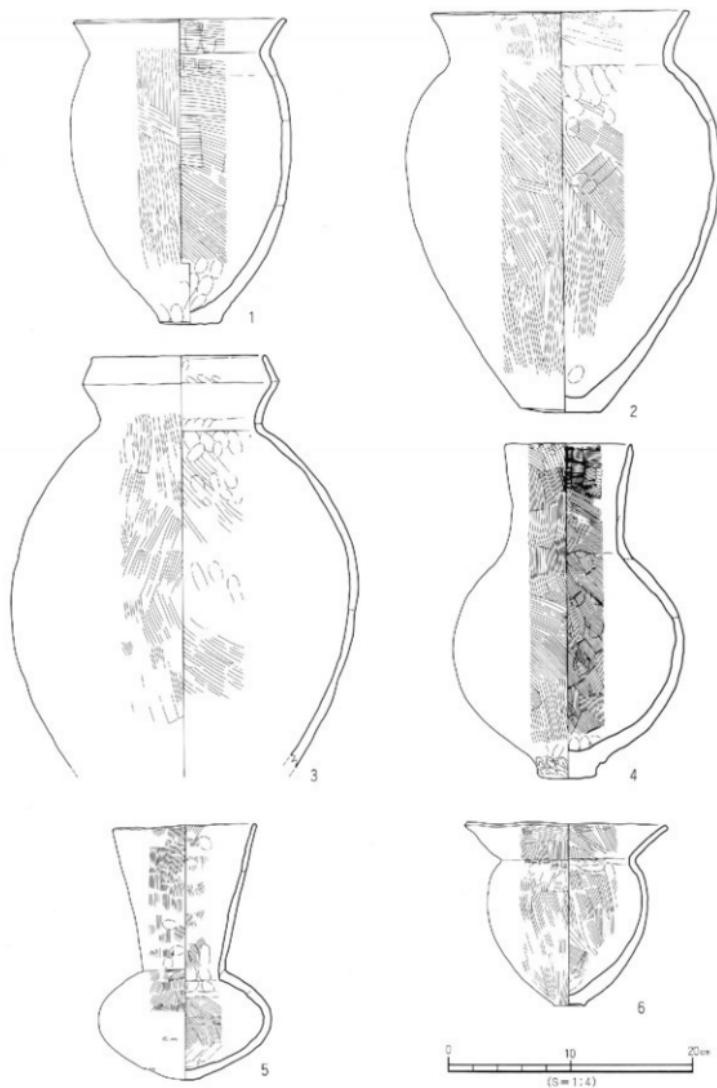


図 3 SD 1 出土遺物実測図

中村松田遺跡 2次調査地



写真 1 SD 1 遺物出土状況（北西より）



写真 2 B区全景（北より）

ナカムラマツダ 中村松田遺跡 3次調査地

所在地 松山市中村1丁目100番1
期間 平成10年2月2日～同年3月31日
面積 1261.54m²
担当 梅木謙一・水本完児



図1 調査地位置図

経過 本調査は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地『No.108 中村町遺跡』内における宅地開発に伴う事前調査である。調査地は、松山平野北東部、石手川扇状地の端部にあり、標高28.6m～28.8mに立地する。調査地南には中村松田遺跡1・2次調査地、東には素鷲小学校構内遺跡があり、調査地周辺は弥生時代から古墳時代までの集落遺跡が展開している。

遺構・遺物 調査地の基本層位は、第Ⅰ層造成土、第Ⅱ層耕作土、第Ⅲ層黒褐色土（弥生時代から古墳時代までの遺物包含層）、第Ⅳ層明茶色土、第Ⅴ層暗茶色粘土、第Ⅵ層礫層、第Ⅶ層砂層である。遺構は、第V層上面では竪穴住居址（S B）1棟、掘立柱建物址1棟、溝（S D）1条、土坑（S K）5基、柱穴76基、倒木痕跡3基を検出した。以下、主要なものについて記す。

S B 1は、調査区中央南側に位置し、平面形態は方形を呈する。規模は、東西5.4m、南北4.2m、深さ15～40cmを測る。遺物は、弥生土器の壺・甕・高杯・支脚、須恵器の壺身、土師器の高杯、碟が出土している。施設には壁体溝を検出したが、主柱穴や炉は確認できなかった。壁体溝の規模は、幅15～50cm、深さ20～25cmを測る。壁体溝の埋土は黒褐色土で、溝中からは遺物は出土しなかった。

掘立1は、調査区南東部に位置し、建物は東の調査区外へ続く。掘立1は南北3間、東西3間以上となり、規模は南北5.4m、東西検出長6.1mを測る。柱間は、南北が80～85cm、東西が95～120cmである。各々の柱穴は、南北柱穴は平面形態が楕円形と長方形で、柱穴の径は68cm、深さは18～55cmを測る。東西の柱穴は、平面形態が楕円形と長方形で、柱穴の径は85～92cm、深さは32～66cmを測る。なお、東西列の柱穴は柱間や規模が南北列のものより大きい傾向をもつ。遺物は弥生土器と須恵器の壺蓋が出土した。

小結 本調査では弥生時代から中世までの遺構や遺物を多数検出することになった。古墳時代の遺構には、竪穴住居址1棟（S B 1）、掘立柱建物址1棟（掘立1）、溝1条（S D 1）、土坑5基（S K 1～5）があり、当地一帯が古墳時代後期に居住地となっていたことが判明した。このうち注目されるのは、6世紀末～7世紀前半の1号掘立柱建物址である。調査地東200mにある素鷲小学校構内遺跡の建物群の時期が判明すれば、古墳時代集落の構造が詳細になることであろう。また、本調査地内では、弥生時代遺構を検出するにいたらなかった。これは、中村松田遺跡に展開する弥生後期集落の北限を規定する可能性がある。

（水本）

中村松田遺跡 3次調査地

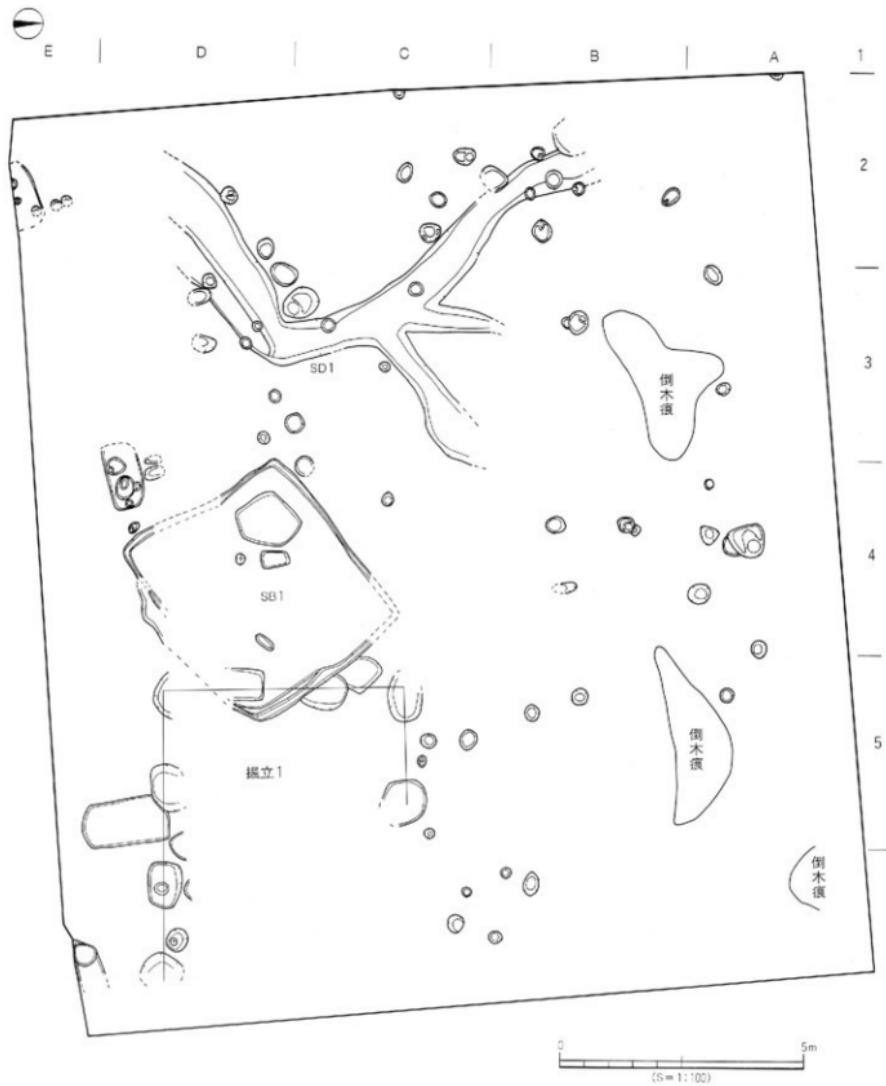


図2 遺構配置図

中村松田遺跡3次調査地



写真1 調査地遠景（南東より）



写真2 調査地全景（西より）



写真3 SB 1 完掘状況（北東より）



写真4 SB 1 出土遺物

スジ カイ 筋違 L 遺跡

所在地 松山市松末2丁目22-2外
期間 平成9年7月7日～同年12月25日
面積 5,404.04m²
担当 山本健一・山之内志郎



図1 調査位置図

経過 本調査は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地「No.114 松末遺物包含地」内における宅地開発に伴う事前調査である。調査地は、福音寺地区の低丘陵上の標高約28mに位置する。

調査地周辺の遺跡として南東約300mには弥生時代後期の溝、土器溜り、祭祀遺構をはじめとする弥生～飛鳥時代の大集落である福音小学校構内遺跡が、また東から南東には筋違E～I、K遺跡が、南西にはJ遺跡が所在し、弥生時代～中世の集落間連遺構を中心とした遺構を確認している。そのため、当該地区における弥生時代～中世の集落間連遺構の広がりの確認と、その性格の解明を主目的に本格調査を実施した。なお、便宜上調査区を1～5区に区分した。

遺構・遺物 本調査地の基本層位は次のとおりである。第Ⅰ層耕作土、第Ⅱ層床土、第Ⅲ層造成土、第Ⅳ層旧耕作土、第Ⅴ層床土、第Ⅵ層明灰褐色シルト、第Ⅶ層暗灰褐色粘質土（遺物包含層）、第Ⅷ層黒褐色粘質土（遺物包含層）、第Ⅸ層暗灰褐色シルト、第Ⅹ層地山。

本遺跡において弥生時代から中世の遺構・遺物を検出した。検出した遺構は、竪穴式住居址10棟、掘立柱建物址4棟、溝24条、土坑64基、柵列2条、土壙墓4基、井戸1基、柱穴1,024基他である。

〔弥生時代前期〕SK407は4区南端に位置する。平面形は隅丸長方形を呈し、規模は南北2.66m、東西1.42m、深さ0.34mを測る。断面形は上面よりほぼ垂直の皿状を呈し、床面はほぼ平坦である。埋土は上層に焼土を含む、やや粘氣のある黒褐色土である。出土遺物は弥生時代前期の壺・甕・石斧などである。

〔古墳時代中期〕SB403は4区西部に位置する。平面形は方形を呈するが、北側約1/2は調査区外である。規模は南北4.30m以上、東西7.41mを測る。検出面より壁高は34cmを測る。住居址埋土は暗灰茶褐色土である。主柱穴は2本確認している。

なお、この住居からは祭祀跡と考えられる遺構を検出した。出土遺物は、須恵器（壺蓋・壺身・高杯・壺など）・土師器（壺・甕・高杯・瓶など）・手づくね土器・玉類（管玉・白玉・ガラス玉）などである。出土状態として、埋土上層からは須恵器が、中・下層からは焼土・炭に混じり土師器が密集した状態で検出された。分布範囲は、前者が住居址中央付近で長さ2.4m、幅0.85mにわたり北東～南西方向に長楕円形形状に分布していた。後者は南東から中央付近にかけて落ち込んだ部分に分布し、規模は南北3.4m、東西4mを測る。器種別での分布の傾向として、北東方向から中央部にかけて高杯・小型丸底壺が、南東部に大型壺がまとまりをもって検出されるなど、ある程度の分布の集中がみられた。また、特筆すべきものとして朝鮮系軟質土器が数点出土している。これらの出土した土器から、この住居址の年代を古墳時代中期に位置付けている。

筋道 L 路跡



図 2 防護道路各調査地位置図 (縮尺 1 : 1,500)

【古墳時代～古代】S A101は、1～3区内において北東～南西方向に伸びる総延長約51m分の構造で、1区で27間分約19.7m、2区で2間分約2.6m、3区で都合42間分約9.3mである。柱間は26～165cmである。各柱穴は楕円形または長楕円形で、径28～119cm、幅23～56cmを測り、検出面よりの深さ2.5～25cmを測る。埋土は暗灰褐色土を基調とする。

この遺構の特徴的な点として、遺物の出土状態にある。須恵器片・土師器片・石器片などの遺物が各々の柱穴床面に敷き詰められたように検出された。すなわち、遺物は柱を設置する根詰めの材料として使用されたものと考えられる。また、列をなす柵はひとつの柱穴に1～2回の建て替えがみられ、柱の腐食などによって建て替えられたものと推定される。遺構の時期は、埋土などにより古墳時代中期以降～古代頃と推定される。

【中世】掘立201は2区東部に位置し、主軸はN-2°-Wである。建物の規模は2間×2間で、桁行6.80m×梁行4.56mを測る。各柱穴は円形または楕円形を呈し、径29～45cm、深さ27～63cmを測る。柱穴埋土はやや茶色を含む灰褐色土を基調とする。柱穴内から炭化物を検出した。遺構の時期は、柱穴埋土や第Ⅷ・Ⅸ層を切っていることから中世と推定している。

掘立202は2・3・区の境界に位置し、主軸はN-2°-Wである。建物の規模は3間×2間であり、桁行7.76m×梁行4.32mを測る。各柱穴は円形または楕円形を呈し、径20～33cm、深さ17～50cmを測る。柱穴埋土は明灰褐色土を基調とする。柱穴内から遺物は出土していない。遺構の時期は、掘立1と方向性・柱穴埋土が似ているため、中世と考えられる。

次にS D201は、2・3・5区に位置する。検出長（内法）は南北約22m、東西約31m、上場幅4.7～5.6m、検出面よりの深さ約28cmを測る。断面形は皿状を呈する。埋土は明灰褐色細砂質土である。須恵器・土師器・土鍋・陶器などが出土し、遺構の切り合い関係、埋土などより、遺構の時期は中世と考えられる。

小 結 今回の調査では、弥生時代から中世における遺構・遺物を確認した。SK407をはじめとする弥生時代前期の土坑は、近年来住地区や平井地区でも同様の遺構が検出され、廐窓土坑や貯藏穴などの可能性があるが、その性格についての解明は今後の課題である。

祭祀跡と考えられる遺構が検出されたSB403は、集落の中での祭壇または聖域のような場所であった可能性が考えられる。しかし現時点では、その信仰の対象物が明らかになっていない。本資料については、類例調査を行うとともに土師器の器種構成や出土状況などから、今後の整理作業の中で明らかにしていく必要がある。

また本調査区は、東から西方向へ舌状に張り出した低丘陵上に位置していることから、1～3区で検出したSA101は、谷へ向かう変換点に土地を区画するために設置した可能性が考えられる。現時点では古墳時代～古代に比定しているものの、その時期や用途などについては依然不明な点が多い。近接した筋道E遺跡・福音小学校構内遺跡でも検出されていることから、あらゆる可能性を範疇に含め、広い視野での類例調査が必要である。

S D201は、内法が南北約22m、東西約31mで長方形に周囲すると推定される。この溝で囲まれた内外部には掘立201・202のような建物が存在していたと推定され、その性格については今後の整理作業の中で解明したい。

以上、今回の調査では、福音寺地区における集落の展開がより一層明らかとなった。今後は、周辺地域を含めて集落構造について明らかにしていく必要があろう。

（山之内）



図3 遺構配置図

筋道 L 測跡

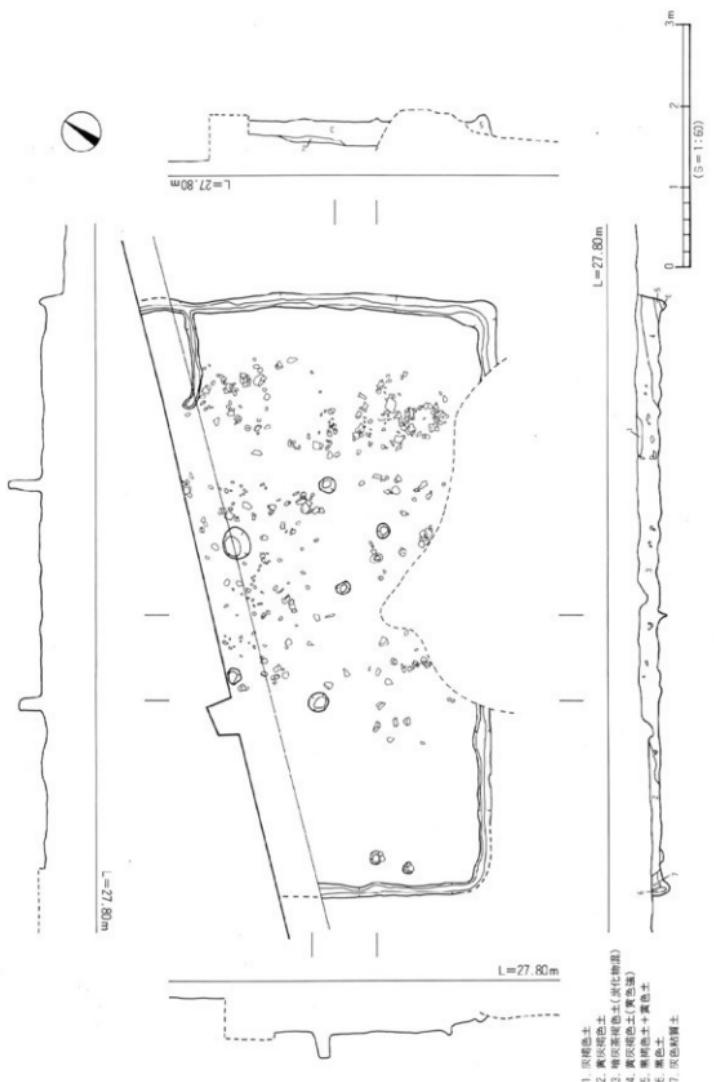


図 4 SB403測量図

筋造 L 遺跡



写真 1 1区遺構検出状況（南西より）



写真 2 3区遺構完掘状況（東より）

筋遠L遺跡



写真3 4区遺構検出状況（西より）



写真4 4区SB403遺物出土状況（北東より）

久米才歩行遺跡 3次調査地

所在地 松山市南久米町484番地1番
期間 平成9年9月1日～同年10月31日
面積 496.32m²
担当 宮内慎一・相原秀仁



図1 調査地位置図

経過 本調査は松山市の指定する埋蔵文化財保有地の「No.126 高畠遺物包含地」内における宅地開発に伴う事前発掘調査である。調査地は重信川中流右岸の小野川扇状地と石手川扇状地との間に形成された洪積台地上、標高33.2mに立地する。同包含地内では南久米片廻り遺跡（1・2次調査地）や北久米町屋敷遺跡（1・2次調査地）、南久米町遺跡（1・2・3次調査地）などが所在し、縄文時代から中世までの遺構や遺物が確認されている。とりわけ、調査地に隣接する久米才歩行遺跡2次調査地からは古墳時代後期の堅穴式住居址や弥生時代前期の土坑などの集落関連遺構が検出されている。これらのことから、調査は調査地及び周辺地域の弥生時代から中世の集落の広がりや構造解明を主目的として実施された。

遺構・遺物 調査地は調査以前は畠地であった。基本層位は第Ⅰ層表土、第Ⅱ層灰色土、第Ⅲ層淡茶褐色土、第Ⅳ層暗灰褐色土、第Ⅴ層黄褐色土（調査地南側では小礫を含む）である。第Ⅰ・Ⅱ層は近現代の農耕にかかる客土で地表下20～30cmまで開発が行われている。第Ⅲ層は中世、第Ⅳ層は古代の遺物包含層で、それぞれ5～10cm程度の堆積である。第Ⅴ層上面は最終の遺構検出面であり、調査地北東部から南西部に向けて傾斜をなす（比高差40cm）。

検出した遺構は古代から中世までのもので、掘立柱建物址4棟、溝3条、土坑2基、ピット411基である。遺物は遺構及び包含層からの出土であり、弥生土器（前期）、土師器（古墳時代～中世）、須恵器（古墳時代～古代）、備前焼、輸入陶磁器（青磁）などである。ただし、遺物は小片ばかりである。
【古代】古代の遺構は掘立柱建物址2棟（掘立1・2）と土坑SK1がある。掘立1は2×3間以上の東西棟で建物東側は溝SD1に、南北隅及び中央部の柱穴はそれぞれ土坑SK1、SK2に切られている。建物方位は両者共に真北方向よりわずかに東に振っている。柱掘り方は円～楕円形を呈し、規模は掘立1が径80～105cm、深さ10～15cm、掘立2は径30～60cm、深さ10～25cmを測る。出土した遺物の特徴から7世紀前半頃の建物址と考えられる。また、土坑SK1は掘立1に後出し、8世紀代の須恵器・土師器が出土している。

【中世】中世では掘立柱建物址2棟（掘立3・4）、溝SD1、土坑SK2が検出された。掘立3・4は1×2間の南北棟で建物方位をほぼ真北に等しくする。柱穴内からは径20cm大の扁平な石が検出された。溝SD1は調査区東側を南北に延びる溝で断面形はレンズ状を呈する。水の流れた様子はなく土地を区画するための溝ではないかと考えられる。土坑SK2は遺存状況は良好なものではないが、床面付近から鉄片（塊）が数点出土した。このことから工房的な性格を持った遺構の可能性がある。出土遺物からこれらの遺構の時期は概ね15～16世紀と考えられる。

久米才歩行遺跡3次調査地

小 結 今回の調査では、弥生時代から中世までの遺構と遺物を確認することができた。弥生時代や古墳時代に確実に時期比定される遺構は未検出であるが、ピット内からは遺物が少量出土している。隣接する久米才歩行遺跡2次調査において同時期の遺構が検出されていることから、該期の集落が調査地周辺に展開していることを補充する資料である。中世では掘立柱建物址や地区割りの溝、工房的性格の土坑など、当時の集落構造をわずかではあるが解明することができた。今後は調査地や周辺の遺跡を検討し、弥生時代から中世にいたる各時代の集落の広がりや構造を、来住台地との関係をも考慮して考えて行かねばならない。

(宮内)

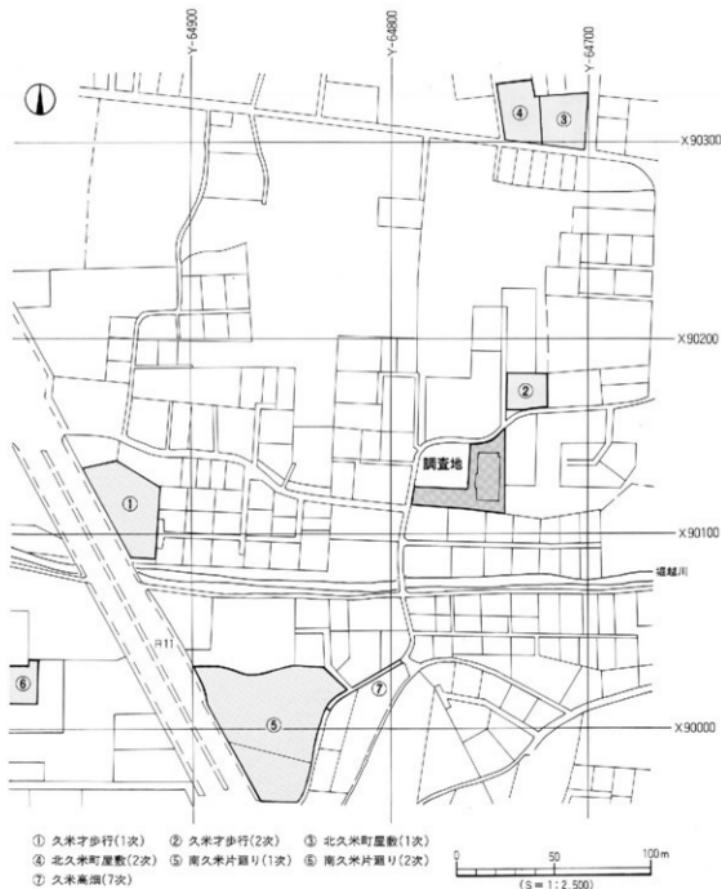


図2 調査地周辺の遺跡分布図

久米才歩行遺跡 3次調査地

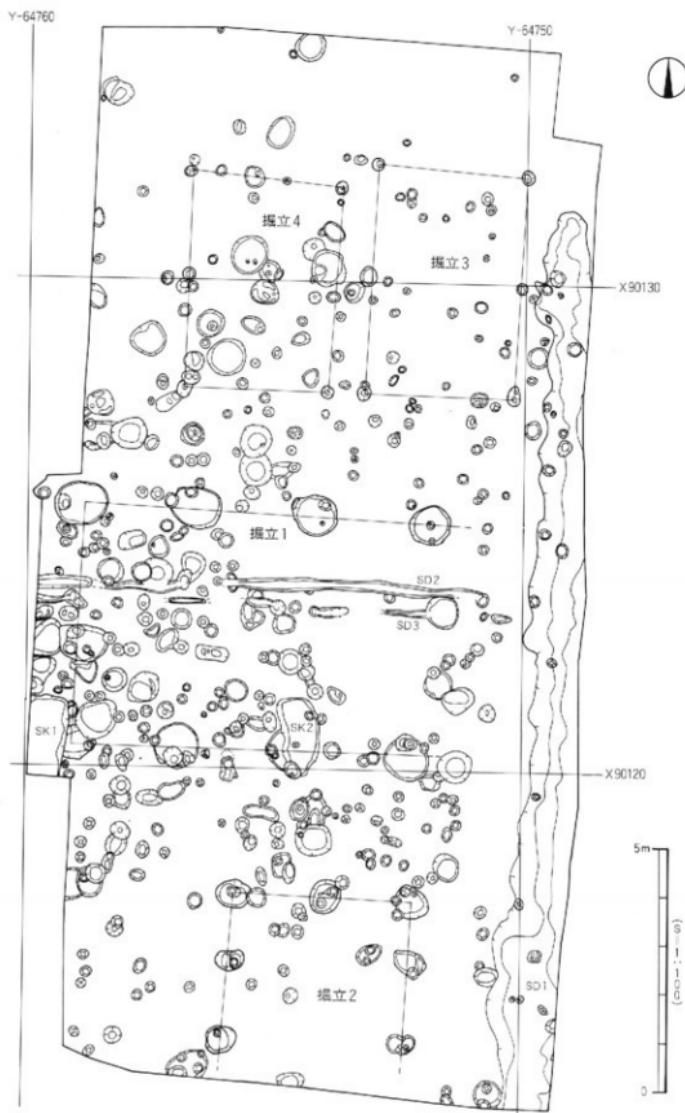


図3 遺構配置図

久米才歩行遺跡3次調査地

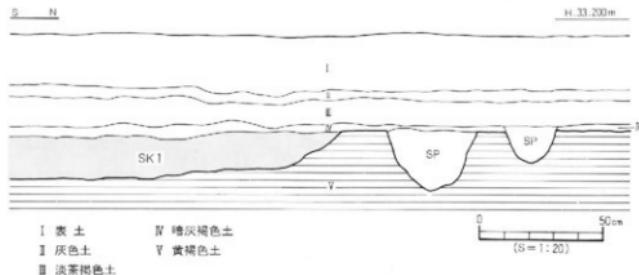


図4 西壁土層図

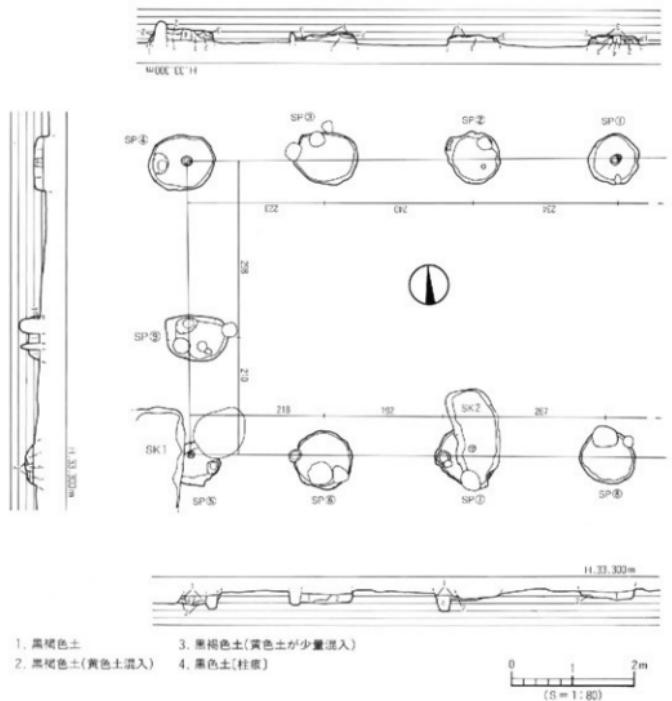
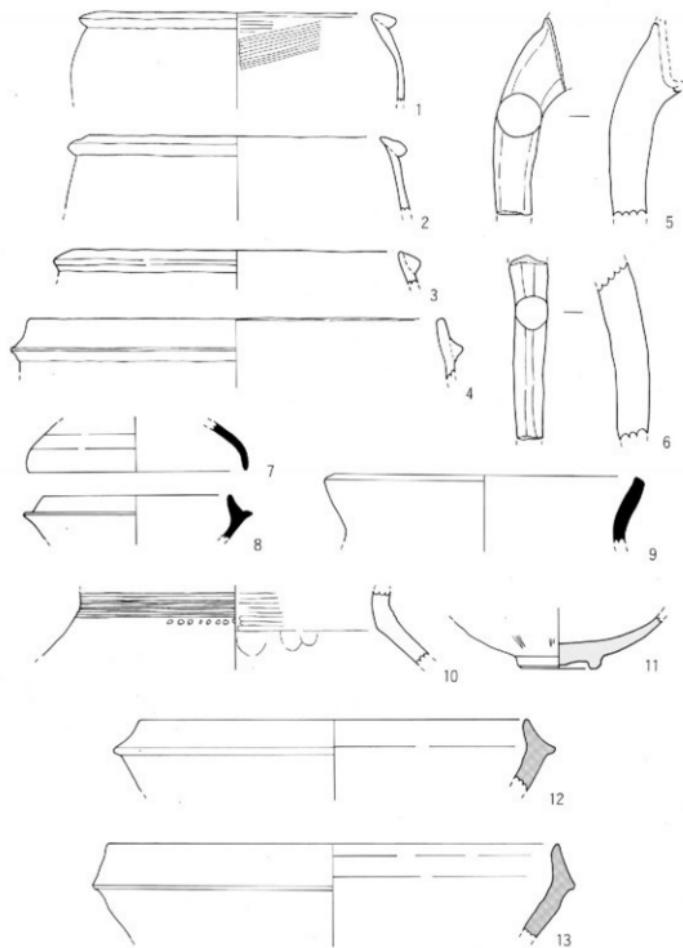


図5 掘立1測量図



0 5 10cm
(S = 1:3)

図6 出土遺物実測図

久米才歩行遺跡3次調査地



写真1 完掘状況（南より）

久米官衙遺跡群～平成9年度調査の成果～

国指定史跡「来住庵寺跡」を含む古代の官衙遺跡群における発掘調査は、本年度も継続的に行われた。昨年度と同様、南東部の来住庵寺付近における調査は無く、遺跡群の北部に位置する久米高畠遺跡の区域において、8件（総面積約2858m²）の本格調査が行われた。低金利等に伴って、宅地開発と住宅の着工件数が大幅に増加した平成8年度（7件・6555m²）と比較すると、開発の動きは、やや沈静化しつつある。しかし、この20年来の都市化の進行に伴って、断片的な調査を余儀なくされ、遺跡群の全体像をとらえにくい状況が続いている。このような状況にあって、開発行為に左右されず、遺跡の内容把握を事前に進める目的のもと、学術調査を実施することになった。これまでにも、来住庵寺の周辺において同様の調査が行われたことはあったが、来住庵寺の構造解明以外の目的のために実施されるのは、今年が初めてである。38次～40次の3件の調査が、これに該当する。いずれも国からの補助を受けて実施されたものである。このほか、33次・34次・37次の3件は、国庫補助による個人住宅関連の調査である。また、35次は民間の宅地開発に伴う調査であった。

なお、今年度の調査箇所は、その立地と構造の性質の違いから、以下の3群に区分される。まず、久米郡衙正倉院の濠に関わる3件の調査、さらに、遺跡群北東部における4件の調査と、「回廊状遺構」の西方において縄文時代の堅穴住居1棟を検出した36次調査の3群である。

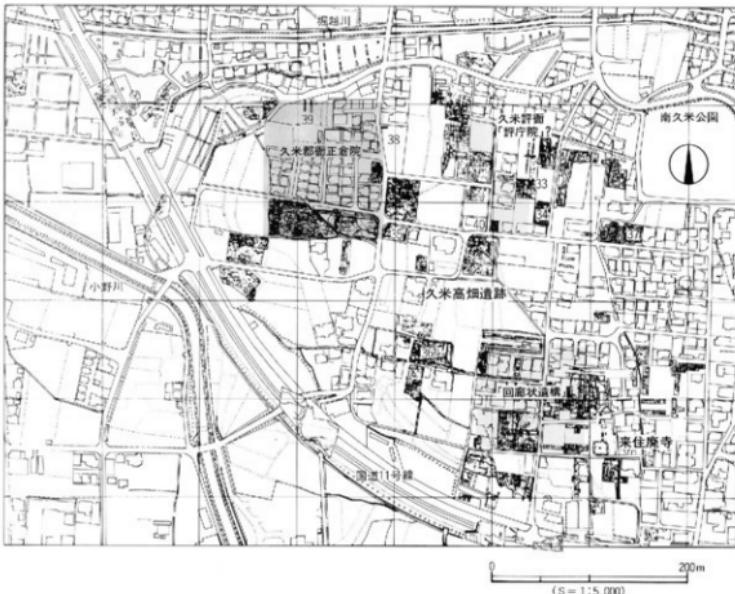


図1 平成9年度調査地位置図

1 久米都衛正倉院に関する調査動向

昨年度の複数地点における調査成果に加えて、本年度は、2件の学術目的を含む3箇所の調査において、正倉院外郭の濠の一部を検出した。35次では、南東角に近い東濠の一部を確認した。38次では、同じく東濠の北部において同様の成果を得た。また、北濠中央のやや西寄りの地点では、39次調査として、2本のトレンチが設定され、これまで情報が少なかった正倉院北辺において新たなデータを得ることができた。これらの調査によって、概ね濠の規模を特定することができた。

2 官衙遺跡群北東部における調査動向

「久米評衙」の中核施設であると推測されている施設の南東、「回廊状遺構」と呼ばれる施設の北方に位置する官衙遺跡群北東部の区域においては、4件の調査が行われた。

33次調査地では、掘立柱建物1棟が、L字形に配置された柵によって区画された敷地に建てられている状況が明らかにされた。これは、官衙施設の一部にあたるものと判断している。また、34次では、柱穴の一部が布掘り状に掘られた掘立柱建物が検出され、昨年度の32次調査の成果を参考にして、官衙に所属する倉庫の一種（倉代）ではないかと推測している。今後、正倉院に所属する倉や屋と、院外に展開する建物との関係を考えるうえで重要な知見を得たと評価している。一方、40次と37次は、ともに、官衙施設を配置する際の基準線となる東西方向の土地区画のライン上に位置することが以前から想定されていた箇所における調査である。40次は、この事実を確認する目的のために、学術調査として実施された。その結果、西の40次では、想定位置において区画溝1条を、また、東の37次では、同じライン上において柵を検出した。この柵の北側には、複数の官衙関連建物が重複して展開していることから、当時の道路に面した土地区画の南辺に、目隠しのための板塀が設けられた状況を想定している。以上の成果によって、官衙遺跡群の土地区画のうち、少なくとも東西方向のラインに関しては、その存在がほぼ実証されたものと確信している。また、遺跡群の辺縁部においても、関連の地割りや施設が展開する事実を確認することができた意義は大きい。今後は、これらの周辺部の施設の役割を解明し、遺跡群全体の構造の把握につとめたい。また、今回の40次では確認されなかったが、遺跡群の南北方向の基準線の確認に向けた作業を進めていきたい。

3 繩文時代に関する調査動向

36次調査地では、縄文晚期前半の円形の竪穴住居1棟が検出された。床面からは、多数の縄文土器片の他、石皿などの石器類が出土するなど、多くの成果が得られた。当該期の住居の確認は、県内では初めてのケースとなる。また、33次では、後晩期のものと考えられる落し穴1基を検出した。この調査地からは、数点の晩期後半の突帯文期の土器片が、遺構に伴わない形で出土している。さらに、8年度に調査された26次調査の際にも、晩期前半の土器や石器を出土する土坑1基が検出されている（年報IX）。以上のことから、当該箇所付近では密度は低いものの、縄文晩期を通じて人間の活動が行われたものと考えられる。

（稿本）

久米高畠遺跡33次調査地

所在地 松山市南久米町749番・来住町872番2
期間 平成9年4月14日～同年6月20日
面積 637m²
担当 橋本雄一・小笠原善治



図1 調査地位置図

経過 個人住宅の建設に先立って、国から補助を受けて調査を実施したものである。調査地点は、平成8年度に調査が行われた同28・29次調査地の南西に接しており、その際に確認済みの弥生時代の大溝（環濠）の続きが検出されることが確実であった。また、北西およそ70m地点に位置する、久米評術の中核施設である可能性が高い一辺45m規模の柵によって囲われた官衙遺構の存在などから、官衙関連の施設も確認されるものと期待された。調査は、南東に隣接する34次調査とはほぼ同時進行で実施した。

遺構・遺物 今回の調査では、少ないながらも縄文時代の遺構・遺物も確認されている。調査地の南部に位置するSK030は、長径1.2m、短径0.8m、検出面からの深さ0.6mの、一部袋状に掘られた長方形の土坑である。埋土の性質が弥生時代以降のものと大きく異なり、縄文土器の胴部片が2点だけ出土している。最も特徴的なことは、土坑の中央に直径0.17m、深さ0.3mの小ピットが掘り込まれている点である。以上のことを総合して、この土坑は縄文時代の落し穴である可能性が高いものと判断している。出土遺物から時期を判定することは難しいが、調査地内から数点の刻み目突帯文土器の破片が出土していることなどから、晩期後半頃のものである可能性が高いものと判断している。

弥生時代の遺構としては、昨年度確認済みの3条目の大溝の南への続きの部分を新たに検出したほか、長方形・円形の土坑を30基近く確認している。同様のものは、過去の調査の際にも多数検出されており、時期的には大溝と重なる前期末から中期初頭頃に属するものと考えられている。

官衙関連では、L字形に配置されたと考えられる2条の柵と、これに伴う可能性が高い掘立柱建物を2棟検出した。このうち掘立001は、桁行き4間(7.4m)、梁間2間(3.8m)の南北棟(28m²)で、柱穴の形状は概ね円形を基本とするが、一部方形に近いものも認められる。建物の方位はN-3.5°-Eで、これはL字形に配置された2条の柵とほぼ共通している。なお、当初、雨落ち溝であると想定していたSD003は、この掘立の木製基壇の基礎のための掘り込みである可能性も否定できない。溝が、柵によって仕切られた空間の内側にある、掘立の西側にのみ掘り込まれていることも、この溝の性格を考える際の参考になる。一方、柵は、この掘立を開き形に設けられた、土地区分のための施設であると想定している。SA002が北側の001の東端に連結する付近の柱穴の中に、ひとまわり大きなものが含まれていることから、この場所は、外の空間に通じる通用口であった可能性を想定している。さらに、掘立002についても、掘立001やSAと関連のある建物かもしれないが、詳細は不明である。なお、これら官衙関連の遺構の配置は、p91の図1に示すように、過去に確認済みの官衙施設と

久米高畠遺跡33次調査地

密接な関係が認められる。今回の調査で検出されたL字形の柵は、「回廊」の北二町、「久米評術」の中核施設の東一町にあたる方一町の空間の南西角地を部分的に仕切る目的で設けられたものと考えられる。掘立001は、その空間の北東角に設けられた建物であると理解される。今後は、この新しい施設の性格を解明することが課題となる。

(橋木)



図2 遺構配置図

久米高畠道路33次調査地



図3 調査地周辺図（縮尺1:2,000）



写真1 南部完掘状況（東より）



写真2 落し穴：SK 030 完掘状況（北北西より）

久米高畠遺跡34次調査地

所在地 松山市来住町870番1
期間 平成9年4月16日～同年6月19日
面積 208m²
担当 橋本雄一・小笠原善治



図1 調査地位置図

経過 個人の住宅建設に先立って、国から補助を受けて調査を行ったものである。同様の事由による33次調査と同時並行で実施することによって、作業の効率化をはかった。なお、試掘調査の際には遺構・遺物が検出されなかったため、本格調査の予定がなかったすぐ北側の土地（来住町870番2・146m²・平成7年218号）についても、土地所有者が同一であることから、許可を得たうえであわせて調査を行うこととした（2区）。

昨年度に弥生時代の大溝を検出した28・29次調査地の南50m付近に位置することから、広範囲に展開すると予想されるこの溝の行方にに関して、何らかの情報が得られるものと期待された。また、官衙遺跡群に関しては、東西方向の地割りの想定ラインのすぐ北側に位置することから、新たな関連施設の確認が行われるものと期待された。

遺構・遺物 昨年度の調査に続いて33次調査でも検出されている弥生時代の大溝は、この調査区内には達していないことが明らかになった。したがって大溝は、調査区北東角と23次調査地との間か、もしくは、北西角と33次調査地との間の、極めて限られた位置を通って南に抜ける可能性が高まった。SK007など、土坑の一部は弥生時代のものであるが、このほかの遺構の大半のものは古墳時代後期以降のものである。

掘立001は、方形柱穴によって構成される南北棟の大型建物である（N=6°-E）。桁行きは調査区の南に統いため不明であるが、おそらく7間であろう。調査区内では6間分（8.6m）を確認している。梁間は3間（4.5m）である。7間×3間の場合、その平面積は約45m²となり、梁間3間の南北棟である形態と合わせて考えると、官衙に伴う中規模以上の倉である可能性もある。これと同様の考え方の建物が、昨年度の正倉院における調査（32次）や、隣接する30次調査の際にも検出されている（年報IX）。それらの建物の中には、布堀りの柱穴を持つものが含まれていたが、この建物についても、東側柱列の一部について、柱穴2基を布堀り状にまとめて掘った箇所がある。今後この視点は、官衙を構成する個々の建物の性質を識別する際に参考になるかもしれない。

掘立002と003は、時期不明の大型の掘立柱建物である。掘立001よりも後出し、002より003の方が新しい。柱間が異常に広いことから、本当に建物として成立していたのか疑問が残るが、002の柱間を検討すると、東側柱列から中央の柱列の間の距離が、西側の幅と比較して広くとられている。このことは、これらの建物が一棟ではなく、並立する複数の大型建物から構成されていることを示すものかもしれない。2棟とも埋土は近現代の耕作土に近い性質のものであったが、出土遺物が全く無いた

久米高畠遺跡34次調査地

め、現状では古代以降としか評価できず、不明な点が多い。さらに、性格不明の遺構として、柱穴と柱穴の間に升目状に掘り込まれた溝が存在する。柱穴の位置を意識して掘られた形跡も読みとれるので、これらの建物と関連のある遺構である可能性も残されているが、詳細は不明である。(橋本)

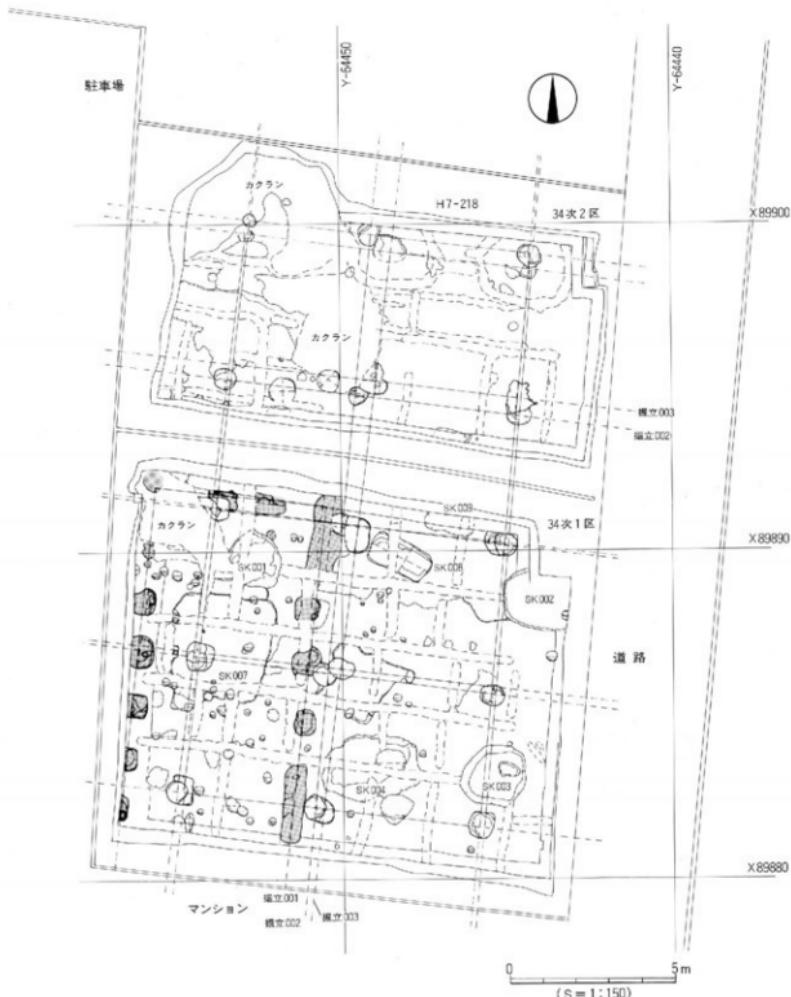


図2 遺構配置図

久米高畠遺跡34次調査地



図3 調査地周辺図



写真1 調査地全景（北より）



写真2 堀立001周辺完掘状況（北より）

久米高畠遺跡35次調査地

所在地 松山市南久米町765番6
期間 平成9年5月7日～同年6月7日
面積 442m²
担当 河野史知



図1 調査地位置図

経過 本調査地は、松山市南久米町765番6における宅地開発工事に伴う事前調査である。調査地は松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地「No.127 来住廃寺跡」内に所在する。周辺には、北西約220mに久米官衙遺跡群を構成する施設のひとつである「回廊状遺構」、南東約250mに「久米評術」の一部であると想定される箇所があり、重要な地域に位置する。また、西隣の31次調査地においては、7世紀代を通じて機能していた区画性の強い2条の並行する直線溝や、8世紀代に掘削された区画溝と「久米郡衙正倉院」を構成する倉庫群と判断される遺構を検出している。また、20次調査地においても区画溝を検出し、この区画溝や周辺遺跡との集落関連遺構の広がりを主目的に本格調査を開始した。

遺構・遺物 本調査では、竪穴式住居址3棟、掘立柱建物址1棟、溝10条、土坑12基、柱穴68基、倒木痕2基を検出し、出土遺物より縄文時代晚期から古代に位置づけられる。

主な遺構は、縄文時代晚期の遺構として、土坑（SK12）を1基検出している。土坑の上層にて深鉢の細片が密集した状態で出土している。弥生時代の遺構では、竪穴式住居址（SB1・2：後期初頭）がある。SB1は円形の竪穴式住居址で、主柱穴は4本分を検出している。周壁溝は壁体に沿って検出してあり、住居址床面の南西部から北東部にかけ、さらに内側を巡る周壁溝や、軸をやや振る主柱穴を検出した。古墳時代の遺構は、SD1が東西に延びており、上場幅1~1.4mを測り、溝はほぼ垂直に掘られ基底面は平坦である。緩やかに蛇行し、西側はやや北に振れる傾向を示す。SB3は方形の4本柱の竪穴式住居址である。掘立1は東西3間、南北1間以上の掘立柱建物址である。古代の遺構では、南北に走るSD10を検出した。溝はほぼ真北を指向しており、南北に検出長2m分を検出し、検出面よりの深さ1mを測る。断面形態は逆台形状に急勾配を呈する。

小結 今回の調査では、縄文時代晚期から古代に至る遺構と遺物を検出した。縄文時代晚期のSK12は後世に削平を受けており遺存状態は良くないが、隣接地には同時期に比定される26次調査地SK21があり、それらとの関連を考えなければならない。弥生時代のSB1・2は炉址をもつ竪穴式住居址であり、二棟は、同時期の存在が窺える。また、SB1では主柱穴内にはほぼ完形の鉢が出土しており、この土器は建物の廃絶時に柱穴内に意図的に入れられたものと考えられる。これより新しい時期にSB3が存在している。SD1は区画性の強い溝で、この溝は上層の堆積状態より短期間の埋没が考えられる。SD1と掘立1は埋土や遺構の位置関係から、同時期の存在が窺える。SD10は「久米郡衙正倉院」の施設を含む東辺の区画溝の外側と考えられる。20次調査地で検出された区画溝に対しほぼ直線的に延びており、一部の検出であるが、官衙関連遺構の様相が徐々に浮かびつつある。（河野）

久米高畠遺跡35次調査地

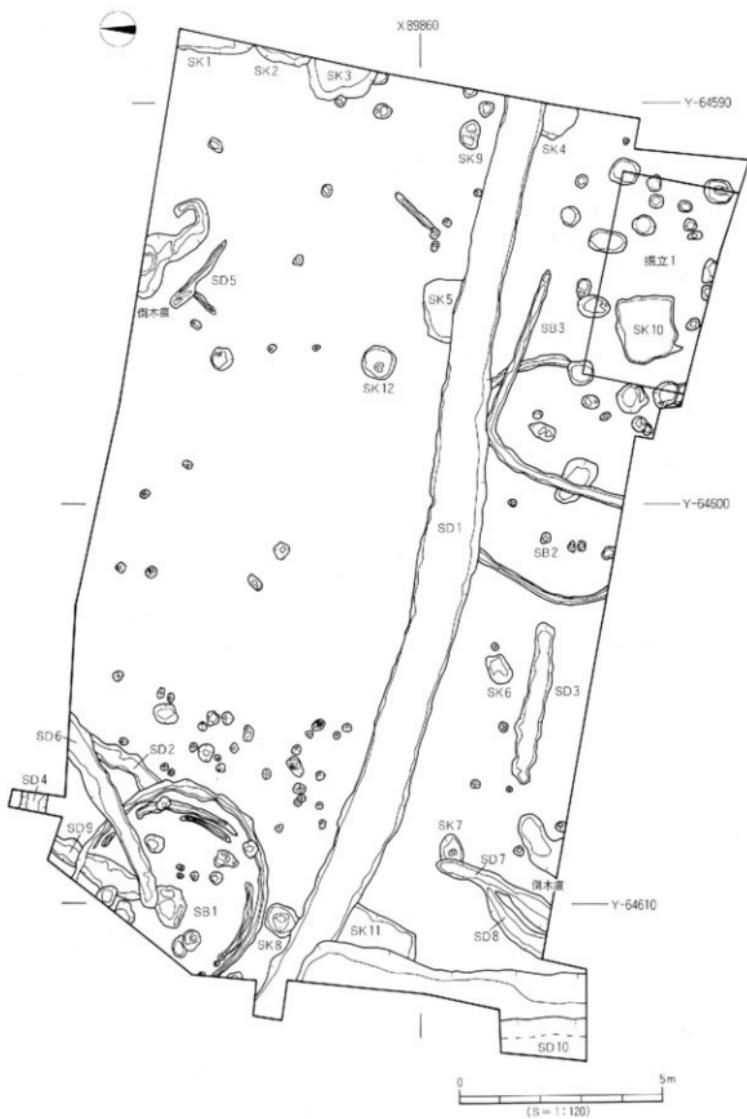


図2 遺構配置図

久米高畠遺跡35次調査地

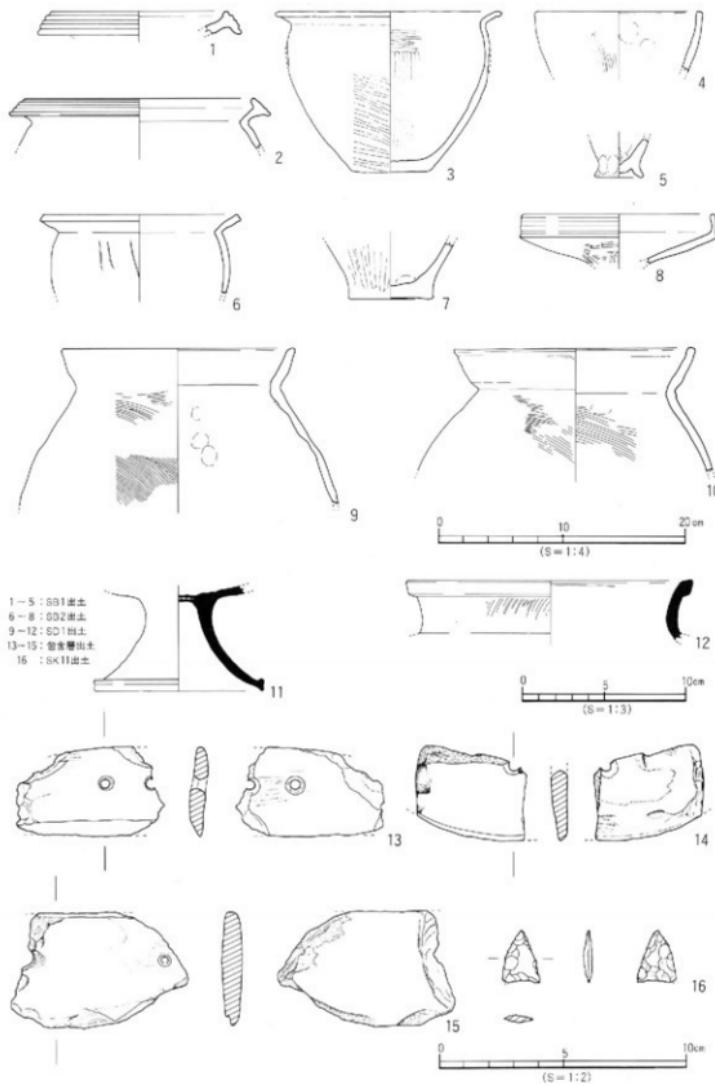


図3 出土遺物実測図

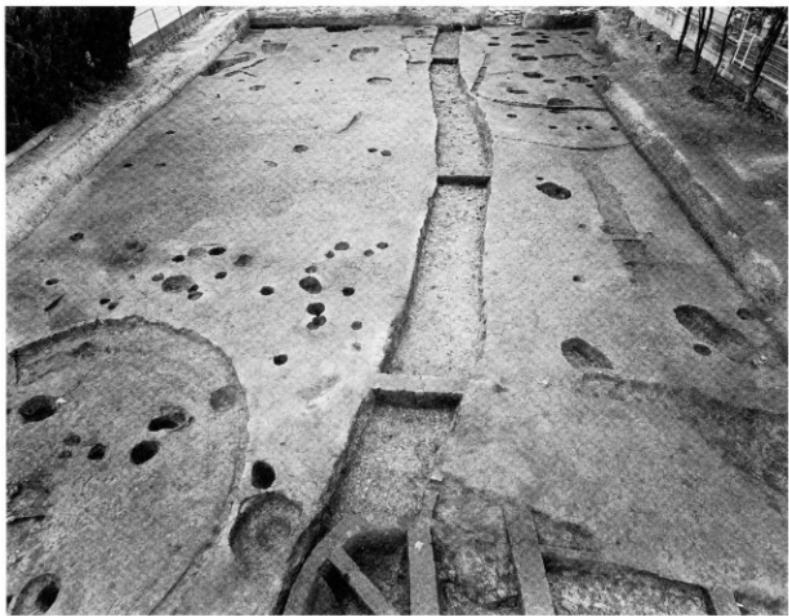


写真1　遺構完掘状況（西より）



写真2　SD10検出状況（北より）

久米高畠遺跡36次調査地

所在地 松山市来住町907-1
期間 平成9年6月25日～平成9年10月27日
面積 989.2m²
担当 橋本雄一・小笠原善治



図1 調査地位置図

経過 本調査は宅地開発に先立ち国庫補助事業として調査を行った。調査地は、松山市指定の埋蔵文化財包蔵地「No.127 来住廃寺跡」内に位置し、官衙関連遺跡群に属する。調査次数は現在40次を越えている。南方には国指定史跡の来住廃寺跡及び方一町規模の二重の柵列である「回廊状遺構」がある。また、7～8世紀の古代の役所を構成する正倉院として位置づけられる遺構を検出した。久米高畠遺跡32次調査地からは約150m南東、また縄文時代晚期前半の土坑を検出した久米高畠遺跡26次調査地からは、約120m南に位置している。特に本調査地は、来住廃寺23次調査地に近接していることからも古代の遺構の広がりが注目され、当該地における埋蔵文化財の有無、遺跡の範囲、その性格を確認する目的で調査を開始した。

遺構・遺物 本調査地は標高約37.4mに立地し、調査区は東から西にかけて低く緩傾斜する。検出した遺構は掘立柱建物址8棟、堅穴住居址8棟、土坑58基、溝3条、その他の柱穴は数十基検出している。時期は縄文晚期～近世と幅広く各時代の遺構が確認されている。

今回の調査では、周辺でも数多く検出される弥生時代の土坑（SK031）が切るかたちで、直径3.6m前後を測る縄文時代晚期の円形住居址（SB004）を検出した。近年の来住台地における一連の調査から、縄文時代の遺構・遺物が少なからず検出されてきたが、縄文晚期前半に比定される住居址の検出は初例である。遺物は、浅鉢、深鉢などの土器類と共に幅平な砾の中央部が浅くくぼむ石皿状の石器やくぼみ石、叩石等が出土している。いずれも住居跡床面上からの出土である。この遺構は後世の削平を受けてはいるが、比較的の遺存状態は良く資料的価値は高い。

弥生時代の遺構として、周辺の調査からも検出例が多い円形・方形・長方形を呈する前期末～中期初頭の土坑群が見られる。本調査検出の土坑は比較的の規模が大きくまとまりをもつ。なかには、長軸方向に小柱穴を作り土坑も検出されている。その他、弥生時代の円形堅穴住居址を検出した。SB005の遺存状態は悪く、住居にともなう周溝と主柱穴を確認したにとどまる。時期は前期末～中期初頭と考えられる。

古墳時代の掘立柱建物は8棟、方形堅穴住居址は4棟を検出しているが、その中でも掘立001と掘立005の2棟は規模、柱廻り方の形状と位置関係により同時期のものと考えられる。また、掘立005とSB003の関係は、切り合いよりSB003が掘立005より新しいことを確認した。掘立007は5間×3間の南北棟で、検出された建物のなかでは、最大規模のもの（58.8m²）である。これら掘立柱建物群は周辺で調査される官衙遺跡群と直接的に関わるものとは考えられないが、当調査地を含む周辺遺跡の

久米高細遺跡36次調査地



図2 遺構配置図

中でも比較的大型の部類に属するものである。さらに東辺には雨落ち溝状の遺構（S D003）を持つ事などから注目される建物である。時期は、大型の円形柱穴によって構成されることに加えて、「回廊状遺構」などの官衙関連遺構とは方位を異にする点などから官衙遺跡群よりやや先行する遺構と考えている。官衙遺跡群の出現過程を考える上で重要な建物である。

不整形な土坑SK036からは、須恵器、土師器、小砾、拳大の円礫等が投棄された状況で出土しており、廐棄坑と考えられる。SK016、017、018は、断面逆台形状を呈する長方形の土坑である。埋土の状況から近世の遺構と考えられるが木棺等の痕跡も判断できず、性格は不明である。

小 結 今回の調査では、官衙遺構に直接関わる遺構・遺物は検出できなかったが、各時代に渡る貴重な知見を多く得ることができた。縄文時代晚期前半の堅穴住居の検出などは特筆すべきものである。

(小笠原)

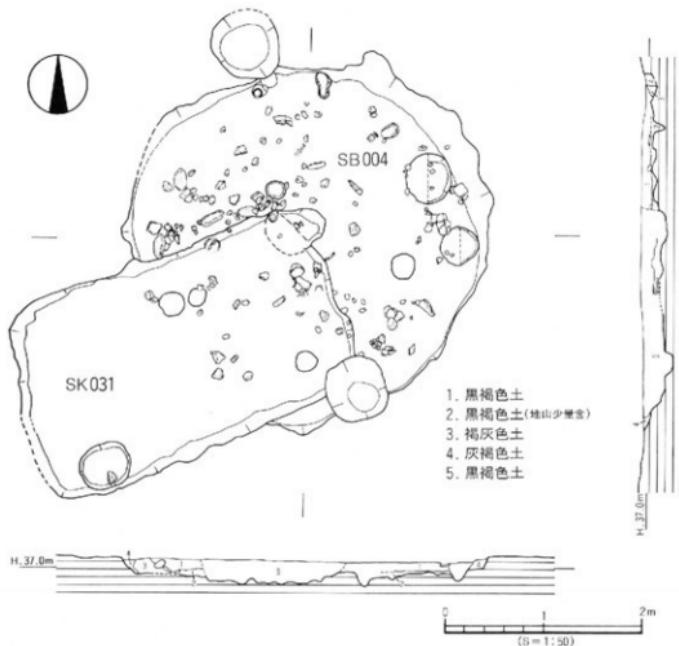


図3 SK031・SB004測量図

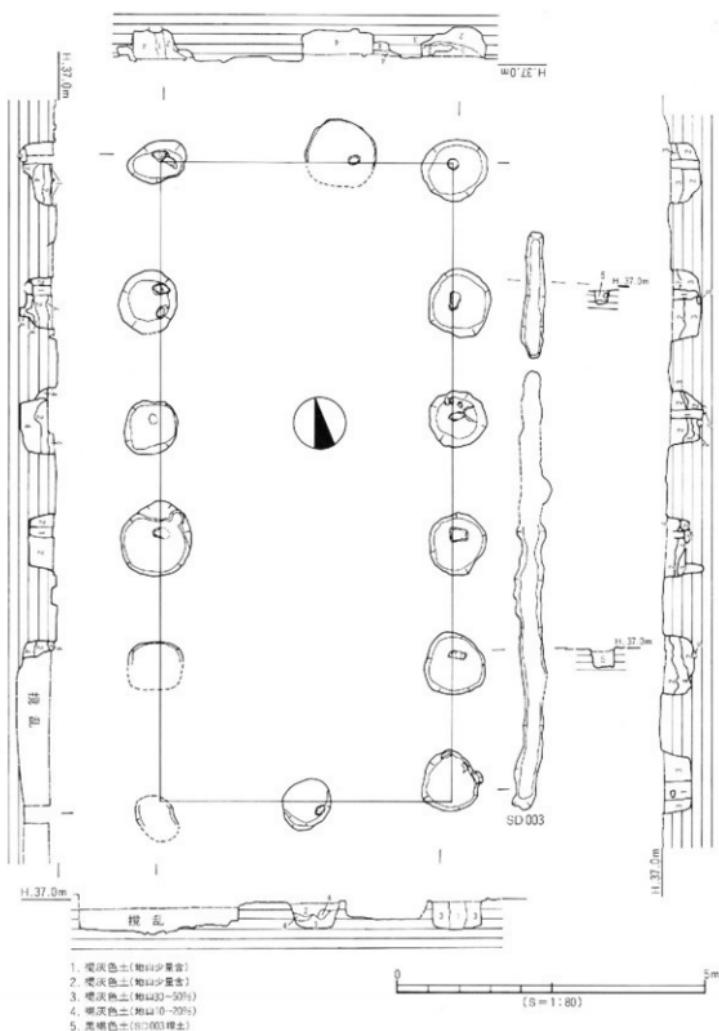


図4 掘立007測量図

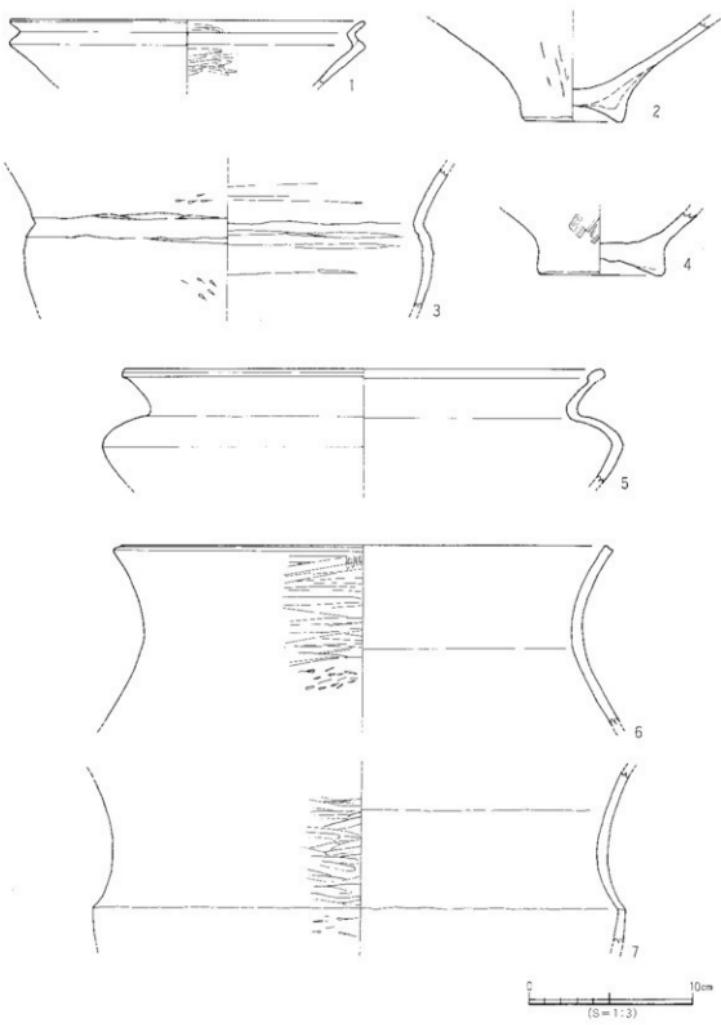


図5 SB004出土遺物実測図

久米高畠遺跡36次調査地



写真1 調査地西部発掘状況（東より）



写真2 SB004遺物出土状況（東より）

久米高畠遺跡37次調査地

所在地 松山市南久米町697番1
期間 平成9年10月20日～10年1月27日
面積 400m²
担当 橋本雄一・小笠原善治



図1 調査地位置図

経過 個人住宅の建設に先立って、国から補助を受けて実施された調査である。調査地は、昨年度に行われた同30次調査地のすぐ東隣に位置している。30次調査の際には、官衙遺跡群における土地の区割りを示す区画溝と、布掘りの掘立柱建物が1棟発見されている（年報IX）。今回の調査によって、これらに類する遺構の確認が行われ、官衙遺跡群の北東部における状況がより一層明確になるもと期待された。

遺構・遺物 30次調査地の南辺において、東西方向の区画溝が一条確認されていたが、今回の調査地では、この溝の東延長線上において、一本柱列：S A 001（7分間・14.4m）を検出した。調査区の南西角近くから始まるこの柱列は、調査地外の東へ続くものと考えられる。柱一間あたりの距離は場所によってばらつきが認められ、最小で1.83m、最大で2.31m、平均2.06mを測る。柱穴は、柱筋に対応する東西方向の隅丸方形ないし不整円形で、検出面からの深さは0.2～0.3m程度である。30次の浅い区画溝が途切れる箇所から、S A西端まではおよそ6m離れているが、本来はS Aの部分にも溝が掘られ、布掘りの一本柱列を形成していたのではないかと考えられている。極めて浅く痕跡的な30次の溝と比較して、さらに浅かったため遺存しなかった可能性が高い。

ちなみにS A 001は、40次を絶て西の31・32次へ至る官衙の東西方向の基準線（幅3m）の北辺の位置にあたっている。以前からこれに関して、官衙関連の道路の存在を想定してきたが、その場合、道に面した一部に目隠しのための板塀を設けた状況を復元可能である。

一本柱列の北側には、少なくとも4棟以上の官衙関連の掘立柱建物が建てられている。30次の布掘りの掘立についても、これと同様の扱いが可能であろう（年報IX）。ただし、柱穴の形状が異なったり、柱筋がきちんと描わないので、これらの建物が同時に建っていたわけではなく、数段階に区分される可能性がある。いずれの建物も、柱穴の形状は隅丸長方形で官衙関連施設としての特徴を示している。建物の方位に関しては同様の評価付けが可能である。真北からの方向角が最も大きく振れる掘立001でN-8°-E、小さな掘立004でN-0.5°-Eを測る。

該当する建物の柱穴の中から、年代の推定が可能な須恵器が出土している。掘立005のS P 2の柱の抜き取り跡から出土した須恵器の杯身と碗がそれである。杯身は焼き歪みが激しいが、復元値で口径約12cmを測る。径はやや大きめだが、口縁部の立ち上がりや受部の形状には新しい特徴が読みとれ、底近くには明瞭な削りが残されている。官衙関連施設であると判断されるこの建物の廃絶時期を考える上で重要なだけでなく、遺跡群の成立時期を考える際に参考になる資料である。

久米高畠遺跡37次調査地

一方、2間×3間の南北棟である掘立006は、方形の柱穴から構成され、方位が若干西に振れている ($N - 4^{\circ} - W$)。しかも掘立004などの柱穴を切ることから、官衙の段階の建物の中でも、時期が下がる可能性が高い。一本柱列との関係では、距離が近接しているので、これの廃絶後に所属すると考えている。これらの特徴は、40次における掘立001の状況と共通点が多い (p82)。

官衙関連以外の遺構としては、過去に調査済みの30次調査地における所見とはほぼ共通している (年報IX)。S B001は弥生時代の円形住居の一部を検出したものと考えられる。また、隣接するSK002は、弥生時代前中期から中期はじめ頃の土坑である。この他、貯蔵穴である可能性が高い長方形の土坑が10基近く確認されているが、遺物は少ない。SK011に代表されるこれらの土坑の多くは調査地の

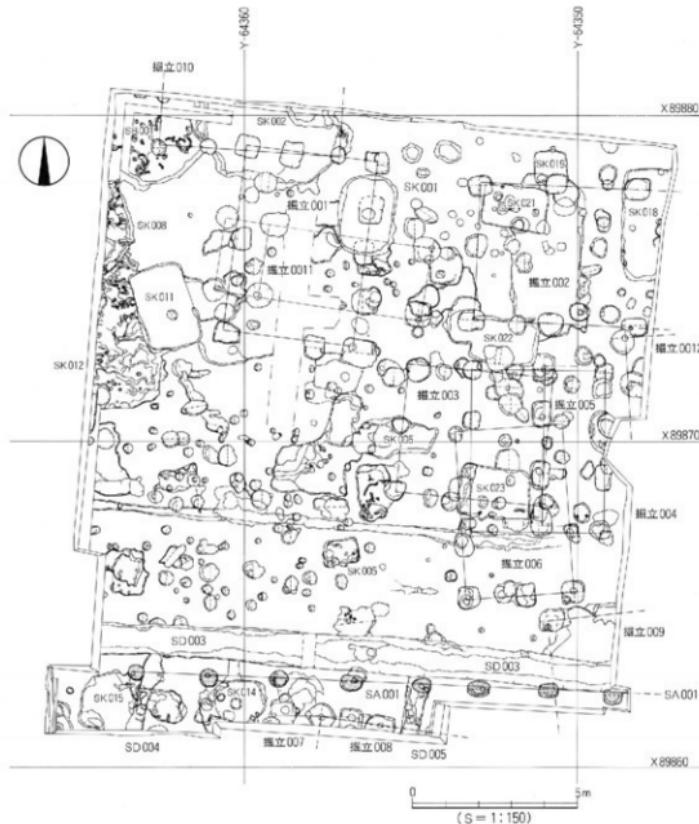


図2 遺構配置図

北部に点在している。この状況は、西の30次における傾向と一致している。時期は、前期末から中期のはじめ頃を上限とする。弥生時代の遺構としては、この他にS D004・005があげられる。土坑と同様の段階に掘られた、ともに形状がよく似た溝である。

古墳時代の遺構では、官衙との関係が明確でない掘立柱建物がいくつか存在する。このうち、掘立003は、付近の掘立に切られていることと、円形の小形の柱穴から構成される点から、官衙出現以前の建物であると考えられる。ただし、建てられている場所が同じであることに加えて、方位や構造、規模が似ている点から、この建物こそが、官衙施設の出現段階のものかもしれない。昨年度の32次：正倉院における調査でも、円形の柱穴から成る建物について、最も古い時期の正倉であると評価している。掘立003についても、これと同様の見方が可能かもしれない。この他、東壁と南壁沿いに、掘立の一部になる可能性がある柱穴が存在し、いくつか建物としての遺構番号を付したが、確証はない。このうち、掘立007とした2基の大型方形柱穴は、官衙出現以後の遺構である可能性が高いが、断片的詳細は不明である。ちなみにS A001と一連の構造物になる可能性は少ないと判断している。また、調査地北部に位置する掘立011に関しても、西部の柱穴について掘り下げを行っていないので、本当に建物として成立するのか疑問が残る。ただし、東端を形成する2基の方形柱穴は、掘立007と同様、規模の大きなものであった。今後、周辺における調査の際には注意を要する。

さらに、新しい時代の遺構としては、近世後期以降の土坑であるS K021～023のほか、S D003があげられる。SKは墓である可能性もあるが、木棺等の痕跡は検出されなかった。ここからは、染め付けの小片が出土している。溝は、ほぼ現在の道路と平行の位置関係にあり、江戸時代の後半を上限として埋められている。古代の土地区画の存在を反映して、その後も現在に至るまで、同じ様な土地の使われ方がされていたことを示す遺構として注目される。

小 結 昨年度の30次調査を終了した時点では明確ではなかった官衙関連遺構の周辺部への展開の状況を、より具体的に知ることのできる情報を得ることができた。特に掘立005から出土した須恵器の杯の存在は、当遺跡群における官衙の出現時期を考える上で重要である。今後、年代の特定につながる遺物の増加を期待したい。

(橋本)

関連文献：橋本雄一「久米高畠遺跡30次調査地」『松山市埋蔵文化財調査年報』IX

松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センター 1997年

橋本雄一「久米高畠遺跡32次調査地」『松山市埋蔵文化財調査年報』IX

松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センター 1997年



図3 掘立005・SP2出土須恵器実測図

久米高烟遺跡37次洞査地



図4 30次・37次遺構配置図



写真1 東部完掘状況（西より）



写真2 SA001半截状況（北東より）



写真3　掘立001周辺完掘状況（西より）



写真4　掘立005周辺完掘状況（西より）

ク メ タカバタケ 久米高畠遺跡38・39次調査地

所在地 松山市南久米町768-1／779-1

期 間 平成9(1997)年11月20日

～同12月18日

面 積 38次：約11m²/39次：約45m²

担 当 橋本雄一・小笠原善治



図1 調査地位置図

経過 両調査ともに、久米郡衙正倉院の外郭の濠の位置を特定する目的で、国からの補助を受けて行われた。ともに学術目的で実施された小規模なトレンチ調査で、さしあたって開発の予定はない。39次では、北濠の存在が予想される箇所に南北方向のトレンチを2本設定した。また、東濠の一部の確認を目指した38次では、東西方向のトレンチを1本設定した。調査の結果、いずれの箇所においても、目的どおり濠の一部を確認することができた。

遺構・遺物 遺物に関しては、特に顯著なものは出土していないが、少量の平瓦片や土器器の杯、あるいは皿の破片が出土している。前者は来住庵寺に伴う繩目叩きのもので、後者は古代後半以降のものである可能性が高い。これらの遺物は、濠の上層付近から出土しているが、同様の状況は、昨年度調査された32次、31次における状況と一致している。なお、確認調査としての性質上、濠以外の遺構については掘り下げを行わなかったものも多く、38次調査地付近における遺構密度が、かなり高いこと以外、個別の遺構の内容は不明である。

38次調査地のトレンチ西端では、ほぼ予想位置において東濠の東半部を確認した。従来、この場所においては、かろうじて濠幅の確認が可能であると予想されていたが、方位が若干西に振れ、濠幅の一部は現在の道路の下に位置することが明らかとなった。この濠の東辺に沿って幅2mほどのテラス状の段差が掘り込まれているが、この遺構の性質についてはよくわかっていない。さらにテラス下面には、南北方向に浅い溝が2条掘りこまれているが、これと濠本体及びテラス状の部分との関係についても不明である。なお、これによく似た形態の遺構が、南の35次でも確認されている(p61)。場合によるとこの遺構は、東濠の東辺に共通して存在するものかもしれない。

39次調査地の2本のトレンチにおいても、その北部において濠の一部を検出している。検出箇所において最も特徴的なことは、東側のT-1において、濠の底に段差が設けられている点である。正倉院北東部の標高が高く、北西角が位置する10次調査地付近に向かって土地が傾斜している事実と関連があるものと考えられる。おそらく北濠は、傾斜に沿って掘られているだけではなく、部分的に階段状の構造になっていたものと考えられる。

各トレンチにおける濠の土層堆積は、概ね礫が少なく黒色の度合いが強い下層、礫が多く含む中層、褐色灰色の上層に区分される。土壘の存在を示す堆積状況にはなく、また、人為的な埋め戻しが行われた様子も認められていない。なお、今次の調査成果をもって、濠の形状と規模の概略を暫定的に定めることができたので、簡単にまとめておく。

久米高畑遺跡38・39次調査地



図2 正倉院周辺図（縮尺1：2,000）

久米高畠遺跡38・39次調査地

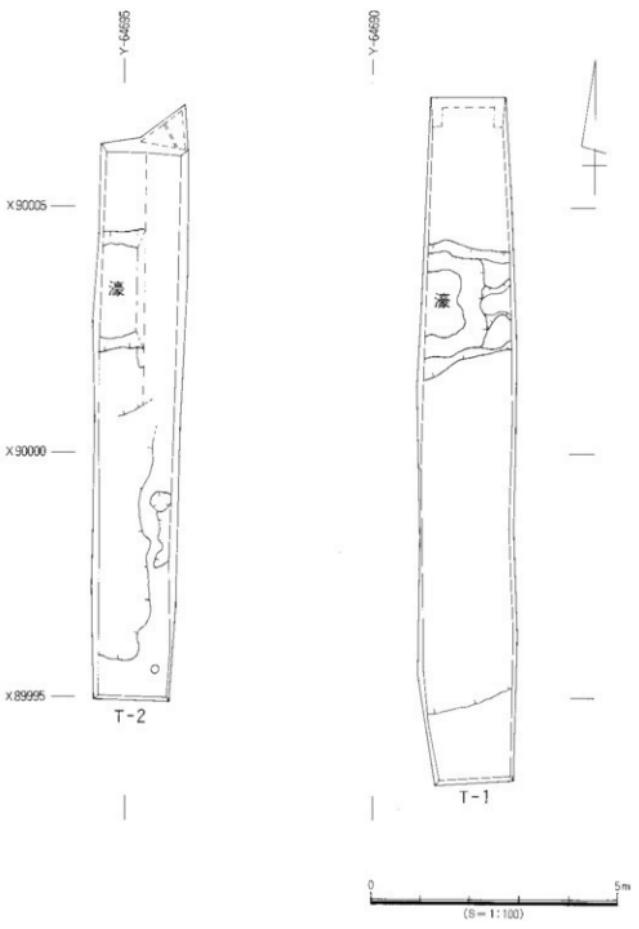


図3 39次トレンチ平面図

久米高畠遺跡38・39次調査地

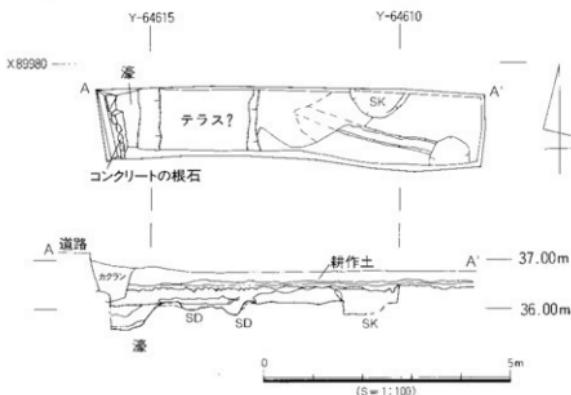


図4 38次断面図

従来、ほぼ真北を指すと予想されていた東濠の方位が、若干西に振れていることが明らかになった。これは、南東角に近い35次において、予想よりも東寄りの位置で濠が検出されたことと、同じく東濠の北部にある38次において、想定位置よりも西にずれた箇所で検出されたことによる。その結果、正倉院の濠の全体形は、南辺が北辺よりも距離が長い形状であることが判明した。また、各辺の方位に関して、南濠が、やや大きく東に振れる状況がわかっているが、これは、昨年度の調査によって明らかにされた正倉院の古い時期の土地区分画の溝（2条平行の道路側溝？）の方位に影響された結果であると理解している。北濠と西濠の方位については、昨年の段階で想定した状況と比較して、大きな変更はない。正倉院の濠を設定する際に基準とした方位は、特に西濠と東濠のデータから、ほぼ真北に対応するものと判断している。

今年度をもって、ひとまず濠に関する調査も一段落したので、この2カ年の調査成果をもとに、濠の規模を暫定的に提示する。ただし、過去の調査においては、調査区の絶対的位置決定が困難な箇所もあるので、今後新しい成果が得られるたびに再検討し、更新すべき性質の情報であることをあらかじめ断つておく。

(橋本)

表1 正倉院の濠の形状

	全長(m)		幅 (m)	真北からの 方向角
	外周	内周		
東濠	143	137.5	2.5	N-0°40' - W
西濠	141	135.5	2.5	ほぼ真北
南濠	124	119	3*	N-91°40' - E
北濠	120	115	2.5	N-90°30' - E

*1m程度のテラス幅を含む



写真1 38次トレンチ全景（東より）



写真2 38次濠柵状況（東南東より）

久米高畠遺跡38・39次調査地



写真3 39次調査地全景（東より）



写真4 39次：T-1濠の段差（北東より）

久米高畠遺跡40次調査地

所在地 松山市南久米町743-2の一部
期間 平成9(1997)年12月8日~10年2月3日
面積 約125m²
担当 橋本雄一・小笠原善治



図1 調査地位置図

経過 38次・39次調査に続いて、今年度3箇所目の学術目的の調査として実施された。差し当たって開発が行われる予定はないので、調査終了後、耕作土を順に戻して畠としての形状を回復している。当該箇所は、以前から官衙遺跡群を構成する東西方向の区画線上に当たっていることが知られていた。しかし、これまでの調査では、この付近のデータが不足していたので、今回、この事実の確認を最大の目的として調査を実施した。その結果、予想通りの位置において、東西方向の区画溝1条を検出することができた。時期を同じくして実施された37次調査における成果とあわせて、官衙の土地の区割りに関する仮説を、ほぼ裏付けることができたと評価している。

遺構・遺物 4棟の竪穴住居のうち、北のS B004は、出土遺物から6世紀代の建物であると考えられる。他の竪穴住居については、官衙以前の6世紀以降、7世紀初頭頃のものである。問題の区画溝：S D001は、調査区の南東部に位置し、現在の道路とはほぼ平行の位置関係にある。溝の東部では、検出面からの深さが約0.2mほどであるが、西へむかうにつれて浅くなり、S B001の周壁溝と重複する付近より西では遺存していない。幅は0.5m程度である。この溝は、從来想定してきた官衙関連の東西方向の区画線（幅3m）の北辺に対応するものである。したがって、昨年度の32次・31次において確認された2条平行の溝のうち、北側の溝の東への延長線上に位置するものと考えている。

このほかの官衙関連遺構としては、掘立001があげられる。桁行き5間(8.9m・30尺)、梁間3間(4.4m・15尺)の南北棟であるこの建物(約39m²)は、一辺0.7m~0.8m程度の方形の柱穴によって形成され、埋土の色調は、「回廊状遺構」などの隣接する官衙施設に伴うものと共通している。ただし一部の柱については、抜き取られた形跡が認められ、その箇所には、より明るい色調の土に拳大の円礫が多数含まれる状況が認められた。一方、廃絶時に柱を抜かず切断した箇所では柱根が確認され、疊混じりの土は存在しない。ちなみにこの土は、正倉院の南部を調査した32次調査の際に、7世紀後葉ないし8世紀以降の漆や建物の埋土であることが判っている(年報IX)。したがってこの建物は、正倉院の外周に漆が塗られ、建物が増設される時期に相前後して建てられ、久米郡衙正倉院としての形態が確立する時期を上限として廃絶したものと考えられる。

建物と区画溝との関係に着目すると、その方位に大きな差が存在することに気づく。溝はN-2°10'-E、掘立の長軸方向の方位は、N-2°20'-Wをとる。溝の方位は、大半の官衙施設のそれとよく一致するが、掘立の向きは、これとはずいぶん異なっているわけである。この方位に近い遺構としては、西に位置する久米郡衙正倉院があげられる。今年度の調査によって、正倉院東漆の方位が、

久米高畠道路40次調査地

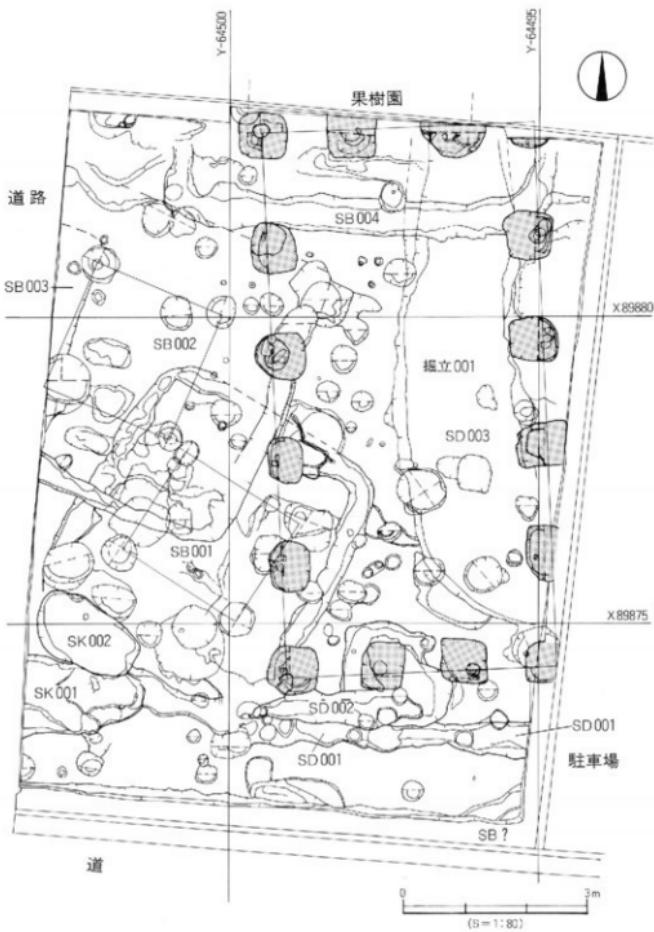


図2 造構配置図

N-0°40'Wであることが新たに判明しているが（p79）、この建物の向きはこれに近い。さらに建物と溝の位置関係に注目すると、これらが同時に併存したと考えるには、あまりに近接しすぎている。区画溝は、初期の官衙施設を配置するための土地の区割りとして掘られたと考えられるので、この掘立は、区画溝による土地利用に関する影響が無くなる時期、すなわち溝の廃絶以後に設定された可能性が高い。したがって、正倉院付近において濠が掘られ、もとの区画溝が埋められる時期には、当該箇所付近においても溝が埋められ、新たな建物が建てられたものと理解される。これまでのところ、初期の正倉院の区画溝が埋め戻され、濠に置き換わるのは、7世紀後葉以降であると推測しているので、40次のS D001もこの頃までに廃絶したものと考えておきたい。

掘立001の存続時期を上限とする遺構も、いくつか検出されている。調査区南西部に位置するSK001と002、掘立の柱穴を切っているSD002がそれである。SK001と002は、掘立が建っていた頃のごみ捨て穴の可能性が高い。SK001からは、8世紀代の須恵器の杯身（図3-1）に伴って、土錐が出土している。また、SD002からも同様の時期の杯蓋が出土している（4）。また、掘立001の柱穴検出面からも、同様の時期の杯身の破片が出土しているが、これらの細かな時期比定を行うことは難しい。5～7は、掘立001・002などが重複する調査区南東部の遺構検出面から出土したのである。いずれも8世紀代ものであるが、且（7）は、やや時期が下る可能性がある。

小結 区画溝SD001に関しては、東西に統くだけでなく、調査区の南西部において北へ屈曲して、「交差点」の一部を形成することを期待していたが、調査区内においては、そのような状況を確認することはできなかった。したがって官衙遺跡群を構成する南北方向の軸線の存在に関しては、依然として不明なままである。現在の上地の区割りとの重複が大きく、隣接する農道の下に位置している可能性もある。この点の解明には困難を伴うが、今後の調査の課題としたい。（橋本）

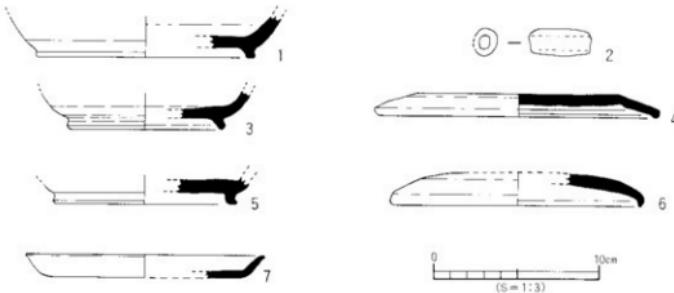


図3 出土遺物実測図

久米高畠遺跡40次調査地



写真1 完掘状況（南より）

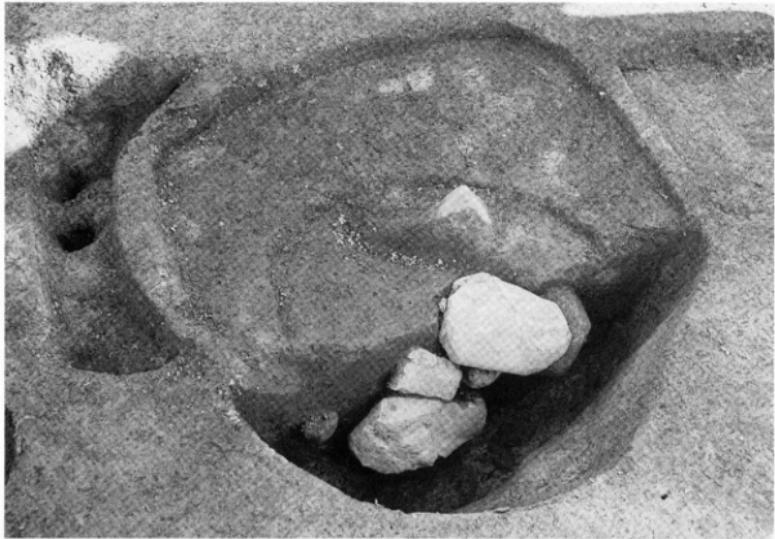


写真2 掘立001・SP15柱抜取跡断面（北西より）

久米官衙遺跡群～今後の展望～

I 官衙関連施設の出現時期について

1 はじめに

久米官衙遺跡群を構成する関連の柱穴から、須恵器をはじめとする年代推定の参考になる遺物が出土することは極めて希である。したがって、各施設の実年代を推定する際には、間接的な資料を使用せざるを得ず、非常に曖昧で説得力に欠ける議論が行われてきたのが現状である。特に、主要な施設を配置するために設けられたと考えられている区画溝の設定時期に関して、7世紀の中葉であるとする従来の見方に対して疑問を呈する意見もあり、解決が求められているところである。これに関して、37次調査によって掘立005の柱の抜き取り跡から出土した須恵器の杯身の存在が、今後の検討の鍵となると考えられるので、若干の検討を行っておきたい。

2 須恵器の形状と埋納の状況

当該箇所からは、須恵器が2個体と弥生時代の大型の石製模造品を転用した可能性が考えられている石器の欠損品1点が出土している。ここでは、問題の杯身を杯1と表記する。

まず、杯1の形状を確認しておこう。

杯1は焼き歪みが激しいが、復元値で口径約12.2cmを測る。実測図は、歪みを補正したうえで、提示してある。径はやや大きめだが、口縁部の立ち上がりや受部の形状には、より新しい特徴が読みとれる。撫で調整は全面には及ばず、底近くには明瞭な削りが残されている。

次に、石製品が納められていた楕の形状を確認する。

楕の口径は13.4cm、胴部の最大径は15.0cm、器高は6.7cm。焼き歪みはほとんど無い。口縁部は緩やかに内湾し、底部近くまで削りの痕跡を撫で消しているが、底部外面には数単位の削りが残されている。銅楕を模して作られたものと考えられる。当該遺跡ではこれまで、このような形態の楕の存在は

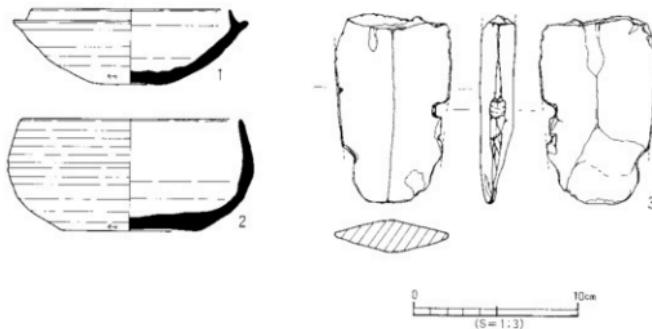


図1 掘立005・SP2出土実測図

知られていないが、以上述べた特徴は、杯1と比較して大差無いものと理解できる。

なお、これらの須恵器は、ともに石製品を埋納するために用いられたのではないかと考えている。杯1を蓋として使用したと考えると、椀の口径によく一致するからである。ただし、両者は欠損しており、実際に組合わざった状態で出土しているわけではない。椀の中に入石製品が納められていたことから、間接的にこのような使用状況を想定しているだけである。なお、この石製品は、弥生時代の銅戈などの金属器の模造品の基部であると考えているが、これがいかなる理由で古墳時代終末の建物の柱の抜き取り跡に埋納されるに至ったのか、まったく想像もつかない。珍しい品物を得た官人が、場合によると役所において二次的に使用した後で、掘立の廃絶に際してサイズの合う入れ物を調達して、埋納したものだろうか。実際のところはわからないが、これら3点の遺物は、明らかに人為的な行為に伴なって抜き取り跡に入れられたものと判断している。

3 須恵器の実年代

問題はこれらの須恵器に、いかなる実年代を与えるかという点である。ただし、当地の須恵器の編年体系は、十数年刻みの細かな編年をおこない、さらに具体的な実年代を与えるには十分なものと言えないので、ひとまず飛鳥における年代観を参考にする。

従来、当地においては、このような形状の須恵器は、杯Gの出現以前のものであると理解してきた。飛鳥における編年によると、杯Gなどの出現は7世紀の中頃（西暦640年前後）に求め得るようである。また、これまでのところ当地においては、杯IIと杯Gは原則として共伴せず、共伴したとしても短期間であると考えている。したがって杯1は、少なくともそれに遡る7世紀前葉段階に位置づけ可能であろう。当然、松山周辺における新型式の須恵器の導入の状況を、一律に畿内と比較することができるかという問題もあるが、ひとまず、7世紀前葉のものである可能性を想定しておきたい。

椀については、その形状が銅鏡に似ていることから、同種のものの中でも古い時期のものと評価可能である。したがって、杯1とは対応する7世紀前半に位置付け可能であると考えている。

杯1の実年代を、仮に7世紀前葉の中で考えた場合、これらの遺物は柱の抜き取り跡の中から、意味のある形で出土しているわけであるから、建物の廃絶時期の上限を、この時期に求めることが可能である。ちなみに杯1は焼き歪みがひどい個体であるので、重要な品物として一定期間保持された上で埋められたものである可能性は低い。よって、杯1の制作及び使用年代と掘立005の廃絶、これらの物品の埋納の時期は、かなり近接していると判断している。

4 建物の構造

問題の須恵器が出土した柱穴が所属する建物に関しては、掘立005という遺構番号を付しているが、この構造物の正確な形状は判っていない。南北に3間分の隅丸長方形の柱穴が列ぶことまでは確認されているが、これが東へ展開する大型の建物の西辺にあたる可能性と、掘立004の中軸線にあたる可能性の二通りを検討中である。また、可能性は低いが、距離の短い場である場合も考えられる。

前者の考え方を採用すると、調査地内においては、桁方向の柱が検出されていないので、最低でも3mを越える柱間の、大型の東西棟を想定しなければならない。はたして、この様な建物が成立するのか疑問である。また、後者の考え方を探ると、2間×3間・総柱の南北棟である掘立004の中軸の柱穴が、建物の東壁と西壁を形成する柱列に比べて明らかに規模が大きく、深さもより深いことにな

り、本当にこのような構造の総柱建物が存在したのか疑問が残る。

以上述べた理由から、掘立005の構造に関しては複数の復元案を提示することが可能であるが、柱穴の埋土の性質から、掘立004の一部になる可能性は低いのではないかと考えている。005の埋土の方が、004に比べて色調がより黒く、時期差が存在する可能性があるからである。005では明瞭に認定された柱の抜き取り跡もしくは柱根の痕跡が、004では認められなかったことも、両者が別物であったことを示しているのかもしれない。

以上、建物としての構造は明確ではないが、方形の掘り形の柱穴をもち、方位もほぼ真北（N-0.5°-E）を指すことから、付近の官衙関連の施設と密接な関係にあったことは、ほぼ間違いない。

5 官衙施設出現の時期について

掘立005などの建物と、建物を配置した一町四方の区画地の南辺を示すSK001が密接な関係にあることは、先に述べたとおりである。その場合、初期の官衙施設を配置するために設けられた方一町の区画施設の設定時期に関して、少なくとも37次調査地の構については、掘立005の廃絶以前、つまり7世紀前葉のある段階に求めることが可能となる。したがって、付近の官衙施設の初現が、7世紀の初頭近くにまで遡る可能性も否定できない。

37次付近は、官衙遺跡群の中において、「久米評衡」の中核施設であると想定されている箇所からみると、明らかに辺縁部に当たっている（p91）。したがって、掘立005が官衙の周辺施設としての機能を担っていた段階には、確實に「久米評衡」の中枢部が存在していたと考えて問題なかろう。今後、

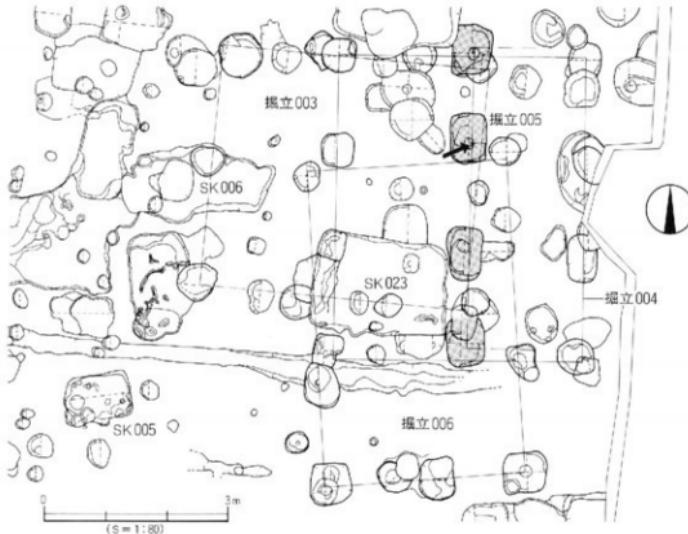


図2 掘立005周辺平面図

久米官衙遺跡群～今後の展望～

久米官衙遺跡群の成立を検討する際には、評制以前の段階を視野に入れる必要が生じるに至ったと理解しておきたい。

6　まとめ

杯1の実年代を検討したうえで、官衙施設全体の出現時期の問題に関しても言及した。ただしここで得た結論は、本来、杯が出土した掘立005についてのみ適用されるべき内容である。厳密には、土地区画のための一本柱列や、隣接する主要施設の出現のあり方にまで踏み込んだ議論を行うに足るだけの情報とは言えない。しかしながら、土地区画と各主要施設との間には、明確な規則が読みとれる以上（年報IX）、掘立005とこれらの施設とが、まったく無関係な別物とは考えにくい。少なくとも、掘立005の成立時に、久米官衙遺跡群の主要施設の一部がすでに整備されていたとする仮説は、現時点においては十分に有効であると考える。

また、僅かに2個体の須恵器の形状だけをもって、実年代を決定しようとするには無理があると言わざるを得ない。今後の資料の増加を持って、改めて検討を要する。ここではひとまず、掘立005が7世紀の前葉を上限とする時期に廃絶した可能性が高まつたと理解しておきたい。
(橋本)

関連文献：

橋本雄一「久米高畠遺跡32次調査地」『松山市埋蔵文化財調査年報』IX 1997

松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター

橋本雄一「久米官衙遺跡群～総括と今後の展望～」『松山市埋蔵文化財調査年報』IX 1997

松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター

II 久米官衙遺跡群と天皇の行宮

1 はじめに

先に、37次調査地の掘立005の柱の抜き取り跡から出土した杯1の検討から、7世紀の前葉までには、一部の官衙施設が成立していた可能性に言及した。その際この掘立は、官衙群の中でも周辺部の施設であると考えているので、久米評衙の中核施設や土地の区割りは、ほぼ同じころまでには出現していたのではないかとする仮説を提示した。

ところで、久米官衙遺跡群を構成する主要施設としては、「久米評衙」の中核施設であると考えられる施設や正倉院の他、「回廊状造構」と呼ばれる特徴的な施設が存在する。特に、「回廊状造構」(以下、「回廊」と表記)に関して、7世紀の中葉前後の文献に記載されている天皇の伊予来訪に関する記述との関連を指摘する考え方を提示されているので、簡単にまとめておく。

2 伊予温湯宮と石湯行宮

遺跡群の南部に、方一町規模の「回廊状造構」と呼ばれる特殊な官衙施設が位置している。来住庵寺に先行するこの施設の性格については、以前から、伊予に来訪したとされる二人の天皇の行宮の一部である可能性が想定されている(文献)。具体的には、西暦639年12月から翌年4月にかけて舒明天皇と宝皇后が滞在したとされる「伊予温湯宮」(いよのゆのみや)と、西暦661年1月から3月ころに来訪した齐明天皇一行の「石湯行宮」(いわゆのかりみや)がこれにあたる。

ただし「回廊」が、これら文献に記載されている天皇の行宮と関係があるのか否か、現時点において明確な回答を得ているわけではない。しかし、当時の松山平野北部における有力勢力であった久米が、彼らの根拠地の一角に、天皇一行の受け入れ施設を準備し、滞在期間中の任務にあたったことは、当遺跡群における主要施設の配置状況から、十分に想像可能である。

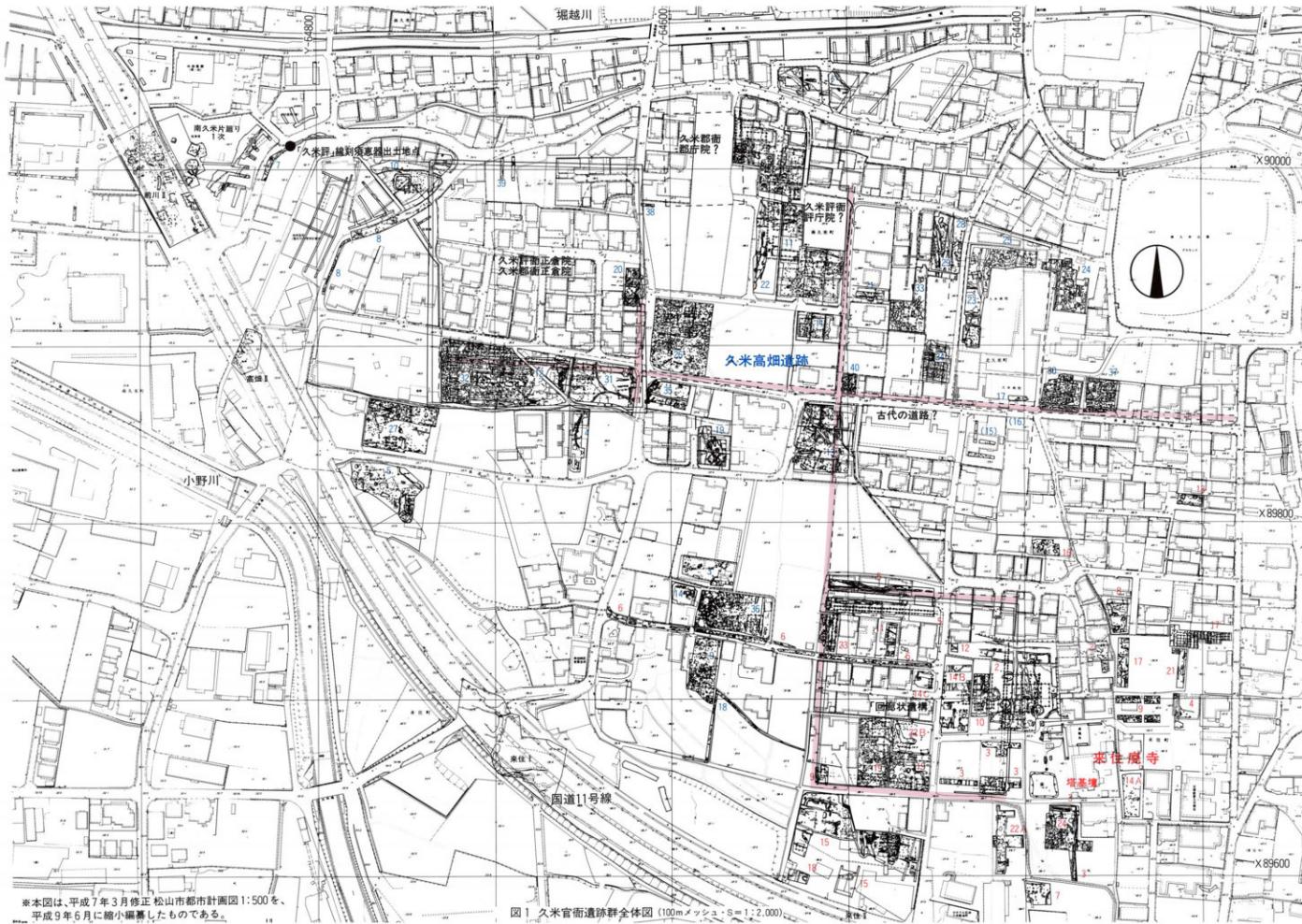
ここで「回廊」もしくはこれに付随する施設の一部が、639年頃に天皇受け入れのために設けられていたと仮定すると、その北方に位置する官衙施設のひとつである掘立005から、当該期の遺物が出土している事実とも、うまく対応する。

先に検討済みの杯1に与え得る年代は、天皇の来訪が想定される時期と、うまく符合している。

3 謎の空間

「久米評衙」中核施設の南東、「回廊」の北側に接して、方一町規模の謎の空間が位置している(図2)。過去の調査成果からこの場所には、南面に布振りの柵を伴う重要施設が位置する可能性が想定されてきた。ただし、その内容については、調査が及んでいないことからまったく不明である。わかっていることは、その空間の南面には柵が設けられ、西面には幅の狭い区画溝が掘られることによって、敷地が区画されている事実のみである(来住庵寺5次・久米高畠遺跡13次、図1)。

官衙遺跡群全体の施設の配置状況を考えると、この空間が単に区画地としてだけの存在ではなく、やはりその内部には、何らかの官衙施設が存在すると考えるのがより自然であろう。「回廊」の内部施設としては、正殿と考えられる大型の建物1棟と門の他、権程度しか存在していないことも、参考になる。「回廊」は、実際に人が住むための施設ではなく、儀式を司るための空間であると推定されるのである。したがって、この地に実際に行宮が所在したと仮定した場合、実際の生活の場は、これ以外の区画に納められていると考えるのが妥当ではなかろうか。このような理由から、「回廊」の北に接する謎の空間の存在が注目される。



*本図は、平成7年3月修正 松山市都市計画図1:500を、
平成9年6月に縮小複数したものである。

図1 久米官衙遺跡群全体図 (100mメッシュ・S = 1:2,000)

仮にこの地に行宮が所在するならば、「回廊」は、いくつか存在する関連施設の一部であって、日常的に天皇一行が生活した場所は、その背後に位置する謎の空間などであった可能性を想定しておきたい。杯1を出土した掘立や、官衙の中核施設（評庁院？）、正倉院をはじめとする地方官衙の主要施設は、これら行宮の想定区域の背後に位置しているのである。

4まとめ

以前から、当遺跡群を構成する各施設の所属年代について、古く想定しすぎているのではないか、とする意見が多く提示されてきた。しかし、先に検討した杯1の実年代を参考にすると、少なくとも、初現期の施設に関しては、その出現時期が、7世紀の後半や後葉にまで下る可能性は無くなつたと言えよう。結果的に、伊予と縁の深い二人の天皇の行宮に関する文献の記載事項と、時期的に一致する状況が生まれている。ただし、「回廊」や周辺施設が、本当に天皇のための行宮であったのか否かの問題については、現時点で断定できる状況にはなく、今後の検証を必要としている。また、「回廊」北側の謎の空間に対する評価づけも、今後の調査によって初めて可能となる。この場では、「回廊」の性格を解明する上で重要な情報が、将来的に、その背後に接する区域から得られる可能性を指摘するに止めておきたい。

(橋本)

参考文献：松原弘宣「回廊状遺構再論」『愛媛大学法文学部論集 人間学科編』第2号 平成9年

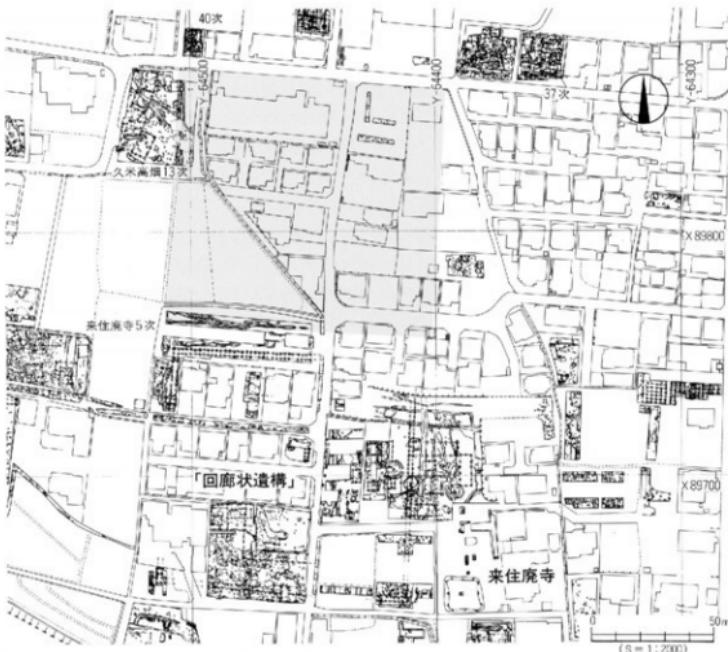


図2 謎の空間と回廊状遺構

久米窪田森元遺跡 4次調査地

所在地 松山市久米窪田町859-1外
期間 平成9年12月15日～平成10年3月31日
面積 1,330m²
担当 山本健一・山之内志郎



図1 調査地位置図

経過 本調査は、「No.129 鷹ノ子遺物包含地」内における店舗建設に伴う事前調査である。試掘調査の結果、溝・柱穴・土坑・須恵器・土師器・布目瓦など古代から中世の遺構と遺物を確認した。

本調査の隣接地及び周辺地では久米窪田遺跡I～V、久米窪田森元遺跡1～3次調査、久米窪田古屋敷A～C遺跡など縄文時代～中世までの集落関連遺構が確認されている。特に円面硯、墨書き土器、瓦、人形代、木簡等の遺物は街町関連資料として注目され、重要な地域である。発掘調査は、縄文時代から中世にわたる集落構造の解明を主目的に調査を開始した。

遺構と遺物 検出した遺構は、土坑12基、溝4条、流路5条、柱穴116基、土器溜まり1基、倒木痕跡4基で、出土遺物などから弥生時代～中世に位置づけられる。

弥生時代の遺構は流路（SR5）があり、調査区の中央やや東寄りに位置する。やや東に偏る南北河道で、南北端は調査区外に延びるものと思われる。検出長は9.5m、上場幅3.5m、深さは80cm前後を測る。埋土は緑青色～黒色の砂疊、砂、粘土とが互層堆積する。遺物は下位層の明灰色砂疊より弥生土器の壺形土器、壺形土器、高杯形土器のはか、木器（木片）が出土した。弥生土器はあまり磨滅を受けてなく、なかでも壺形土器はほぼ完形に近い状態であった。

古代の遺構としては流路（SR4）がある。調査区の西端部に位置する。やや北に偏る東西河道で西端はSR3に切られ、東端は調査区外に延びるものと思われる。検出長9.2m、上場幅1.4～3.5m、深さ20～40cmを測る。埋土は上層の暗灰褐色土（細砂質）、中層の灰褐色細砂質土、下層の明灰色細砂に分層される。下層は流路の基底面の凹地に堆積が見られた。遺物は上層から下層まで出土したが、中層からの出土が多量であった。遺物は須恵器、土師器、縁釉陶器、土製品、木器片、木片、種子が15～30cm大の円礫石と混在した状況で出土した。木片の中には焼け焦げているものや、礫石には煤が付着しているものが見られた。種子は桃の核が約200個出土した。

小結 本調査では、弥生時代から中世までの遺構・遺物を確認することができた。弥生時代の遺構は、流路1条に限られた。森元遺跡I～3次調査においても人為的な遺構が検出されていないが、本調査地より東方の久米窪田遺跡III～Vでは生活遺構が検出されていることから、少なくとも森元I～4次調査地は居住地として利用されなかったものと考えられる。古代の流路SR4からは多量の遺物が出土した。これらの遺物は投棄されたものと考えられるが、須恵器や、土師器杯は切り離し技法がすべてヘラ切りによるものであり、比較的の同時性が高いものと見ている。また、年代の目安ともなりうる鍛入品が供伴していることから、土器編年のお資料と考えている。

(山本)

久米庄川森元遺跡 4 次調査地

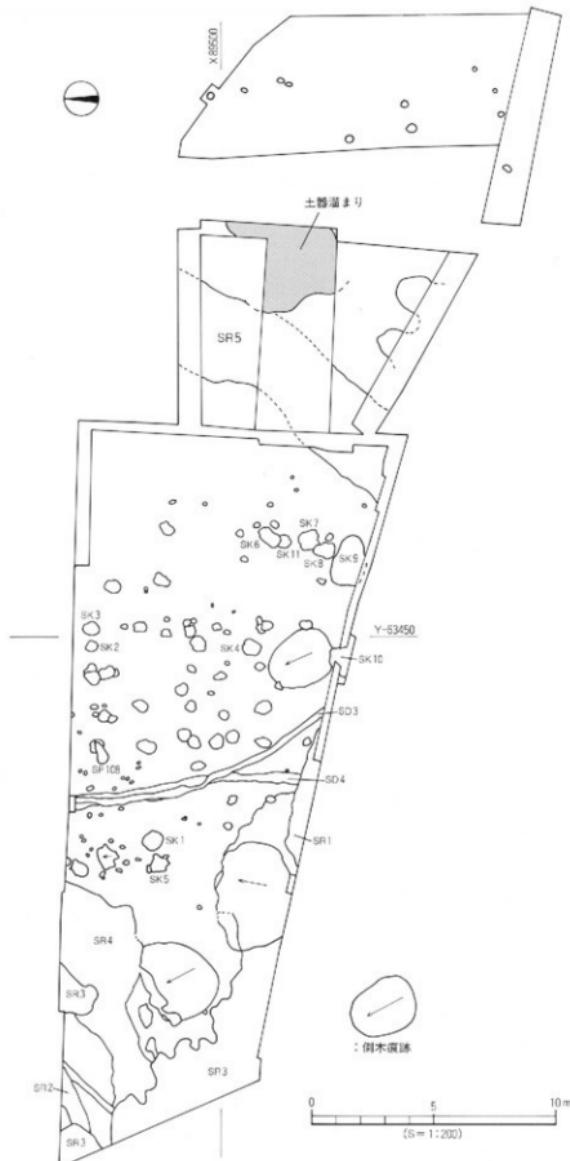


図2 遺構配置図

久米庄田森元遺跡 4 次調査地



写真 1　遺構完掘状況（西より）

久米庭田森元遺跡4次調査地



写真2 SR4遺物出土状況（北東より）

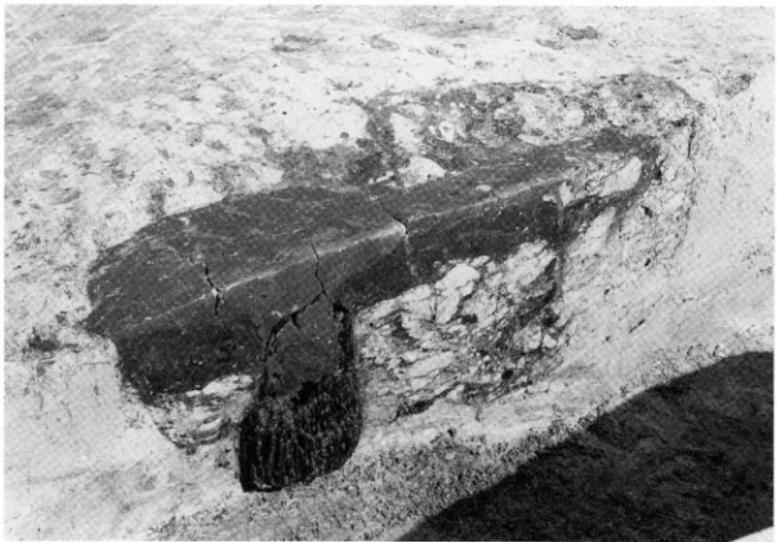


写真3 SP108柱材出土状況（南より）

タカノコ チョウ 鷹子町遺跡 2次調査地

所在地 松山市鷹ノ子町724-1・7
期間 平成9年11月4日～平成10年2月27日
面積 766.62m²
担当 梅木謙一・水本完児



図1 調査地位置図

経過 本調査は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地【No.129 鷹ノ子遺物包含地②】内における共同住宅の建設に伴う事前調査である。調査地は、松山平野南東部、洪積台地からなる来住台地上の標高43.7mに立地する。調査地北東には鷹ノ子新堀遺跡があり、3次の調査が実施され、南には鷹ノ子町1次調査地、南西には鷹ノ子遺跡があり、調査地周辺は弥生時代から中世までの集落遺跡が展開している。

遺構・遺物 調査地の基本層位は第I層耕作土、第II層床土、第III層にぶい黄色土、第IV層灰褐色土、第V層暗褐色土（古墳時代から中世までの遺物包含層）、第VI層暗黄色土、第VII層灰白色粘土である。

遺構は、第VI層上面では古代から中世までの遺構を確認し、溝（SD）4条、土坑（SK）1基、柱穴（SP）119基を検出した。以下、主要なものについて記す。

SD 2は、調査区北壁中央から南壁西側へ、調査区を南北に縦断するように検出した。溝は3つに枝分かれをしている。規模は全長13.7m、幅0.7~1.2m、深さ1~10cmを測る。断面形態は逆台形状を呈す。出土遺物には土師器の杯、皿、こね鉢、平瓦、瓦質土器の釜、鉄製品、小礫が出土している。

SD 3は、調査区北壁中央外から南壁中央へ、調査区を南北に縦断するように検出した。規模は全長13.1m、幅0.5~1.1m、深さ3~20cmを測る。断面形態は逆台形状を呈す。溝底面からは錫先の跡が検出された。出土遺物には土師器の杯、小皿、高台杯、こね鉢、釜、須恵器の壺、石鍋、瓦、瓦質の釜、砥石、礫が出土している。

小結 本調査では、中世の遺構と、古墳時代から中世までの遺物を検出した。溝SD 2・3と土坑SK 1からは土師器や須恵器が出土したが、これらの遺物は出土状況や遺存状況から、周辺からの流れ込み資料と推定された。また、包含層にも同時代の土器片がみられることから、調査地近隣に中世集落が展開していることは確かである。溝は、集落区画や水田に利用されるものであり、居住地や生産地が近隣に存在することを示唆している。

遺物では、滑石製石鍋の出土が注目される。中世の石鍋の出土は松山平野内においても出土事例が少なく、希少資料として重要である。

今後は、調査地の東に展開する鷹ノ子新堀遺跡との関係や、新たな調査資料を加えて鷹子町内の中世集落の詳細を明確しなければならない。

(水本)

燕子町道路2次調査地

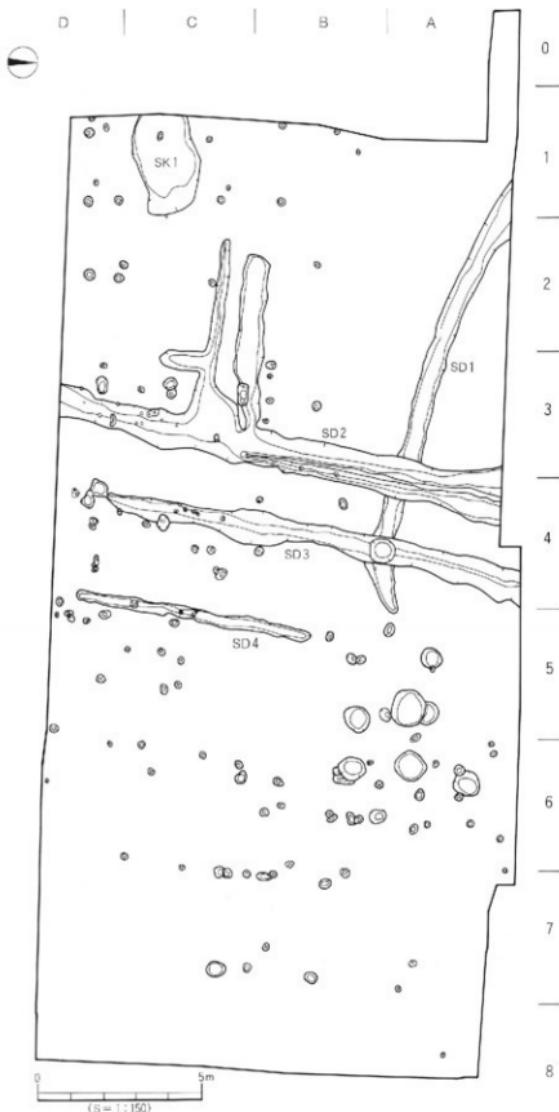


図2 造構配置図

鳴子町遺跡 2 次調査地

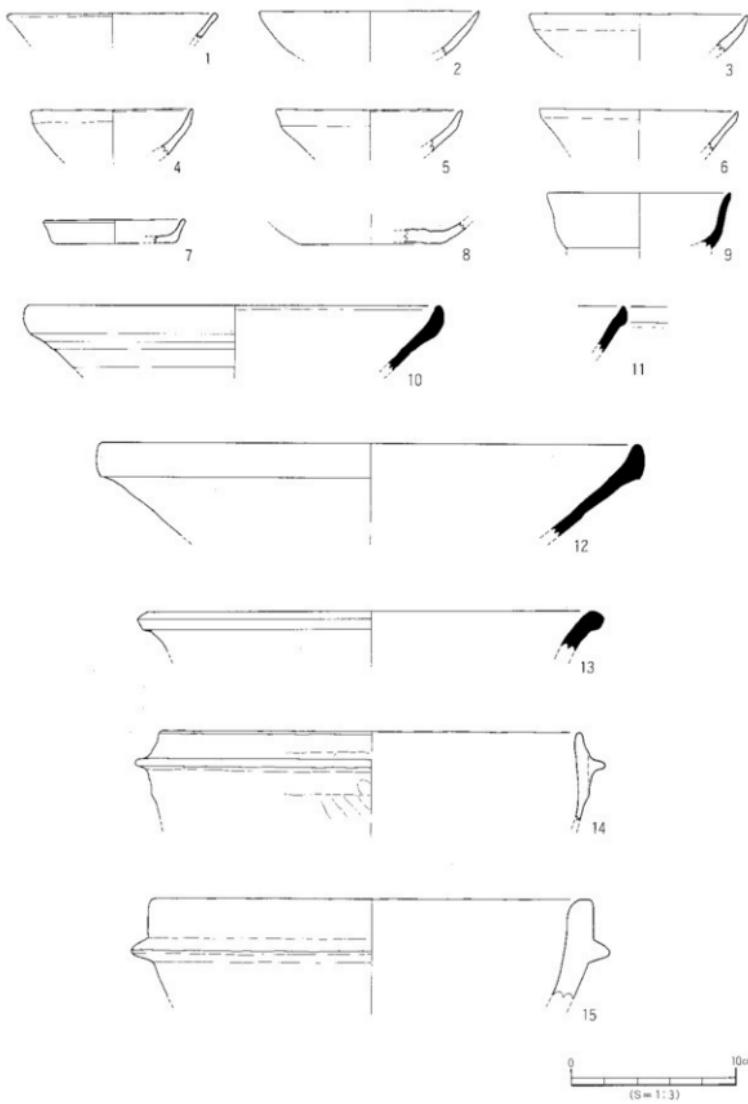


図3 SD 3 出土遺物実測図

鳴子町遺跡 2 次調査地



写真1 A区全景（西より）



写真2 B区全景（北西より）

ハザイケ 葉佐池古墳 2次調査

所在地 松山市北梅本町甲2455
期間 平成8年11月7日～平成9年10月31日
面積 2,500m²
担当 栗田茂敏・加島次郎



図1 調査地位置図

経過 平成4年の偶然の発見を経て、松山市教育委員会は平成5～7年度の間、「葉佐池古墳」1号石室ならびに埴丘の調査を実施してきた。この結果、古墳は全長50mを超える前方後円墳であり、蓮存良好な木棺を持つ1号横穴式石室はくびれ部に位置するもので、この他にも同一埴丘内に複数の石室を有していることが確認された。その内訳は後円部中央に位置し、西方向に開口部を持つ2号石室、その北方に3号石室、1号石室の南に隣接する位置に4号石室などである。このうち、4号石室は床面のみを残しすべての石材が抜き取られ、その後入念に埋め戻された横穴式石室であるが、横穴式石室の2号、小堅穴の3号石室は未盗掘であることがわかった。

これらの埴丘調査所見を検討した結果、調査済みの1号石室は木棺を残していることにおいて稀有な石室ではあるが、その埋葬施設としての評価は、少なくとも古墳の中心主体と考えられる2号石室との関係抜きでは行き得ないと結論に達し、この石室についての調査を実施することとなった。

遺構・遺物 石室は両袖型の横穴式石室で、規模は全長7.1m、このうち天井が架構されるのは奥側から5.1mの部分までである。この位置より手前の部分には長さ2mの石積みによる墓道壁体がとりついており、室としての空間を構成する部分の全長は天井架構部分の5.1mである。玄室長は3.6m、高さ2.4m、最大幅を玄室中央に持ち、この部分で2.3m、奥・玄門部付近で2mと胴張りの平面プランをなす。側壁は持ち送られ、天井部で1mの幅にまで縮約されるが、持ち送りの状況は墓道側壁も同様である。幅0.9mの玄門部は、高さ2mの立石と、玄室よりも0.4m低い玄門部天井石で構成され、玄室への進入は2段の段階状の施設を経て行われる。玄室床面との段差は1mを測り、閉塞はこの階段状をなす玄門部で塊石を積み上げて行われ、開口部側天井端と閉塞石開口部端の位置が一致する。石室使用石材は1号石室同様、砂岩系の塊石を多く用いているが、1号石室よりもかなり大きめの石材が使用されている。床面は拳大程度の河原石を敷いた裸床である。

石室内の現況は、開口部側からみて右隅の奥壁上部の石が数個崩落し、玄室床面の右奥四半を流入土砂が覆っている状況であった。石室には、最終的に閉塞されて以来侵入者のなかったことがわかっている。したがって、このほかの床は、落下した小ぶりの石材が若干は存在するものの、最後に閉塞される直前の状況をきめて良好に残した状態であるといつてよい。玄室床面には自然乾燥状態の木片が折り重なるように残存しており、これらの木片の上に人骨は載っていない。木片の大きさは数cm代の小片から長さ40cm程度のもの、また厚さも1cm以下のものから8cm程度のものまで不揃いで、木目の方向にも顕著な統一性がなく、まさに散乱といってよいような状況である。副葬遺物のうち脚付子

持壺、子持高壺、筒形器台、高壺形器台などの大型の須恵器は玄室内の各所に配置されており、これらのうち、脚付子持壺の1点は玄門部の段上に立った状態で置かれている。また、馬具や鉄釘の一部が玄室左奥床面近くに多く分布している。

玄室右奥四半の流入土砂を取り除いたところ、このスペースには他の部分に比べて木片が非常に少ないことがわかった。流入土砂によって腐朽の進行が早かったのか、元来この部分には木質系遺物が少なかったのかは詳かではない。しかしながら、この部分に土化はしているものの、長さ50cm、幅25cm程度の板状の痕跡が玄室長軸に平行に残っていた。

床面の木片を取り除いていくと、その下位から須恵器片、馬具、鉄製品が検出された。また、鉄釘8個体の検出もみており、のことからすると床面に散乱している木片は、本来木棺であったものと考えられるが、釘は木棺の原位置を示すような配置ではない。

須恵器片の多くは先述の大型須恵器の一部であるが、これらは玄室の各所に散っている。これらの須恵器には人為的に破砕され、移動されたと考え得る状況のものがある。特に、玄門段上の子持壺内には、破砕された甌の腹から底部が入れられ、この甌の上半部が段の高近に置かれており、須恵器の移動が意味を持った意図的な行為であることが端的に示されている。同様に、馬具、鉄製品等も玄室左奥部にある程度のまとまりはみられるものの、やはり玄室奥半を中心で散らばった状況である。流入土砂下層の玄室右奥隅部には高壺形器台・子持壺が破損した状態で配置され、この上に2点の耳環が載っていた。付近には1点の歯牙と骨の痕跡があった。また、これらの須恵器は石室内で完結しない遺物であり、なおかつこの部分に揃っているわけではなく、2m以内の範囲の各所に破片が散らばっている。

木片は、厚い部分で15cm程度の堆積で、副葬遺物・人骨片等と混淆状態であり、これらと層位的な関係はない。さらに、この混淆状態には地山の角礫を多く含む土砂がからんでいる。この種の土砂は塊体目詰めや裏込めに用いられる土砂と同質のものであり、基本的には玄室右奥隅に流入していた土砂と変わりはない。

玄室床面は河原石による疊敷で、最上層は拳大、下層にはやや小ぶりの石を用いている。床面には各所に凹凸があり、木片の上に載った河原石が特に玄室左奥四半に多い。これとは逆に右奥四半には最上層の石が抜けて下層の石が露出している部分が多く見られる。つまり、木片・遺物のみならず、床面施設も動いている部分がある。ちなみに、玄門付近の器台が載せられた大ぶりの石の下にも木片があり、二次的に据えられた石であることがわかる。

人骨はその破片が石室内の各所に散見される程度の遺存状況で、状態はきわめて良くない。そのなかでも比較的安定した配列を示すのは、玄室左半に位置し、長軸に平行な一体である。遺存状況は左奥四半に歯牙のまとまりがあり、この部分に頭位が想定される。この部分から約1m玄門寄りに大腿骨頭遠位端、さらに若干玄門部寄りに足根骨という状況で、概ねあるべき位置にあるべき部位があり、これらを総合して一体を想定している。また、先述の玄室右奥隅部の須恵器付近の人骨痕跡、歯と一対の耳環に一体分の頭位が想定できる。さらに、これから若干離れた板痕跡の付近にも歯根骨点がある。なお、精密な分析を要するが、現地調査時点での被葬者の数は3体ということが所見である。石室内調査の前段階、あるいは調査終了後に補足調査として行った、墓道・前庭部および開室部の調査では、最低3回の石室内進入という所見が得られており、人骨側からの所見と合致している。その他、赤色顔料が床面の各所に散った状況で検出されているが、塊体の各所にもスポット的に顔料が付着し

ていることがわかっている。

なお、玄門部最下段閉塞石下面の部分に馬鈴、杏葉それぞれ1点が置かれていた。また、最終埋葬閉塞口詰めに用いられた土をフリイかけたところ、棗玉の小破片が検出された。

小 結 古墳は6世紀中頃に築造され、後半代にかけて使用されたものである。2号石室内に遺存した木片については、調査による鉄釘の出土から、これらの中には本来釘付けの組み合わせ式木棺であったものが含まれていることがわかったが、加工痕などを確認できる状況ではない。したがって、どのようなサイズでどのような形状をなしていたか、また、すべての木片が木棺を構成していたものかどうかは不詳である。いずれにしても、木棺が木棺としての形状をなしていた原位置で崩壊した結果の現況とは考え難い。また、副葬遺物・人骨・土砂、さらに床面施設との関係からいえば擾乱状態といってよいような状況であり、この状態には人為が加わったものと判断される。

この人為がどの時点で、どのような意図をもって加えられたかについては、得られた考古学情報の詳細な検討や、木片の理化学的な分析を持たなければならない。いずれにしても閉塞行為がきちんと行われているのであるから、墓が墓としての意味を有している段階での意味を持った行為といわなければならない。そのほか、閉塞部初葬面からの馬鈴や杏葉の出土は「ことどわたし」の具体例として貴重な事例といえよう。

(栗田)



図2 玄室内木片検出状況



写真1 崩落土撤去後の玄室（西より）

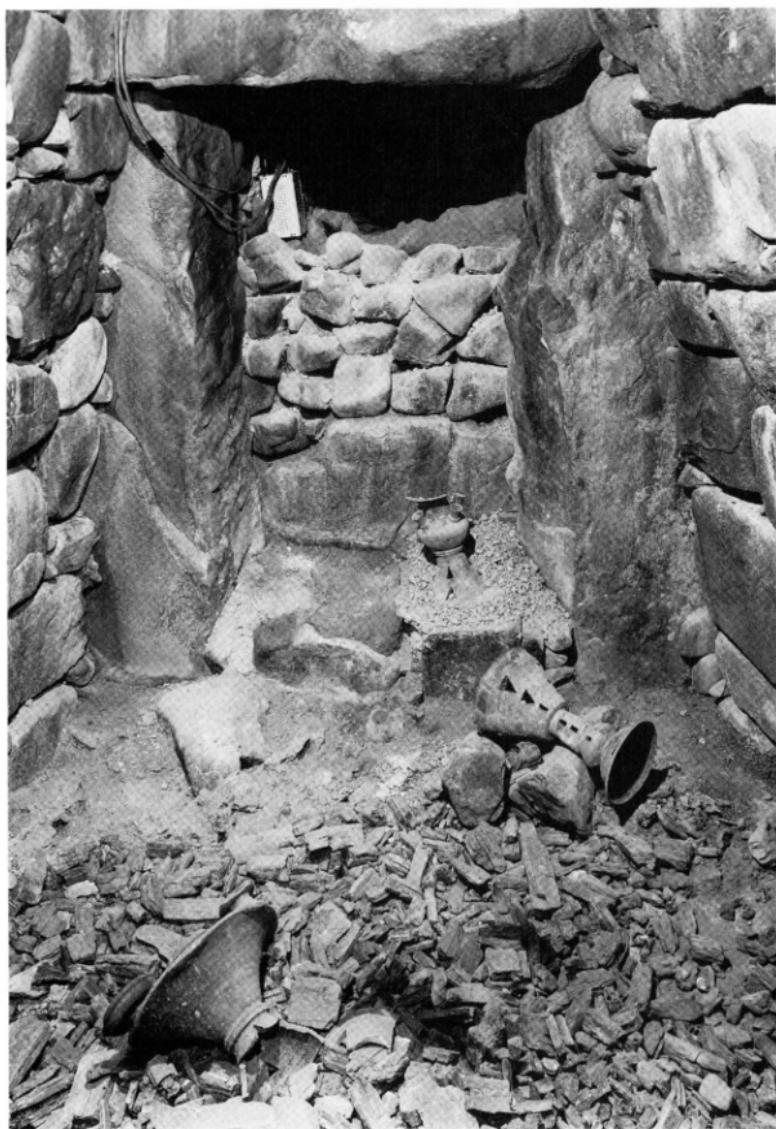


写真 2 玄門部寄りの遺物配置（東より）



II 平成9年度

松山市埋蔵文化財調査関係資料

松山市埋蔵文化財調査関係資料

例 言

- 本編は、松山市教育委員会文化教育課・(財)松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センターが実施した埋蔵文化財確認調査資料である。
- 今回は平成9年度(申請番号1号～386号、平成9年4月1日～平成10年3月31日迄)の資料を取り扱う。なお、平成8年度以前の資料については、「松山市文化財調査年報I(昭和60～61年度)」、「同年報II(昭和62～63年度)」、「同年報III(平成元年～2年度)」、「同年報IV(平成2年～3年度)」、「同年報V(平成4年度)」、「同年報VI(平成5年度)」、「同年報VII(平成6年度)」、「同年報VIII(平成7年度)」、「同年報IX(平成8年度)」を参照されたい。
- 資料作成(一覧表及び付録図)は、栗田正芳、波多野恭久、堀内哲也、大西正規が行った。
- 表中の番号は、埋蔵文化財確認の申請番号に順するものである。また、本格調査については、平成9年度に行った調査を取り扱う。
- 付録図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図(三津浜・松山北部・郡中・松山南部)を使用した。
- 一覧の略記について
 - 面積：調査対象面積、少数点以下四捨五入。
 - 標高：地表面、()は調査地内平均値。
 - 調査目的：公=施主一般。
 - 調査方法：空白は未調査等。

確認調査一覧

No.1

No.	所 在 地	面積(m ²)	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺物	遺 物	遺 物
1	古三津3丁目1010-4・15	140		私	既済			H6-67にて試掘済
2	久万ノ台765-768-1	377	(14.55)	私	試掘			
3	久万ノ台764	109	14.23	私	試掘			
4	久米瀬町896-3・4	243	45.35	私	試掘			
5	北宿町464	1,350	(7.19)	私	試掘			
6	北久米町451-4	169	34.90	私	試掘			
7	東石井町	74	(22.45)	公	立会			
8	東本1丁目	19	(33.29)	公	立会			
9	桑原1丁目	82	(38.50)	公	立会			
10	枝松6丁目39-3	327	26.99	私	試掘			
11	福音寺町727-1・2	851	22.79	私	試掘			
12	二番町6丁目4-20	1,300	18.86	公	試掘			
13	南江戸3丁目909-1	446	13.97	私	試掘			
14	御幸1丁目267-1	4,429	(27.50)	私	試掘			
15	水泥町1083-2	142		私	既済			H8-446にて試掘済
16	西石井町22-1・2	664	(21.81)	私	試掘			
17	朝美2丁目1158外3筆	447	18.54	私	試掘			

松山市埋蔵文化財調査閲覧資料

確認調査一覧

No.2

No.	所 在 地	面積(m ²)	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺物	遺 物	消 物
18	桑原1丁目997-1	604	(37.90)	私	試掘			
19	道後緑台226-1	125	35.70	私	試掘			
20	南江戸3丁目821-4・6	224	13.00	私	試掘			
21	南久米町665-44	194	41.00	私	試掘			
22	安城寺町88-3・6	229	8.80	私	試掘			
23	上野町乙135-12	190		私	既済			
24	平井町1846-2・7・8	499	(75.86)	私	試掘			
25	南久米町506-4・5	228		私				
26	平井町甲3157 96	238	47.31	私	試掘			
27	水泥町777-2・3	459	66.57	私	試掘			
28	久米塙田町1119-3	288	43.39	私	試掘			
29	辻町56-2・3	144	13.99	私	試掘			
30	平井町3157-226	254	49.40	私	試掘			
31	道後緑台1356-3	171	37.19	私	試掘			
32	平井町1463-2	98	69.70	私	試掘			
33	朝生田町2丁目292-3	137	19.65	私	試掘			
34	平井町3157-100	237	47.50	私	試掘			
35	平井町3157 86	234	48.01	私	試掘			
36	祝谷東町乙742-25	265	98.87	私	試掘			
37	衣山2丁目508-4・6	193	(24.02)	私	試掘			
38	別府町591-2, 592	111	6.7	私	試掘			
39	久米塙田町377-1	1,264	(43.85)	私	試掘			
40	小坂2丁目462-5	171	28.70	私	試掘			
41	枝松6丁目95-1・2・3	1,781	(26.50)	私	試掘			
42	今在家町420-5	218	30.99	私	試掘			
43	道後緑台216-1	115	33.65	私	試掘			
44	高岡町890-1・2	821	5.68	私	試掘			
45	椎原町甲639-1, 648-1	1,481		私	既済			
46	祝谷2丁目320-1	115	45.77	私	試掘			
47	南江戸4丁目937-3	312	12.72	私	試掘			
48	下伊賀町437-3	150	(279.90)	私	試掘			
49	山西町874-1	381	2.70	私	試掘			
50	北斎院町610-4外2筆	987		私	既済			
51	南江戸4丁目8-27	298	13.30	私	試掘			
52	東行井町431	747	22.20	私	試掘			
53	水泥町333-253	172	49.40	私	試掘			
54	北久米町973-1外2筆	1,057	30.70	私	試掘			
55	久米塙田町859-1, 860-1	1,330		私	既済			
56	南江戸2丁目642-4・6・9	527	15.30	私	試掘			
57	小坂3丁目72-1	1,107	(27.98)	私	試掘			
58	水泥町1120-1	302	59.99	私	試掘			

確認調査一覧

No.3

No.	所 在 地	面積(m ²)	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺物	虞 物	遺 物
59	平井町甲2240	889	58.10	私	試掘			
60	下伊台町1423-3	225	145.48	私	試掘			
61	東本1丁目外3時町	596	(35.45)	公	立会			
62	平井町甲3157-166	237	47.94	私	試掘			
63	来住町244-1, 242-1	765	40.80	私	試掘	包含層、柱穴 上部器、須恵器	本格調査要	
64	祝谷2丁目154-2・8	213	34.39	私	試掘			
65	平井町1335-4	163	72.60	私	試掘			
66	桑原6丁目706-2	201	36.02	私	試掘			
67	みどりヶ丘1066-28	150	7.0	私	試掘			
68	朝美1丁目1301、1302	442	17.28	私	試掘			
69	朝美2丁目1140外3筆	805	(23.07)	私	試掘			
70	久万ノ台838	233	16.46	私	試掘			
71	松末2丁目125-15	267	25.00	私	試掘			
72	道後今市1060-1・4	260	32.00	私	試掘			
73	朝美2丁目1079-5	166	25.87	私	試掘			
74	朝日ヶ丘2丁目1459-8	194	30.24	私	試掘			
75	平井町甲1215-6	125		私	既済		H8-317にて試掘済	
76	文京町1	680	(30.16)	私	試掘			
77	北齋院町1236-2	72	9.70	私	試掘			
78	南江戸3丁目2-18	176	13.45	私	試掘			
79	博味2丁目59	292	42.40	私	試掘	溝 須恵器	本格調査要	
80	古三津3丁目1010-11	146		私	既済		H8-671にて試掘済	
81	朝美1丁目1337-1	550	16.92	私	試掘			
82	中村2丁目44-1	510	28.50	私	試掘			
83	道後喜多町1019-10	276	33.93	私	試掘			
84	桑原7丁目451-8外2筆	143	33.90	私	試掘			
85	道後緑谷9-44・45	218	(42.55)	私	試掘			
86	畠寺町丙-1-外8筆	8,118		私	既済		本格調査済 畠寺6号墳	
87	南久米町688-3 末住町546	511	(39.77)	私	試掘	住居址、土塙 弥生土器	本格調査要	
88	太山町町2265、2255付近	110	(16.80)	公	立会			
89	平井町2626	154	67.12	私	試掘			
90	東石井町433の一部外1筆	437	22.30	私	試掘			
91	東石井町433の一部外1筆	186	22.30	私	試掘			
92	東石井町433の一部外1筆	275	22.30	私	試掘			
93	今在家町294-5	195		私	既済		H8-389にて試掘済	
94	南久米町373-6	227	38.33	私	試掘			
95	南久米町373-10	198	38.33	私	試掘			
96	平井町甲1145、1146	393	78.77	私	試掘			
97	南江戸3丁目919-1	685	12.30	私	試掘			
98	難原1丁目170-2	347	23.60	私	試掘			
99	山越1丁目303-4	99	18.29	私	試掘			

松山市埋蔵文化財調査関係資料

No.4

確認調査一覧

No.	所在地	面積(m ²)	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺物	遺物	遺物
100	北斎院町309、310	128	12.30	私	試掘			
101	水泥町333-65	199	49.20	私	試掘			
102	小坂3丁目444-1	1,280	27.49	私	試掘			
103	福音寺町406-10	149		私	既済		本格調査済	
104	東野4丁目甲556-6	149		私	既済		筋道長道路	
105	衣山22丁目518	301	24.61	私	試掘		H7-344にて試掘済	
106	北柳町甲1371-29	497	(118.52)	私	試掘			
107	古三津3丁目928-22	121	10.20	私	試掘			
108	道後鍾台216-2	144	33.75	私	試掘			
109	文京町4-2-10 湊水町2丁目14-13	315	25.07	私	試掘	柱穴	三脚器、張席器	本格調査要
110	平井町甲548-1外5筆	790	81.54	私	試掘			
111	太山寺町1981外	2,000	(38.03)	公	試掘	石列、包含層	土葬器、陶器等	本格調査要 太山寺軒田道路5次調査
112	今在家町294-3	147		私	既済			H8-389にて試掘済
113	東本1丁目110-5外1筆	706	34.09	私	試掘			
114	古二津3丁目878-15	156		私	既済			H8-120にて試掘済
115	古二津3丁目878-14	126		私	既済			H8-120にて試掘済
116	古三津3丁目878-12	141		私	既済			H8-120にて試掘済
117	古二津3丁目878-24	186		私	既済			H8-120にて試掘済
118	鷺子町15-1	480		公				申請取り下げ
119	福音寺町680-3	666	23.60	私	試掘			
120	桜谷町152-2	750		私	踏査			
121	天山町277-1	541	21.27	私	試掘			
122	久米塚山町897-9	232	42.15	私	試掘			
123	北斎院町458	852	8.15	私	試掘			
124	安城寺町96-8	101		私	既済			H7-228にて試掘済
125	北久米町2-1	590	(51.19)	私	試掘			
126	枝松6丁目59-3	150	27.10	私	試掘			
127	持田町1丁目148-5	352	(35.75)	公	試掘			
128	久万ノ台1411-19	136	29.10	私	試掘			
129	東本1丁目101-5	13	34.06	私	試掘			
130	椎現町甲659-4・7	156	33.12	私	試掘			
131	今在家町420-59	270	30.16	私	試掘			
132	鷺子町202-6外3筆	241	50.18	私	試掘			
133	水泥町1006-12・15	249	66.75	私	試掘			
134	水泥町1037	127		私				
135	市坪西町	411,900	(10.80)	公	一鳥 試掘			
136	立花6丁目383-4・6	166	20.80	私	試掘			
137	中村2丁目53-2・3	260	28.70	私	試掘			
138	南江戸3丁目789	474	13.21	私	試掘			
139	北久米町14-2、18-3	146	44.50	私	試掘			
140	東本1丁目36-1外4筆	3,155	(31.50)	私	試掘			

松山市埋蔵文化財調査関係資料

確認調査一覧

No.5

No.	所 在 地	面積(m ²)	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺物	遺 物	遺 物
141	小坂4丁目254-6	172		私	既済			H7-253にて試掘済
142	小坂4丁目18-30の一部	9,075	27.40	私	試掘			
143	北斎院町376-10	45	10.03	私	試掘			
144	北久木町乙2-2	381	(47.32)	私	試掘	石室墓坑 須恵器	本格調査要	
145	祝谷2丁目190	795	35.70	私	試掘			
146	平井町甲1370-1	1,068	(71.75)	私	試掘			
147	山越2丁目52-2外7筆	908		私	既済			H8-216にて試掘済
148	祝谷2丁目328	124	39.05	私	試掘			
149	米住町1130、1129-3	454		私	既済			H8-110にて試掘済
150	平井町3157-191	252	48.80	私	試掘			
151	朝美2丁目6-50	228	19.91	私	試掘			
152	桑原6丁目724-2	138		私	既済			H8-44にて試掘済
153	桑原6丁目724-3	136		私	既済			H8-44にて試掘済
154	船ヶ谷町223-1	916	11.72	私	試掘			
155	東石井町乙68-7	211		私	既済			本格調査済 東山歩ヶ森山塊
156	南久木町765-6	148		私	既済			本格調査済 久木高麗塚3次調査
157	今在家町293-1	181	31.60	私	試掘			
158	中村1丁目100-1	1,262	(28.71)	私	試掘	伴厄豆、土坑 豚牛上器		本格調査要 中村松田道跡3次調査
159	道後一万784-2	347	33.49	私	試掘			
160	祝谷6丁目1039-2外1筆	106	(48.44)	私	試掘			
161	今在家町191-1	143		私	既済			H8-224にて試掘済
162	道後今市町1023-4	248	33.27	私	試掘			
163	朝生山町3丁目384-1	440	18.20	私	試掘			
164	道後喜多町4-26	21	34.20	私	試掘			
165	中村1丁目270-1外2筆	521	25.80	私	試掘			
166	北久木町773-1外2筆 北久木町612-3外2筆	2,622	30.20	私	一部 試掘			本格調査済 乃万の古道跡2次調査
167	桑原2丁目826-8	137	37.90	私	試掘			
168	桑原1丁目991-6	95	38.56	私	試掘			
169	道後緑台226-8	127		私	既済			H9-19にて試掘済
170	平井町甲1995-2	478	65.29	私	試掘			
171	東野5丁目甲867-1	88	51.31	私	試掘			
172	平井町甲542-1	471	81.29	私	試掘			
173	谷町甲219-8	156	13.00	私	試掘			
174	清水町2丁目14-4-5	415	24.21	私	試掘			
175	水泥町333-10	115	49.90	私	試掘			
176	久万ノ坂乙172外65筆 古三浦3丁目216-29417筆	56,886	(22.59)	私	一部 試掘			本格調査済 野唐大山連路
177	北嶺院町乙325	156		私	既済			県教育委員会にて試掘済
178	東住町1851-23	111	39.82	私	試掘			
179	山西町879-4-5	775	2.30	私	試掘			
180	桑原2丁目826-7	142	37.90	私	試掘			
181	松末2丁目84-15	107	27.34	私	試掘			

No.6

確認調査一覧

No.	所 在 地	面積(m ²)	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺物	遺 物	遺 物
182	平井町甲1564-3~1566	1,210	(72.35)	公	立会			
183	東野5丁目乙221-58	298		私	既済		H3 109にて試掘済	
184	道後緑台216 1	173	33.65	私	既済		H9-43にて試掘済	
185	小坂4丁目249-1	462	27.43	私	試掘			
186	北斎院町235-1	1,048	8.40	私	試掘			
187	姫原1丁目1680	957	37.40	私	試掘			
188	道後一方114	137	31.45	私	試掘			
189	祝谷2丁目161-1	1,086	(34.95)	私	試掘			
190	久米屋山町769-4、774-4	310	47.50	私	試掘			
191	谷町745-3・6	375	28.91	私	試掘			
192	谷町748-3・4	333	32.15	私	試掘			
193	谷町748-7	170	34.21	私	試掘			
194	南久米町766-8	168		私	既済			
195	朝生田町496-1	11		私	既済			
196	北京町159-1	159	10.05	私	試掘			
197	姫原1丁目甲169-4・5・6	249	22.97	私	試掘			
198	枝松5丁目81-7	147	27.83	私	試掘			
199	桑原2丁目959	578	39.50	私	試掘			
200	鷹ノ子町乙402-5	491	(65.52)	私	試掘	占墳		本格調査要
201	石風呂町406	965		私				
202	南久木町594	93	40.10	公	立会			
203	清水町2丁目7-2	197	22.50	公	立会			
204	太山寺町甲475-3	277	4.56	私	試掘			
205	平井町甲3157-196	236	49.20	私	試掘			
206	山越1丁目14-18	165	17.30	私	試掘			
207	東方町甲693-3	498	(58.27)	私	試掘			
208	東方町甲1301-1・7	434	55.54	私	試掘			
209	北久米町791, 792	633	29.80	私	試掘			
210	道後緑台217-2	554	34.20	私	試掘			
211	平井町甲2390-6	111		私	既済			本格調査要 下刈原道路
212	清水町2丁目17-5	125	23.14	私	試掘			
213	福音寺町532-1、534-2	1,424	26.70	私	試掘	土坑・溝 土器片、漆器片		本格調査要
214	星園町317-2、318-2	370	28.08	私	試掘			
215	太山寺町336-2	386	6.00	私	試掘			
216	久米庭田町792-4	410		私	既済			S 62-41にて試掘済
217	福音寺町406-15	158		私	既済			本格調査要 新道K遺跡
218	道後今市998-15の一部	242	33.40	私	試掘	包含層・溝 弥生土器		本格調査要
219	道後今市998-15の一部	122	32.19	私	試掘	包含層	上器	本格調査要
220	東野5丁目乙221-3外1筆	198	(57.81)	私	試掘			
221	久万ノ台1008-1	461	16.90	私	試掘			
222	道後今市1038-1	172	33.20	私	試掘			

松山市埋蔵文化財調査関係資料

確認調査一覧

No.7

No.	所 在 地	面積 (m ²)	標高 (m)	調査目的	調査方法	包含・遺物	遺 物	遺 物
223	西石井町214-17	127		私	既済		H7-14にて試掘済	
224	福言寺町723-15	110	23.00	私	試掘			
225	大山町249	482	21.29	私	試掘			
226	桑原6丁目724-6	215		私	既済		H8-44にて試掘済	
227	桑原6丁目750-1外3筆	410	33.90	私	試掘			
228	吉麻5丁目230	997	22.80	私	試掘			
229	平井町岸1540-5	137	68.43	私	試掘			
230	祝谷6丁目1093-1外4筆	1,428	(46.06)	公	試掘			
231	太山寺町甲419	1,239	4.17	私	試掘			
232	太山寺町甲425-4	30	4.13	私	試掘			
233	西野町春日池	7,000	89.20	公	立会			
234	梶江町乙338-2の一部	257	136.99	私	試掘			
235	南久米町415-5	247	36.00	私	試掘			
236	山越1丁目270-12	165		私	既済		H7-66にて試掘済	
237	西石井町52-5	791		私				市教育委員会にて処理
238	平井町甲1337-9	197		私	既済		H6-43にて試掘済	
239	安城寺町592-1外6筆	5,730	(8.30)	私	試掘	土坑・溝 埴輪土器、 土器群	本格調査要	
240	北斎院町455-1	862	7.80	私	試掘			
241	清水町2丁目17-15	112	23.44	私	試掘			
242	石風呂町甲1029-1外3筆	305		私	踏査			
243	内沢町乙374-3	320	11.00	私	試掘			
244	姫原2丁目甲265-50	166	20.00	私	試掘			
245	南江戸3丁目919-1	8	12.30	私	既済		H9-97にて試掘済	
246	小坂4丁目19-2	182	26.29	私	試掘			
247	朝生田町3丁目366-1外2筆	449	18.40	私	試掘			
248	木泥町333-98	171	49.96	私	試掘			
249	椎岡町小堀井	318	71.60	公	立会			
250	東野4丁目甲556-4	203		私	既済		本格調査済 東野お茶所台遺跡5次調査	
251	米住町260-3	136		私	既済			
252	鷺子町168-1	500	(47.00)	私	試掘		H6-173にて試掘済	
253	鷺子町101-1外2筆	490	44.59	私	試掘			
254	久万ノ台833	287	17.05	私	試掘			
255	木屋町2丁目1-15の一部	198	22.20	私	試掘			
256	東石井町216-3外3筆	210		私	既済		本格調査済 東山森ヶ森山地	
257	小坂4丁目3-6	155	26.58	私	試掘			
258	西石井町214-18・19	124		私	既済		H7-14にて試掘済	
259	南江戸5丁目1550	277	18.50	私	試掘			
260	山越2丁目27-6	127	16.80	私	試掘			
261	朝美2丁目1143外1筆	802	25.00	私	試掘			
262	山越3丁目322外2筆	923	49.50	私	試掘			
263	今在家町177-3、178	373	31.70	私	試掘			

確認調査一覧

No.8

No.	所 在 地	面積 (m ²)	標高 (m)	調査目的	調査方法	包含・遺物	遺 物	遺 物
264	来住町605-1先	321	40.00	公	立会			
265	松末2丁目76-3外3筆	601	28.06	私	試掘			
266	久米塙田町377-1	1,303	(43.85)	私	既済		H9-39にて試掘済	
267	星岡町301-1	383	25.30	私	試掘			
268	谷町平681-4	135		私	既済		H8-252にて試掘済	
269	古三津3丁目878-19	169		私	既済		H8-120にて試掘済	
270	東町4丁目甲556-5	190		私	既済		H7-344にて試掘済	
271	南久米町598-4	149		私				
272	平井町甲1761	223	69.15	私	試掘			
273	北斎院町1070-4	191	6.95	私	試掘			
274	道後今市998-14	199	33.47	私	試掘	包含・柱穴 弥生土器	本格調査要 道後今市道跡11次調査	
275	来住町1139-1外4筆	2,618	(35.15)	私	試掘	住居址、溝 弥生土器	本格調査要	
276	来住町1132	407	35.70	私	試掘			
277	鷹子町222-7	339		私	既済		H6-165にて試掘済	
278	西石井町74-4外2筆	165		私	既済		H8-431にて試掘済	
279	太山寺町山南港闇池	20		公				
280	久米塙田町1126-1	204	44.00	私	試掘			
281	安城寺町97-13	177	9.19	私	試掘			
282	久米塙田町902	194	44.80	私	試掘			
283	東町4丁目甲556-7	192		私	既済		H7-34にて試掘済	
284	谷町甲221-29・30	106	13.17	私	試掘			
285	祝谷2丁目190-1	186		私	既済		H9-145にて試掘済	
286	古三津3丁目878-16	170		私	既済		H8-120にて試掘済	
287	吉藤5丁目978	610		私				
288	廣子町628-1	167		私	既済		本格調査要 廣子新都道跡2次調査	
289	星岡町642-3	71		私	既済		本格調査要 乃万の森道跡2次調査	
290	久米塙田町1166-3	291	43.56	私	試掘			
291	烟寺町760外4筆	2,563	56.70	私	試掘			
292	祝谷5丁目691-3	561	42.40	私	試掘			
293	福音寺町698-4	200	23.35	私	試掘			
294	今在家町418-5	202		私	既済		H7-144にて試掘済	
295	南斎院町1315-1の一部外1筆	998	8.10	私	試掘			
296	北海本町甲1199外30筆	2,481	(101.27)	公	立会			
297	天川町51-3	168	20.40	私	試掘			
298	道後北代178-2	241	33.60	私	試掘			
299	南久米町381-14	192		私	既済		H6-164にて試掘済	
300	祝谷5丁目740-8	157	46.08	私	試掘			
301	古三津3丁目878-22	176		私	既済		H8-120にて試掘済	
302	小坂4丁目283-12	128		私	既済		H8-171にて試掘済	
303	祝谷6丁目乙198-1	362	80.00	私	試掘			
304	今在家町193-1	284	31.40	私	試掘			

No.9

確認調査一覧

No.	所 在 地	面積(m ²)	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺物	遺 物	追 物
305	水泡町333-85	171	50.00	私	試掘			
306	東野5丁目甲835-5	170		私	既済			本格調査済 東野お茶所台遺跡5次調査
307	東野5丁目甲835-18	183		私	既済			本格調査済 東野お茶所台遺跡5次調査
308	南土居町414-1	199	36.30	私	試掘			
309	南江戸4丁目1107-4・5・6	412	(12.31)	私	試掘			
310	山西町152-1外6筆	2,646	(4.02)	私	試掘			
311	上野町乙53-2の一部	150	(88.89)	私	試掘			
312	姫原1丁目甲80-1外1筆	629	36.60	私	試掘			
313	山越2丁目9-8	429	17.90	私	試掘			
314	福音寺町576	196	24.19	私	試掘			
315	今在家町229-1	743	30.16	私	試掘			
316	南野4丁目212-1・3 古川5丁目甲214-2	160	21.26	私	試掘			
317	道後今市136外2筆	375	31.10	私	試掘			
318	小坂4丁目283-13	130		私	既済			H8-171にて試掘済
319	福音寺町452-1・2	349	26.70	私	試掘	溝、柱穴	発生、土師器	本格調査要
320	福音寺町396-5	182	27.40	私	試掘			
321	平井町甲1370-8	137		私	既済			H9-146にて試掘済
322	平井町甲1370-5	183		私	既済			H9-146にて試掘済
323	山越2丁目甲15-1・7	344	17.61	私	試掘			
324	上野町甲808-59	222		私	既済			
325	辻町67-2、68	331	14.45	私	試掘			本格調査済 土壤原遺跡
326	一番町3丁目乙1-1	46.44	(28.20)	公	試掘			
327	松末2丁目38-1外2筆	534	(26.00)	私	試掘			
328	福音寺町694-5	126		私	既済			H8-392にて試掘済
329	道後北代179、180-3	531	33.60	私	試掘			
330	畠寺3丁目334-4	213	33.13	私	試掘			
331	朝美2丁目1234-5	114	16.34	私	試掘			
332	東野5丁目873外2筆	482	(51.10)	私	試掘			
333	道後一萬114	136		私	既済			H9-188にて試掘済
334	枝松3丁目299-2	215	33.28	私	試掘			
335	鷹子町66-8	124	43.00	私	試掘			
336	南久米町8-1、9-1・2	908	43.00	私	試掘			
337	姫原2丁目265-59	156	20.84	私	試掘			
338	南久米町716	193	38.80	私	試掘	柱穴	発生、土師器	本格調査要
339	古川3丁目878-13	141		私	既済			H8-120にて試掘済
340	北倉院町221-1	976	8.90	私	試掘	溝、柱穴	土師器	本格調査要
341	柳原4丁目213-6	124		私	既済			本格調査済 博味西反地遺跡5次調査
342	道後駄舎194-1	114	36.67	私	試掘			
343	米住町778	1,101	(36.58)	私	試掘			
344	久米塙田町1167-1外3筆	2,758	(42.01)	私	試掘			
345	桑原1丁目1008-4	165	36.27	私	試掘			

松山市埋蔵文化財調査関係資料

確認調査一覧

No.10

No.	所 在 地	面積(m ²)	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺物	遺 物	遺 物
346	山越3丁目16-47の一部	103	20.39	私	試掘			
347	道後緑台223-2	163	35.22	私	試掘			
348	櫛町4丁目213-5	123		私	既済		本格調査済 梅塚西反塙遭跡5次調査	
349	北久米町474	968	32.50	私	試掘			
350	祝谷5丁目691-6・7	212		私	既済		H9-2921にて試掘済	
351	畠寺2丁目4-2	356	37.00	私	試掘			
352	福音寺町723-6・7	159	23.01	私	試掘			
353	福音寺町723-1・12	110	23.02	私	試掘			
354	福音寺町723-14・17	152	22.93	私	試掘			
355	南久米町435-1外2筆	398		私	既済		H6-131にて試掘済	
356	平井町甲1556-1	108		私	既済		H8-35にて試掘済	
357	平井町甲1556-2・4	139		私	既済		H8-35にて試掘済	
358	平井町甲1556-3・5	131		私	既済		H8-35にて試掘済	
359	米住町601-2外3筆	669	40.90	私	試掘			
360	南久米町2-1の一部	111	(98.47)	私	試掘			
361	東石井町432-1	220	22.69	私	試掘			
362	南久米町629-10	136	40.10	私	試掘			
363	山越3丁目12-4	211	22.44	私	試掘			
364	西石井町224	641	20.50	私	試掘			
365	拂味町4丁目213-13	111		私	既済		本格調査済 梅塚西反塙遭跡5次調査	
366	西石井町241	680	20.80	私	試掘			
367	米住町538-3	990	39.27	私	試掘	包含層・柱穴 前生・土器、瓦等	本格調査要	
368	南高井町1606-3	118	36.95	私	試掘			
369	船ヶ谷町95-3	382	21.89	私	試掘			
370	縁町2丁目8外2筆	126	27.83	私	試掘			
371	東山町45-3	140	14.69	私	試掘			
372	西石井町74-2・3	155		私	既済		H8-431にて試掘済	
373	北斎院町647-1外6筆	573	7.95	私	試掘			
374	桑原6丁目9-30	197		私				
375	道後緑台197-1	165	35.80	私	試掘			
376	南高井町1606-7	101	36.14	私	試掘			
377	祝谷2丁目190-7	128		私	既済		H9-145にて試掘済	
378	平井町甲1321-4外3筆	188	74.20	私	試掘			
379	北斎院町455-5	409		私	既済		H9-240にて試掘済	
380	祝谷東町636の一部	3,134	61.40	私	試掘			
381	山越1丁目307-8	165	17.90	私	試掘			
382	木水町1083-3	138		私	既済		H8-446にて試掘済	
383	平井町甲1370-6	133		私	既済		H9-146にて試掘済	
384	北井町門町396-1	1,687	22.50	私	試掘			
385	久米笠田町835-7	584		私	既済		本格調査済 久木笠田占屋敷遺跡	
386	太山寺町甲489-2	488	3.87	私	試掘			

平成9年度 松山市埋蔵文化財本格調査一覧

No.	遺跡名	所在地	調査目的	時代
315	樽味四反地遺跡5次調査地	樽味4丁目213外	緊急	弥生～古代
316	中村松田遺跡2次調査地	中村2丁目51-1・2・3	▲	弥生～中世
317	久米高畠遺跡33次調査地	南久米町749、半住町872-2	国補	縄文～古代
318	久米高畠遺跡34次調査地	半住町870-1	国補	弥生～古代
319	久米高畠遺跡35次調査地	南久米町765-6	緊急	縄文～古代
320	久米高畠遺跡36次調査地	半住町907-1	▲	縄文～中世
321	筋追L遺跡	松末2丁目22-2外	緊急	弥生～中世
322	船ヶ谷遺跡2次調査地	西長戸町636-1外	▲	古墳
323	舞祭遺跡	舞幸2丁目259-1外	国補	古代～中世
324	久米才歩行遺跡3次調査地	南久米町484-1	緊急	弥生～中世
325	久米高畠遺跡37次調査地	南久米町697-1	国補	弥生～古代
326	鳴子町遺跡2次調査地	鳴子町724-1・7	緊急	古代～中世
327	久米高畠遺跡38次調査地	南久米町768-1	学術	古代
328	久米高畠遺跡39次調査地	南久米町779-1	▲	古代
329	久米高畠遺跡40次調査地	南久米町743-2	▲	古墳～古代
330	久米塙田森元道路4次調査地	久米塙田町859-1、860-1	緊急	古代～中世
331	太山寺經田遺跡5次調査地	太山寺町1981外	▲	中・近世
332	中村松田遺跡3次調査地	中村1丁目100-1	▲	弥生～中世
333	道後今市道路11次調査地	道後今市998-14	国補	縄文～弥生

主な遺構、遺物等	対象面積(m ²)	届外調査期間	No.
豎穴住居址・掘立柱建物址・河川・円面墳・土師	2,146	H9.4.1~H9.7.31	315
豎穴住居址・溝・柱穴・弥生・土師	1,675	H9.4.1~H9.7.31	316
豎穴住居址・掘立柱建物址・土坡・縄文・弥生・須恵	637	H9.4.14~H9.6.24	317
掘立柱建物址・土坑・弥生・土師・須恵	208	H9.4.16~H9.6.19	318
豎穴住居址・掘立柱建物址・濠・縄文・弥生・須恵	442	H9.5.7~H9.6.7	319
豎穴住居址・掘立柱建物址・縄文・弥生・土師・須恵	989	H9.6.25~H9.10.27	320
豎穴住居址・掘立柱建物址・縄列・溝・弥生・土師・陶磁器	5,366	H9.7.7~H9.11.29	321
土坑・溝・自然流路・弥生・土師・須恵	4,543	H9.8.1~H10.1.30	322
井戸・弥生・土師・須恵	730	H9.8.1~H9.10.14	323
掘立柱建物址・土坑・溝・弥生・土師・須恵・陶磁器	496	H9.9.1~H9.10.31	324
掘立柱建物址・縄列・土坑・弥生・土師・須恵	400	H9.10.21~H10.1.27	325
溝・土坑・柱穴・土師・須恵・砾石	767	H9.11.3~H10.1.30	326
濠・土坑	11	H9.11.20~H9.12.18	327
濠	45	H9.11.20~H9.12.18	328
豎穴住居址・掘立柱建物址・溝・土師・須恵	125	H9.12.8~H10.2.3	329
掘立柱建物址・自然流路・十師・須恵	1,330	H9.12.15~H10.3.31	330
石列・瓦器・土師・陶磁器・石器	2,000	H9.12.18~H10.1.30	331
豎穴住居址・掘立柱建物址・土坑・弥生・須恵	1,262	H10.2.2~H10.3.18	332
豎穴住居址・土坑・溝・弥生・石器・石器	199	H10.2.26~H10.3.31	333

平成 9 年度 松山市埋蔵文化財本格調査位置図



(S = 1:75,000)

III 平成9年度
保 存 处 理

保存処理事業 I

保存処理室では主に木製品の保存処理（PEG含浸処理）、鉄製品の保存処理（減圧樹脂含浸）を行っており、必要に応じて現場に出向き、遺物の取り上げ、土層の剥ぎ取り転写の作業も行っている。

1. 木製品の処理

平成9年6月17日より250型処理水槽にて含浸処理を開始した。処理遺物は松山城二之丸、古照跡10次調査、久米窪田森元遺跡3次調査、来住庵寺18・24次調査、釜ノ口遺跡8次調査、辻町遺跡2次調査出土のものである。平成10年5月現在、処理水槽内のPEG濃度は80%である。処理の完了は8月を予定している。

2. 鉄製品の処理

瀬戸風跡・岩崎遺跡から出土した遺物はエアーブラシを用いて表面に付着している土・ゴミの除去を行った。この時点での遺物の依存状態なども観察するが両遺跡とも比較的良好であった。これらの遺物は実測、写真撮影、構造調査、材質調査などを行った後に本格的な処理を行う。

未処理の遺物で脱水作業の終わったものは順次水酸化リチウム溶液を用い、脱塩作業を行っている。今後これらの遺物は第一次樹脂含浸作業に入る予定である。

3. 遺構・遺物の取り上げ

遺物の取り上げは瀬戸風跡、北梅本太尺寺遺跡にて行った。瀬戸風跡では平成10年1月に9号石棺内より発泡ウレタン樹脂を使用し人骨の取り上げを行った。人骨は上から取り上げられないくらいに脆いものであった。作業の工程はまず人骨の周囲にウレタン樹脂を流し込む溝を掘り（写真1）、人骨が出土している面に保護のため和紙を貼る。その後ダンボールで枠組みを行い発泡ウレタン樹脂を注入し、発泡・硬化したのち石棺内より切り離した。切り離した人骨は一度反転し、下面もウレタン樹脂にて強化し現場より搬出した。

北梅本太尺寺遺跡では平成10年3月に竹製品の取り上げを行った。工法、作業の工程は、瀬戸風跡の遺物の人骨の取り上げと同じである。

4. 土層の剥ぎ取り転写

平成10年2月23・24日に岩崎遺跡6区の溝SD5を行った。作業の工程は転写対象面を凹凸がないよう削る。土層面に海拔などを竹串などで目印を付けてエポキシ系合成樹脂をエアーガンを用いて吹き付けた。その後ガーゼ（樹脂の補強）で裏打ちを行った。この裏打ち行程は補強のため2回繰り返した。外気の温度が低いため樹脂の硬化速度が遅く剥ぎ取り（写真2）は翌日行ったため現場での作業は二日間に渡った。剥ぎ取り後処理室に搬入し、転写面を洗浄、乾燥後強化のためイソシアネート系合成樹脂を吹き付けた。このイソシアネート系合成樹脂は転写面が濡れ色を呈するなどの効果もある。

（山本）



写真1 遺物の取り上げ作業（瀬戸風呂遺跡9号石棺にて）



写真2 土層の剥ぎ取り作業（岩崎遺跡6区SD5にて）

保存処理業務 II

当センターでは、金属製品のうち、重要遺物については充分な保存処理や化学分析等を行うため専門機関に業務を委託している。本年度は青銅鏡 1点、鉄製品 1点を外部委託した。

1. 青銅鏡

平成 7 年度、静岡市在住の濱田世氏より松山市横谷古墳出土品の資料の寄贈を受けた。寄贈資料は五鈴鏡 1点、埴輪 2点、須恵器 2点、鉄製刀子 1点の 6 点である。五鈴鏡は 2 分の 1 弱の遺存（写真 1）で、銹化が進行していた。このため保存処理が急務であり、保存処理と科学分析を京都造形芸術大学に依頼した。

資料：溝辺横谷古墳出土の五鈴鏡（平成 7 年寄贈品）

内容：保存処理と成分の科学分析

委託：京都造形芸術大学 文化財科学研究センター

2. 鉄製品

平成 7 年調査の古照ゴウラ遺跡 5 次調査地では、中世の土坑から鉄鍋 2 点が出土した。鉄鍋は完形で、土坑内で向い合せに置かれていた（写真 4）。2 つの鉄鍋は銹化が著しく、破損部分もあり、保存処理と補修・復元を行うことにした。

資料：古照ゴウラ遺跡 5 次調査地（平成 7 年調査）

内容：保存処理と復元

委託：株式会社 京都科学

〔文献〕『松山市埋蔵文化財調査年報 墓』 松山市教育委員会・㈱松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センター 1996



写真 3 溝辺横谷古墳出土 五鈴鏡

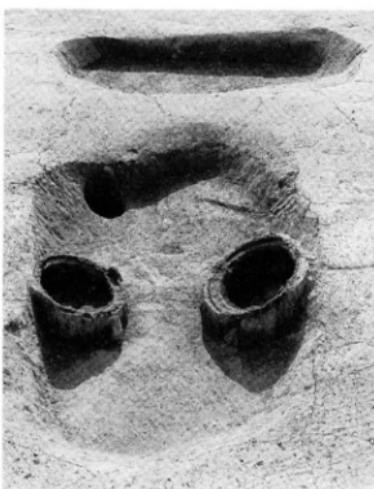


写真 4 古照ゴウラ遺跡 5 次調査地鉄鍋出土状況

IV 平成9年度
啓蒙普及事業

平成9年度の啓蒙普及事業

当埋蔵文化財センターは、松山市内における埋蔵文化財の発掘調査・研究とともに、出土遺物や記録資料などを収蔵し、保管している。発掘調査終了後は、遺跡の発掘調査報告書・パンフレットなどを作成し、随時現地説明会などを開催することにより、広く一般に公開している。

また附属の考古館・文化財情報館は地域文化の発展・向上並びに調査研究活動の振興を図ることを目的として設置されたものであり、展示会や一般対象の遺跡めぐり・講演会、小学生対象の体験学習セミナーを開催するなど、市民一人ひとりの生涯学習を援助しながら、埋蔵文化財保護思想の啓蒙普及に努めている。

①展示活動

考古館の常設展は、「海を媒体とした文化交流の中継地点としての伊予文化の独自性と、そこに生きた人々の姿」を解説し、「見る」「聞く」「考える」を展示の基本コンセプトとしている。また立体的な展示を心掛けている。展示品は、松山平野で出土した考古資料約8,200点である。

②松山市考古館活動報告写真展

考古館活動報告写真展「各駅停車、古代松山浪漫の旅」は、市民の方々に一年間の館活動を報告するとともに、広く埋蔵文化財に対して目を向けてもらうため、各種イベントの様子がわかる写真パネルを松山市庁舎本館1階ロビーにて展示したものである。

平成9年度は、考古学入門講座「チャレンジ考古学」の講座風景など9点の写真パネルを展示了。

③古代の創造物展

「松山の埋蔵文化財Ⅱ」は、愛媛新聞紙上にて平成8年9月から翌年1月にかけて20回シリーズで松山市内で検出された主要造構について紹介していた造構写真をパネル展示したものである。

④発掘調査速報展

発掘調査速報展「むかし・昔のまつやまを握る」は、松山市内で相次いで発見された重要な遺跡・遺物を速報的に紹介したり、また新たに発掘調査報告書が刊行された遺跡について、写真やイラスト・図面を交えながら紹介するものである。

平成9年度は、前年度に発掘調査された遺跡のなかで、筋違K遺跡を含む21遺跡を取り上げその出土遺物94点を展示了。

⑤夏休み親子体験学習セミナー作品展

セミナー作品展「みんなで作った！古代ファッションショー」は、小学生とその保護者が体験学習セミナーで製作した作品（古代風衣装）を展示したものである。

⑥特別写真展

「CREATORS－人はモノを創り続けてきた－」は、当埋蔵文化財センター発行の調査報告書に掲載されている遺物写真をアート的にアレンジした展示である。大小24点のモノクロ写真パネルを展示了。

⑦特別展



写真1 「みんなで作った！
古代ファッションショー」

特別展は、ひとつのテーマのもとに一定期間内で系統的に展示を行うものである。平成9年度は「朝日谷2号墳－前期古墳を探る－」と題して朝日谷2号墳から検出された遺物及び調査成果を中心とした展示を開催した。

⑦企画展

この展示は、松山市内における地域色を探り、そのテーマに添った資料を県内から借用し、一定期間実施した。平成9年度は「朱の世界～古代伊豫の赤色顔料～」と題して、「朱」にテーマを絞り、西部瀬戸内の赤色顔料の動向を探った。

テ　ー　マ	会　期	会　場	入館者数
考古館活動報告写真展 「各駅停車、古代松山漫遊の旅」	平成9年4月9日(水) ～4月18日(金)	市立美術館 1階ロビー	——
古代の創造物展 「松山の埋蔵文化財Ⅱ」	平成9年4月11日(金) ～4月20日(日)	特別展示室	125人
発掘調査連報展 「むかし・昔のまつやまと掘る」	平成9年5月24日(土) ～6月22日(日)	特別展示室	1,554人
夏休み親子体験学習セミナー作品展 「みんなで作った！古代ファッショショーンショー」	平成9年8月9日(土) ～8月24日(日)	特別展示室	302人
考古館特別写真展 「CREATORS…人はモノを創り続けてきた！」	平成9年8月30日(土) ～9月15日(月)	特別展示室	867人
特別展 「朝日谷2号墳－前期古墳を探る－」	平成9年10月18日(土) ～11月23日(日)	特別展示室	2,630人
企画展 「朱の世界～古代伊豫の赤色顔料～」	平成10年2月14日(土) ～3月22日(日)	特別展示室	2,180人

2. 教育普及活動

教育普及活動としては、職員の資質向上を目的とした調査研究会と、一般市民を対象にした埋蔵文化財保護思想の啓蒙を目的とした講演会・夏休み親子体験学習セミナーなどがある。

①調査研究会

発掘現場における調査方法や報告書作成のための各分野での第一人者を招聘し、助言を頂き、職員の資質の向上をめざしている。平成9年度は4人の研究者に招聘の機会を得て、ご指導をお願いした。(敬称略)

テ　ー　マ	日　時	会場	講　師
「時間旅行への招待」 －年代測定の現状と課題－	平成9年4月21日(月)	講堂	歴史環境研究所 杉山 真一
中間西井坪遺跡における地輪等の生産	平成9年8月28日(木)	講堂	徳島県埋蔵文化財調査センター 大久保徹也
池上曾根遺跡の年輪・年代測定について	平成9年9月30日(火)	講堂	榎原考古学研究所 寺沢 嘉
七世紀中葉から後半の宮殿構造	平成10年2月2日(月)	講堂	榎原考古学研究所 林部 均

②講演会

平成9年度は、発掘調査報告会・特別展記念シンポジウム・企画展記念講演会を開催した。発掘調査報告会「むかし・昔のまつやまを語る」は、前述の発掘速報展開催期間中に4名の発掘調査担当者による報告が行われた。

次に特別展記念シンポジウムは、特別展開催を記念して開催された。特に朝日谷2号墳の調査成果・評価・位置付け等が多角度から究明された。

企画展記念講演会は、平成元年に実施した松山大学構内遺跡2次調査以来、当埋蔵文化財センターと本田光子先生（別府大学文学部助教授）との間で進めてきた松山平野出土の赤色顔料付着遺物の分析・研究成果を調査担当者及び本田先生に語っていただいた。



写真2 企画展記念講演会

テ　ー　マ	日　時	会場	講　師	聴講者数
発掘調査報告会 「むかし・昔のまつやまを語る」	平成9年5月31日（土）	講堂	当センター調査係長 田城 武志 当センター調査員 相原 浩二 橋本 遼一	120人
特別展記念シンポジウム 「朝日谷2号墳－前湖古墳を探る」	平成9年10月18日（土）	講堂	愛媛大学教授 下條 信行 地島文理大学大学院教授 石野 博信 愛媛大学助教授 村上 恵通 当センター調査員 榎木 謙一	200人
企画展記念講演会 「朱の世界～古代伊豫の赤色顔料～」	平成10年2月21日（土）	講堂	別府大学助教授 本田 光子 当センター調査員 梶木 謙一	230人

③夏休み親子体験学習セミナー「むかし探検隊ーむかしを着よう！食べよう！ー」

第7回目を迎えた平成9年度夏休み体験学習セミナーは、子供たちの自由な発想で古代風衣装を作成し、また、火おこしを体験することで古代人の苦労や知恵を学ぼうというもので、子供たちの社会科学習の一助とするだけではなく、自主性と創造力を養うことをねらいとしている。また、その衣装を着装後、カマドを使用して煮炊きし、塩だけで味付けした古代風料理を試食した。

テ　ー　マ	日　時	会 場	参加者数
「むかしを着よう！食べよう！」	平成9年8月2日（土）	講 堂	40人

④遺跡めぐり

遺跡めぐりは、地域に所在する埋蔵文化財を参加者に身近に感じていただくことを目的として開催している。平成9年度は松山市北部の弥生～古墳時代の遺跡を中心に見学を行った。

テ　ー　マ	日　時	主 な 見 学 先	参加者数
「むかし・昔のまつやまを歩く」	平成9年5月1日（木）	愛媛県立歴史民俗資料館 岩崎遺跡・葉佐寺古墳	46人

⑤現地説明会

平成9年度は、合計13ヶ所の遺跡において現地説明会を開催した。こうした遺跡の見学を通してより一層埋蔵文化財への興味・感心を持ってもらうため、開催するものである。

中でも来住魔寺周辺の久米高畠遺跡や瀬戸風峠古墳などは、多くの強い感心が注がれた。



写真3 瀬戸風峠遺跡現地説明会

遺跡名	日時	内容	見学者数
久米高畠遺跡33~35次調査	平成9年6月7日(土)	縄文時代の落とし穴、弥生時代から古墳時代にかけての堅穴住居址・掘立柱建物跡・古代の区画濠など	300人
中村松田遺跡2次調査	平成9年7月15日(土)	弥生時代後期の堅穴住居址、溝など	150人
樽味四反地遺跡5次調査	平成9年7月19日(土)	弥生時代から古墳時代にかけての堅穴住居址、古代の河川跡など	60人
菊佐古墳2次調査	平成9年10月4日(土)	古墳時代後期の未盗掘の横穴式石室、棺材が散乱	400人
久米高畠遺跡36次調査	平成9年10月25日(土)	縄文時代晩期の堅穴住居址、弥生時代の土壙墓、古墳時代の堅穴住居址・掘立柱建物跡など	140人
筋達I遺跡	平成9年11月29日(土)	弥生時代から古墳時代にかけての堅穴住居址・土坑・古代の樋・中世の溝・墓など	80人
久米高畠遺跡38・39次調査	平成9年12月13日(土)	久米郡衛正倉院の外郭の濠状造構など	80人
瀬戸風峠遺跡	平成9年12月13日(土)	古墳時代後期の横穴式石室、箱式石棺など	80人
久米高畠遺跡37・40次調査	平成10年1月17日(土)	弥生時代の土坑、古墳時代から古代にかけての掘立柱建物跡、古代の道路状造構・横列など	50人
船ヶ谷遺跡2次調査	平成10年1月24日(土)	古墳時代の土坑、溝、河川跡など	50人
下丸屋遺跡3次調査	平成10年1月24日(土)	古墳時代の堅穴住居址・掘立柱建物跡、中世の掘立柱建物跡、近世の塚など	70人
岩崎遺跡	平成10年2月21日(土)	弥生時代の堅穴住居址・土坑群・大溝、古代の溝、中世の掘立柱建物跡と水田・畠地など	90人

⑥まいぶん映画会

まいぶん映画会は、一般観覧者を対象としており、第2・4土曜日及び毎週日曜日・祝祭日の午前10時・午後1時・3時の3回上映している。上映するVTRの内容は、考古学関係のわかりやすいアニメーションから専門的なものまで幅広い。

⑦博物館実習

平成6年度より博物館芸術員資格の取得を希望する人のための博物館実習を実施している。9年度は、8月18日～8月31日の日程で、愛媛大学生8名・東京学芸大学生1名の合計9名が受講し、館内実習・写真撮影・保存処理などのカリキュラムを受講した。

⑧考古学入門講座「チャレンジ考古学Ⅱ」

平成8年度より開講した。一般市民向けの「わかりやすい、やさしい考古学」を目指す。



**写真4 考古学入門講座
(第1回 繩文時代編)**

回	テーク	日 時	会場	講 師	受講者数
1	縄文時代	平成9年9月6日(土)	講堂	当センター調査員 栗田 茂敏	118人
2	弥生時代(集落)	平成9年10月4日(土)	講堂	当センター調査員 武正 良浩	113人
3	弥生時代(土器)	平成9年11月1日(土)	講堂	当センター調査員 梅木 雄一	94人
4	旧石器時代	平成9年12月6日(土)	講堂	広島大学文学部講師 藤野 次史	95人
5	発掘現場見学	平成9年9月20日(土)	岩崎遺跡	当センター調査員 宮内 健一	95人

3. 収集・保管活動

平成9年度は、温泉郡重信町在住の相原英明氏より松山市久米周辺出土の資料の寄託を受けた。

4. 広報・出版活動

広報・出版活動としては、当館主催の展示会・講演会などを開催する際に、多くの観覧者を募るためにポスター・パンフレットを発刊したり、発掘調査を行った遺跡について、発掘調査報告書を刊行している。研究者はもとより、一般市民においても、これらの出版物を大いに活用していただくことで、埋蔵文化財保護の啓蒙普及に役立つものと思われる。

出版物名	発行日	対象	版型・頁	部数
発掘調査速報展 案内状	平成9年5月	一般	ハガキ	4,000
◆ パンフレット	◆	◆	A4・48頁	600
発掘調査報告会 レジメ	◆	聴講者	A4・14頁	150
遺跡めぐり パンフレット	平成9年5月	参加者	A4・31頁	50
考古学入門講座 レジメ(1)	平成9年9月	受講生	A4・10頁	150
◆ ◆ (2)	平成9年10月	◆	A4・11頁	150
◆ ◆ (3)	平成9年11月	◆	A4・5頁	150
◆ ◆ (4)	平成9年12月	◆	A4・8頁	150
◆ ◆ (5)	平成9年9月	◆	A4・8頁	150
夏休み親子体験学習セミナー パンフレット	平成9年7月	参加者	A4・8頁	60
特別展 案内状	平成9年10月	一般	ハガキ	4,000
◆ ポスター	◆	◆	B2	500
◆ リーフレット	◆	◆	A4	5,000
◆ パンフレット	◆	◆	A4・4頁	3,000
◆ 図録	◆	◆	A4・30頁	500
◆ 記念シンポジウム レジメ	◆	聴講者	A4・30頁	250
企画展 案内状	平成10年2月	一般	ハガキ	4,000
◆ ポスター	◆	◆	B2	500
◆ リーフレット	◆	◆	A4	5,000
◆ パンフレット	◆	◆	A4・4頁	2,000
◆ 記念講演会 レジメ	◆	聴講者	A4・6頁	250

報 告 書 名	発 行 日	対 象	版 型・頁	部 数
松山市文化財調査報告書60 釜ノ口遺跡Ⅱ -6・7・8次調査-	平成9年8月	一般	A4本文 192頁 写真図版 51頁	1,000
松山市文化財調査報告書61 松山町7号墳	平成9年9月	一般	A4本文 29頁 写真図版 17頁	1,000
松山市埋蔵文化財調査年報(平成8年度)	平成9年9月	一般	A4本文 141頁	1,000

5. 施設の利用

回	テ　マ	日　時	会場	講　師
43	「伊予における弥生の打製石器」	平成9年7月19日(土)	講堂	当センター調査員 加島 次郎
44	「伊予における古墳時代中期社会の検討課題」	平成9年9月27日(土)	講堂	愛媛県立歴史文化博物館学芸員 富田 尚夫
45	「久米宮衛遺跡群調査の現状と課題」	平成9年11月22日(土)	講堂	当センター調査員 橋本 雄一
46	「南西四国部彌形土器の成立」	平成10年1月31日(土)	講堂	昭和県立歴史文化財調査センター調査員 柴田 吕光
47	「直弧文」	平成10年3月28日(土)	講堂	日本考古学会会員 名本二六雄

当センターでは、主催事業だけではなく、考古学関連団体主催のシンポジウムや研究会の会場として利用してもらい、広く一般市民にも積極的に参加を呼びかけている。特に、愛媛大学法文学部下條信行教授を会長とした瀬戸内海考古学研究会が毎月第4土曜日に定期的に開催されている。

6. 職員研修・会議

当センターでは、毎年、奈良国立文化財研究所で実施されている発掘技術者研修をはじめとして、各種研修・行事に参加している。こうした研修や会議に積極的に参加することにより、職員の資質向上と業務の円滑な推進を図っている。

研修・会議名	開催地	日程	参加者数
第9回埋蔵文化財考古技術研究会	奈良市	平成9年7月4日～7月5日	1名
全国埋蔵文化財法人連絡協議会 コンピューター等研究委員会	徳島県 板野町	平成9年9月4日～9月5日	2名
全国埋蔵文化財法人連絡協議会総会	東京都	平成9年6月12日～6月13日	1名
全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会	長野市	平成9年10月8日～10月9日	2名
全国埋蔵文化財法人連絡協議会 中国・四国・九州ブロック会議	広島市	平成9年11月6日～11月7日	3名
四国埋蔵文化財法人実務担当者会	高知市	平成9年11月13日～11月14日	2名

7. 資料の貸出

当センターでは、各博物館や教育委員会主催事業の出土品要望に応えるべく、可能な限りの資料の貸出を行っている。

貸出資料名	遺跡名	点数	貸出目的(展示期間)	貸出先
出土遺物写真	東山寺ヶ森2・4・8号墳 北谷王神ノ木古墳	5点	映像資料 (平成9年5月21日～平成9年9月30日)	跡竹中人工道具館
出土遺物(上器)	南中学校遺跡	一括	出土資料の調査研究 (平成9年6月20日～平成10年3月31日)	愛媛大学法文学部 青田 広
遺跡写真他	柴佐池古墳	19点	ロビー写真展 (平成9年6月23日～平成9年7月25日)	伊予銀行小野支店
出土遺物写真	大隅遺跡1次調査	2点	雑誌に掲載 (平成9年6月30日～平成9年9月30日)	愛媛大学法文学部 下條 信行
出土遺物写真	文京遺跡3次調査	3点	大学内資料集に掲載 (平成9年7月1日～平成9年7月31日)	愛媛大学法文学部 三吉 秀充

啓蒙普及事業

貸出資料名	遺跡名	点数	貸出目的(展示期間)	貸出先
出土遺物(木炭)	瀬戸風崎4号墳	約200g	展示 (平成9年9月12日～平成9年9月31日)	伊野町紙の博物館 高知県の炭と文化研究会
出土遺物写真	市内遺跡	21点	機関紙に掲載 (平成9年8月8日～平成9年12月15日)	日本コマツテクニカルセンター 井本 昭
復元遺物(復)写真	古照遺跡	1点	出版物に掲載 (平成9年10月27日～平成9年11月30日)	株新人物往来社
展示風景写真	考古館内	4点	出版物に掲載 (平成9年12月10日～平成10年3月31日)	株ラジタムコミュニケーションズ
考古館事案写真	考古館内	2点	出版物に掲載 (平成9年12月19日～平成9年12月25日)	愛媛県生涯学習センター・ 振興課生涯学習研究科 井上 美明
出土遺物写真 (彩文土器)	大洞遺跡1次調査	1点	刊行物に掲載 (平成10年1月12日～平成10年1月27日)	愛媛新聞社事業局事業部
遺跡写真	久米周辺地域遺跡	6点	ロビーアート展	伊予銀行久米支店 山本 裕三

松山市考古館 月別入館者数調

平成9年度(平成9年4月1日～平成10年3月31日)

月	開館日数	一般	児童生徒	団体一般	団体児童生徒	老人	小中高生等 無料入館者	連 報 展 等 無料入館者	入館者合計	一日平均 入館者
4	25	260	183	38	0	58	1,028	324	1,891	76
5	27	270	69	121	65	58	1,361	411	2,355	87
6	25	200	62	41	0	174	22	570	1,069	43
7	27	124	59	150	0	84	251	546	1,214	45
8	27	204	134	5	19	86	17	867	1,332	49
9	24	131	27	166	0	65	0	703	1,092	46
10	26	416	26	350	182	39	148	565	1,726	66
11	27	541	60	201	27	56	197	425	1,507	56
12	23	190	7	3	0	32	0	269	501	22
1	20	136	14	25	0	100	0	149	424	21
2	23	231	18	24	0	31	6	640	950	41
3	26	470	86	41	0	80	685	502	1,864	72
計	300	3,173	745	1,165	293	863	3,715	5,971	15,925	53

8. 松山市文化財情報館の開館

開館 平成9年5月25日(日)

目的 松山市文化財情報館は、松山市内で出土した文化財を整理・保管し、その活用を図るとともに市民に開かれた歴史学習の場の提供を行うための施設設備の充実を図り、埋蔵文化財センター及び考古館と一体となって文化財保護施設として有機的な活用を図ることを目的としている。

施設 鉄筋コンクリート造り2階建て

敷地面積 9,142.36m² 建築面積 437.42m² 延床面積 751.01m²

1階……公開準備室・歴史学習室・エントランスホール・事務室・整理室・その他

2階……遺物収蔵庫

開館日 月～金曜日(祝祭日を除く)

開館時間 午前9時～午後5時(ただし、入館は午後4時30分まで)

写真5 考古館（左側）と
情報館（右側）写真6 探りま専科
「海人」のなりたち

テー マ	日 時	会 場
ウォーキングアドベンチャー！熱田津を探せ！	平成9年5月25日(日)	文化財情報館周辺
遊びま専科：古代の道具作り「つりばり」 講師：ボイスカウト松山地区指導員 井上	平成9年8月31日(日)	文化財情報館 歴史学習室 市内釣り堀
探りま専科：古代の謡「熱田津を探せ」(講演会) 講師：愛媛大学教授 松原弘宣	平成9年9月28日(日)	考古館 講堂
巡りま専科：「伊予の古代遺跡ツアー」 講師：愛媛大学教授 松原弘宣	平成9年11月2日(日)	松山市内遺跡
巡りま専科：「伊予の“まほろば・万葉”を巡る」	平成10年1月18日(日)	松山市内
探りま専科：「“海人”的なりたち－体験!!古代の浜辺くらし－」 講師：アウトドアインストラクター 真木 謙	平成10年3月22日(日)	松山市内

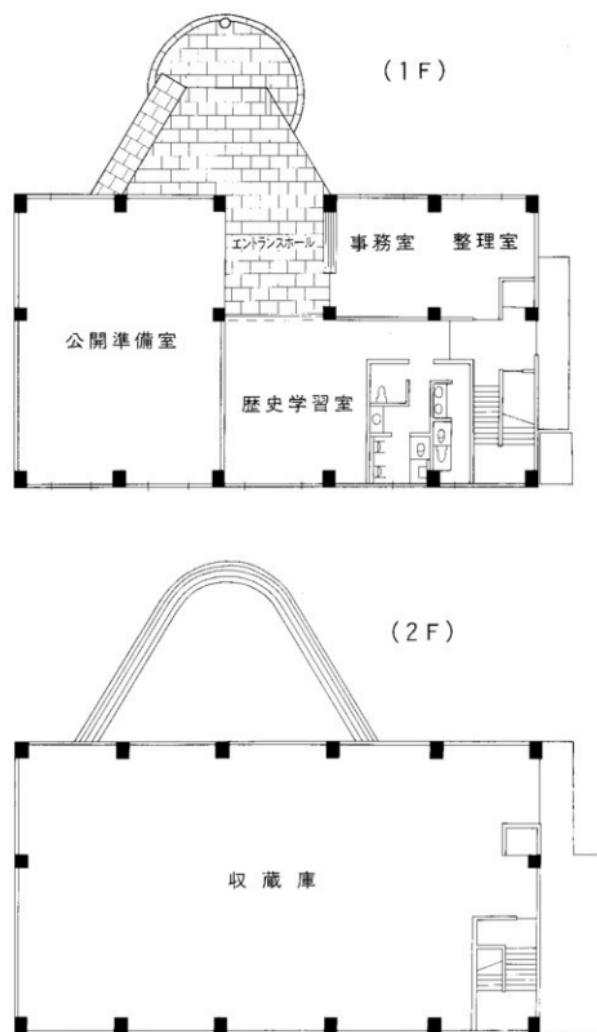


図1 松山市文化財情報館 平面図

松山市埋蔵文化財調査年報 X

平成10年9月1日 発行

編集 松山市教育委員会
発行 〒790-0003 松山市三番町6丁目6-1
TEL (089) 948-6605

財団法人 松山市生涯学習振興財団
埋蔵文化財センター
〒791-8032 松山市南斎院町乙67番地6
TEL (089) 923-6363

印刷 岡田印刷株式会社
〒790-0012 松山市湊町7丁目1-8
TEL (089) 941-9111

